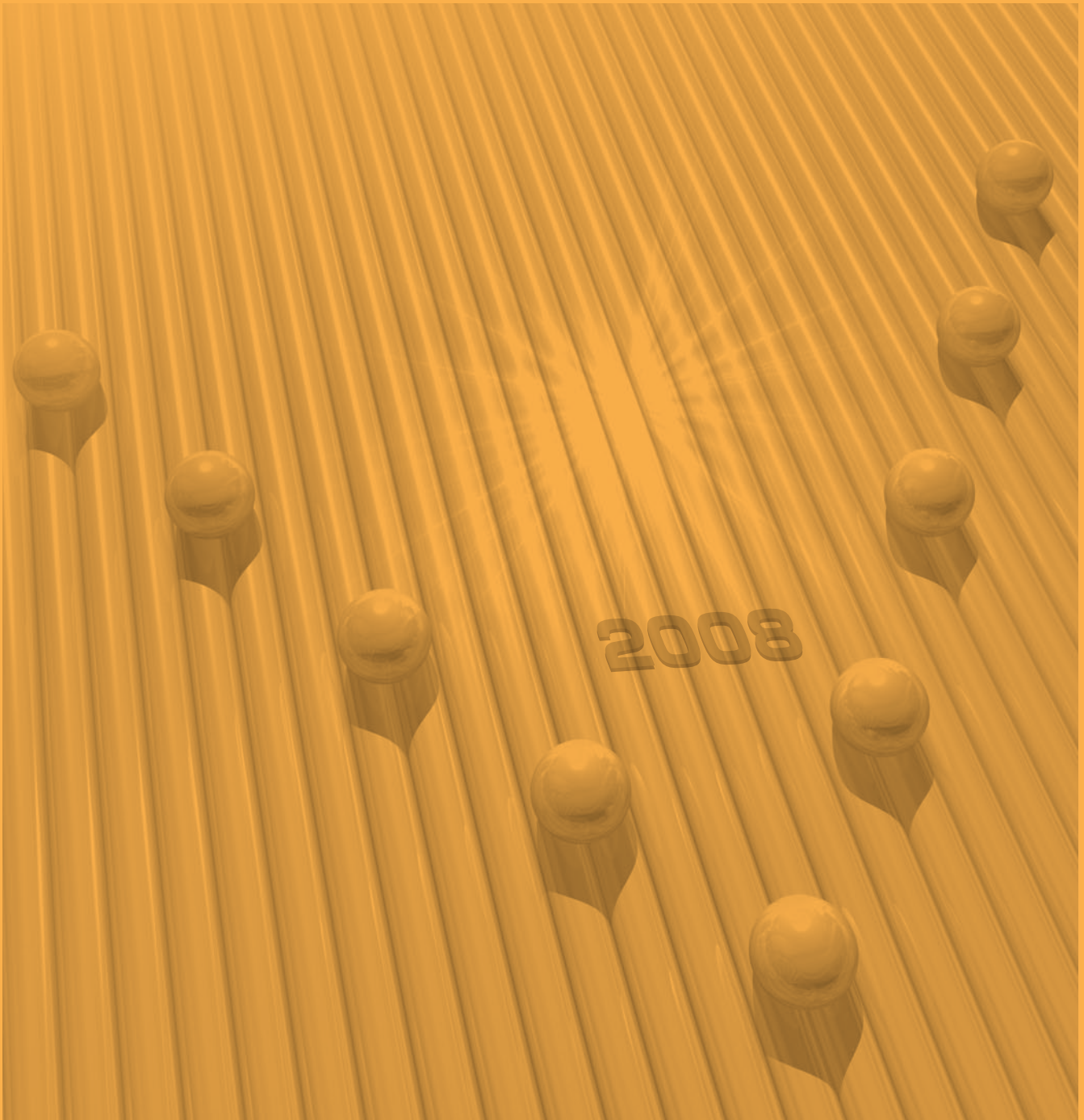


2008年度

# シラバス

## 言語文化学科



獨協大学

# 【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

★本シラバスは、2003年度～2006年度入学者用の「外国語学部言語文化学科」授業科目シラバスです。

## I 目次について

### 【シラバスページの検索方法】

- ① 目次の科目は学則別表と同じ順序で記載されています。
- ② 入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。
- ③ 目次の順番とシラバスの掲載順が異なることがあります。科目名とページ番号をよく確認してください。
- ④ 本年度開講のない科目は掲載していません。

### 【履修不可について】

- ① 目次には「履修不可」学科が記載されています。  
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

#### ② 表記方法

全：外国語学部言語文化学科以外全て	経：経済学部	法：法学部
外：外国語学部	済：経済学科	律：法律学科
独：ドイツ語学科	営：経営学科	国：国際関係法学科
英：英語学科		総：総合政策学科
仏：フランス語学科		

## II シラバス本文の見方

- ① 開講学期
- ② 科目名  
このシラバスは、2003年度～2006年度の入学者を対象にした科目を掲載しています。2002年度以前入学者は、国際教養学部係窓口にご相談ください。
- ③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。
- ④ 学期の授業計画についての欄です。毎回ごとに講義するテーマが記載してあります。
- ⑤ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。
- ⑥ 評価方法について記載されています。
- ⑦ ページの上段は春学期科目、下段は秋学期科目です。

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
	第1週	
	<b>春学期</b>	
	第13週	
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
	第1週	
	<b>秋学期</b>	
	第13週	
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

### 【注意事項】

#### 1.履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。必ずシラバス本文(③の部分)および「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。

#### 2.定員

言語文化学科の一部科目および「全学共通授業科目」は定員を設けています。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

#### 3.記載方法

一部の科目については記載方法が異なる場合があります。

#### 4.変更等

内容等の変更があった場合には、履修登録会場または教務課掲示板にてお知らせします。登録前に必ず確認してください。

# 外国語学部言語文化学科授業科目(2003年度～2006年度入学者用)

## 目次 学科基礎科目

### 「基礎講座」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
02188	春	ボランティア論	青柳 多恵子	水3	2	1		1
08659	春	現代世界論	佐藤 勤治	月4	2	1	全	2
		コンピュータ基礎演習	各担当教員		2	1	全	

※「コンピュータ基礎演習」のシラバスは、外国語学部共通科目「情報科学各論」の頁を参照する。

※過去にコンピュータ基礎演習を修得した場合、過去に修得したコンピュータ基礎演習の副題の異なる情報科学各論を登録すること。

### 「概論」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13566	春	言語文化概論	下川 浩	火5	2	1		3
02273	秋	言語文化概論	下川 浩	火5	2	1		3
02271	秋	比較思想概論	谷口 郁夫	月4	2	1		4
01969	春	日本文化論a	飯島 一彦	木3	2	1		5
02050	春	日本語研究概論a	桂 千佳子	木4	2	1		6
02051	秋	日本語研究概論b	桂 千佳子	木4	2	1		6
02104	春	スペイン・ラテンアメリカ文化論a	二宮 哲	月5	2	1		7
02105	秋	スペイン・ラテンアメリカ文化論b	佐藤 勤治	月5	2	1		7
01905	春	現代中国論a	上村 幸治	月4	2	1	法	8
01906	秋	現代中国論b	上村 幸治	月4	2	1	法	8

## 学科共通科目

### 「外国語」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
02093	春	英語演習(Communicative English 1a)	R. ダラム	火2	2	3	全	9
02094	秋	英語演習(Communicative English 1b)	R. ダラム	火2	2	3	全	9
13156	春	英語演習(Communicative English 2a)	R. ダラム	木3	2	3	全	10
13157	秋	英語演習(Communicative English 2b)	R. ダラム	木3	2	3	全	10
13165	春	英語演習(Advertising Strategies and Techniques)	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	11
13166	秋	英語演習(Media Studies)	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	11
10632	春	英語演習(Understanding Japanese-American Experience through Works of Literature)	臼井 芳子	水2	2	3	全	12
10636	秋	英語演習(Understanding Diversity in Japan)	臼井 芳子	水2	2	3	全	12
09780	春	英語演習(Story Telling 1)	臼井 芳子	金1	2	3	全	13
09781	秋	英語演習(Story Telling 2)	臼井 芳子	金1	2	3	全	13
15265	春	英語演習(Global Issues a)	岡崎 享恭	月4	2	3	全	14
15266	秋	英語演習(Global Issues b)	岡崎 享恭	水3	2	3	全	14
13158	春	英語演習(通訳・翻訳)	柴原 智幸	水4	2	3	全	15
13159	秋	英語演習(通訳・翻訳)	柴原 智幸	水4	2	3	全	15
14844	春	英語演習(スピーキングa)	山本 英政	木3	2	3	全	16
14845	秋	英語演習(読解と発話)	山本 英政	木3	2	3	全	16

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
10638	春	スペイン語演習	C. ガリード	火3	2	3	全	17
10641	秋	スペイン語演習	C. ガリード	火3	2	3	全	17
09414	春	スペイン語演習	J. I. ドメネク・アロンソ	火2	2	3	全	18
09415	秋	スペイン語演習	J. I. ドメネク・アロンソ	火2	2	3	全	18
09417	春	スペイン語演習	N. ウエチ	月2	2	3	全	19
09416	秋	スペイン語演習	N. ウエチ	月2	2	3	全	19
10639	春	スペイン語演習	兒島 峰	月2	2	3	全	20
10642	秋	スペイン語演習	兒島 峰	月2	2	3	全	20
10640	春	スペイン語演習	中井 博康	月3	2	3	全	21
10643	秋	スペイン語演習	中井 博康	月3	2	3	全	21
10645	春	中国語演習(中国語で読む中国社会a)	厳 明	火2	2	3	全	22
10648	秋	中国語演習(中国語で読む中国社会b)	厳 明	火2	2	3	全	22
09771	春	中国語演習(中国現代社会a)	上村 幸治	水2	2	3	全	23
09772	秋	中国語演習(中国現代社会b)	上村 幸治	水2	2	3	全	23
10644	春	中国語演習(中日翻訳入門)	永田 小絵	水1	2	3	全	24
10647	秋	中国語演習(中日通訳入門)	永田 小絵	水2	2	3	全	24
09422	春	中国語演習(中国語ビジネス文書a)	吉田 桂子	木3	2	3	全	25
09423	秋	中国語演習(中国語ビジネス文書b)	吉田 桂子	木3	2	3	全	25
10646	春	中国語演習(ビジネス中国語会話a)	吉田 桂子	木4	2	3	全	26
10649	秋	中国語演習(ビジネス中国語会話b)	吉田 桂子	木4	2	3	全	26
09420	春	中国語演習(中国近代戯曲)	劉 岸麗	木2	2	3	全	27
09421	秋	中国語演習(中国近代エッセイ)	劉 岸麗	木2	2	3	全	27

## 学科専門科目

### 「日本研究」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06317	春	日本思想史a	川村 肇	木3	2	2	全	28
06319	春	日本文化・芸能論a	飯島 一彦	水2	2	2		29
06320	秋	日本文化・芸能論b	飯島 一彦	水2	2	2		29
06479	春	日本近現代史a	丸浜 昭	火5	2	2	全	30
06480	秋	日本近現代史b	丸浜 昭	火5	2	2	全	30
02352	春	日本文学	福沢 健	月4	2	2		31
07116	春	日本経済論a	波形 昭一	火5	2	2	経・法	32
07117	秋	日本経済論b	波形 昭一	火5	2	2	経・法	32
06281	春	日本政治外交史a	福永 文夫	金3	2	2	経・法	33
06282	秋	日本政治外交史b	福永 文夫	金3	2	2	経・法	33
15113	秋	日本研究特殊講義(文献読解)	飯島 一彦	木5	2	2		34
15114	春	日本研究特殊講義(写本を読む)	飯島 一彦	木5	2	2	全	35
15115	秋	日本研究特殊講義(碑文を読む)	飯島 一彦	木3	2	2	全	35
15110	春	日本研究特殊講義(企業経営)	黒川 文子	木5	2	2	全	36
07119	春	日本研究特殊講義(能楽論)	瀬尾 菊次	火2	2	2	全	37
07120	秋	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾 菊次	火2	2	2	全	37
15112	春	日本研究特殊講義(民俗学)	長野 隆之	金1	2	2	全	38
15111	秋	日本研究特殊講義(地域文化)	長野 隆之	金1	2	2	全	38



## 「日本語教育研究」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06321	春	日本語文法論a	浅山 佳郎	月1	2	2		39
06322	秋	日本語文法論b	浅山 佳郎	月1	2	2		39
06323	春	日本語音声学a	磯村 一弘	月5	2	2		40
06324	秋	日本語音声学b	磯村 一弘	月5	2	2		40
06325	春	対照言語学a	中西 家栄子	金2	2	2		41
06326	秋	対照言語学b	中西 家栄子	金2	2	2		41
14564	秋	日本語彙・意味論	浅山 佳郎	金1	2	2		42
06327	春	日本語教授法 I a	中西 家栄子	木5	2	2		43
06328	秋	日本語教授法 I b	中西 家栄子	木5	2	2		43
02192	春	日本語教授法 II	浅山 佳郎	火1	2	4		44
02080	春	日本語教授法 II	中西 家栄子	木2	2	4		45
02036	春	日本語教授法 II	松浦 恵津子	金2	2	4		46
01884	秋	日本語学a	中西 家栄子	水1	2	1	全	47
01885	秋	日本語学b	浅山 佳郎	木1	2	1	全	48
02163	春	日本語教育論	中西 家栄子	水1	2	1	全	49
02353	春	日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論a)	中西 家栄子	火2	2	2		50
02354	秋	日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論b)	中西 家栄子	火2	2	2		50

## 「情報・コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06329	春	自然言語処理a	呉 浩東	木3	2	2		51
06330	秋	自然言語処理b	呉 浩東	木3	2	2		51
07121	春	プログラミング論a(プログラミング論・自然言語処理入門)	松山 恵美子	月4	2	2	全	52
07122	秋	プログラミング論b(プログラミング論・自然言語処理入門)	松山 恵美子	月4	2	2	全	52
11818	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	加藤 尚吾	月3	2	2	経・法	53
11819	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	加藤 尚吾	月3	2	2	経・法	53
07127	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	火2	2	2	経・法	54
07128	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	火2	2	2	経・法	54
07123	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	堀江 郁美	金2	2	2	経・法	55
07124	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	堀江 郁美	金2	2	2	経・法	55
11815	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	森 園子	水3	2	2	経・法	56
11816	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	森 園子	水3	2	2	経・法	56
02291	春	通訳翻訳論	永田 小絵	水3	2	2	全	57
06331	春	異文化間コミュニケーション論a	岡村 圭子	木1	2	2		58
06332	秋	異文化間コミュニケーション論b	山本 英政	月2	2	2		58
11755	秋	マス・コミュニケーション論b	上村 幸治	木3	2	2		59
02355	春	認知科学	田口 雅徳	水2	2	2		60
02356	秋	認知科学	田口 雅徳	水2	2	2		60
06333	春	人間関係とカウンセリングa	瀧本 孝雄	木3	2	2		61
08476	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	J. スティベンソン	月3	2	2	全	62
08477	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	J. スティベンソン	月3	2	2	全	62
07131	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(コーパス言語学入門)	浅山 佳郎	火1	2	2		57
15116	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(国際語としての英語)	臼井 芳子	火3	2	2	全	63
15117	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(多言語環境と英語)	臼井 芳子	火3	2	2	全	63

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
15218	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・英語)	柴原 智幸	水3	2	2		64
15240	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・英語)	柴原 智幸	水3	2	2		64
14616	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		65
15119	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		65
16992	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・中国語)	永田 小絵	水2	2	2		66
15118	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・中国語)	永田 小絵	水1	2	2		66

## 「地域研究」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07132	秋	地域文化論 i a	佐藤 勤治	木4	2	2		67
07133	春	地域文化論 i b	佐藤 勤治	木4	2	2		67
07135	春	地域文化論 ii a	二宮 哲	月4	2	2		68
07134	秋	地域文化論 ii b	二宮 哲	月4	2	2		68
07136	春	地域文化論 iii a	武信 彰	木4	2	2		69
07137	秋	地域文化論 iii b	武信 彰	木4	2	2		69
14588	春	地域文化論 iv a	永田 小絵	月3	2	2		70
14589	秋	地域文化論 iv b	永田 小絵	月3	2	2		70
06278	春	地域経済論 i a	今井 圭子	月3	2	2		71
06279	秋	地域経済論 i b	今井 圭子	月3	2	2		71
07140	春	地域経済論 ii a	森 健	金3	2	2	経・法	72
07141	秋	地域経済論 ii b	森 健	金3	2	2	経・法	72
07144	春	地域経済論 iii a	全 載旭	木2	2	2	経・法	73
07145	秋	地域経済論 iii b	全 載旭	木2	2	2	経・法	73
07147	秋	比較社会論b	井上 兼行	木2	2	2		74
07156	春	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明a)	P. ラゴ	金3	2	2		75
07157	秋	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明b)	P. ラゴ	金3	2	2		75
07151	秋	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民俗と文化b)	井上 兼行	火4	2	2		76
11820	春	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究a)	浦部 浩之	月2	2	2		77
11821	秋	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究b)	浦部 浩之	月2	2	2		77
15089	春	地域社会文化論特殊講義(中国文学研究古典)	巖 明	火3	2	2		78
15090	秋	地域社会文化論特殊講義(中国文学研究現代)	巖 明	火3	2	2		78
18123	春	地域社会文化論特殊講義(日韓文化の類似性と異質性a)	金 雄熙	木3	2	2		79
18124	秋	地域社会文化論特殊講義(日韓文化の類似性と異質性b)	金 雄熙	木3	2	2		79
15099	春	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論c)	金 貞我	月5	2	2	全	80
15093	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国の言語文化)	金 秀晶	火5	2	2	全	81
15097	春	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論a)	金 秀晶	火5	2	2	全	82
15098	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論b)	金 秀晶	木3	2	2	全	82
15096	秋	地域社会文化論特殊講義(日韓交流史)	金 熙淑	月4	2	2	全	83
07154	春	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶものa)	熊谷 哲也	木4	2	2	全	84
07155	秋	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶものb)	熊谷 哲也	木4	2	2	全	84
15180	春	地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	85
15087	秋	地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火2	2	2	全	86
15104	春	地域社会文化論特殊講義(アメリカ合衆国のラティノ社会)	佐藤 勤治	水2	2	2		87
07152	春	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーa)	佐藤 唯行	木3	2	2		88
07153	秋	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーb)	佐藤 唯行	木3	2	2		88
15095	春	地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論b)	全 載旭	水3	2	2	全	89
15086	秋	地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法)	二宮 哲	月5	2	2	全	90

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
15091	春	地域社会文化論特殊講義(韓国史)	平田 由紀江	火3	2	2	全	91
15094	春	地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論a)	平田 由紀江	水2	2	2	全	92
15092	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国社会論)	平田 由紀江	水2	2	2	全	92
07575	春	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術a)	藤原 和彦	火2	2	2	全	93
07576	秋	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術b)	藤原 和彦	火2	2	2	全	93
13466	春	地域社会文化論特殊講義(文化史入門)	古川 堅治	水2	2	2	全	94
15106	秋	地域社会文化論特殊講義(思想と文化)	松丸 壽雄	金3	2	2		95
07148	春	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活a)	松本 栄次	月4	2	2		96
07149	秋	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活b)	松本 栄次	月4	2	2		96
15179	春	地域社会文化論特殊講義(ブラジル研究)	矢澤 達宏	水4	2	2	全	97
15102	春	地域社会文化論特殊講義(英語圏の文化)	山本 英政	月4	2	2	全	98
15103	秋	地域社会文化論特殊講義(英語圏事情)	山本 英政	月4	2	2	全	98
07161	春	比較文化論特殊講義(日中文化比較論a)	巖 明	金2	2	2		99
07162	秋	比較文化論特殊講義(日中文化比較論b)	巖 明	金2	2	2		99
01822	春	比較文化論特殊講義(グローバル化とローカル文化)	岡村 圭子	水2	2	2		100
15177	秋	比較文化論特殊講義(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	2	全	100
15108	春	比較文化論特殊講義(日韓比較文化論b)	金 熙淑	月4	2	2	全	101
15107	秋	比較文化論特殊講義(日韓比較文化論a)	金 熙淑	月5	2	2	全	101
15109	春	比較文化論特殊講義(大衆文化論)	木本 玲一	火3	2	2	全	102
01823	秋	比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)	田房 由起子	水2	2	2		103

## 「国際交流」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07366	春	国際関係概論a	浦部 浩之	金4	2	2		104
07367	秋	国際関係概論b	浦部 浩之	金4	2	2		104
06275	春	国際機構論a	鈴木 淳一	火3	2	2	経・法	105
06276	秋	国際機構論b	鈴木 淳一	火3	2	2	経・法	105
07163	春	地球環境論a(地理学)	北崎 幸之助	木3	2	1	全	106
07164	秋	地球環境論b(地理学)	北崎 幸之助	木3	2	1	全	106
07166	春	地球環境論a(太陽系)	福井 尚生	月1	2	2		107
07167	秋	地球環境論b(太陽系)	福井 尚生	月1	2	2		107
11823	春	国際経済論a	益山 光央	火3	2	2	経・法	108
11824	秋	国際経済論b	益山 光央	火3	2	2	経・法	108
07174	春	国際政治論a	星野 昭吉	月2	2	2	経・法	109
07175	秋	国際政治論b	星野 昭吉	月2	2	2	経・法	109
11753	春	国際交流特殊講義(蘭学を学んだ人たちa)	加藤 僖重	火3	2	2		110
11754	秋	国際交流特殊講義(蘭学を学んだ人たちb)	加藤 僖重	火3	2	2		110
13464	春	国際交流特殊講義(国際関係・日米中)	上村 幸治	水1	2	2		111
13465	秋	国際交流特殊講義(NGO論)	清水 俊弘	水5	2	2	全	112

## 卒業論文

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		卒業論文	各担当教員		4	4	全	113

# 開設科目一覧表

## 外国語学部共通科目

時間割コード	開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	定員	単位数	開始学年	履修不可	ページ
07690	総合講座	若森 栄樹	春	水3		2	1	養・経・法	115
07691	総合講座	若森 栄樹	秋	水3		2	1	養・経・法	115
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	50	2	1	養・経・法	116
	情報科学概論b	休講							
	情報科学各論(入門)	各担当教員						養・経・法	117
00208		内田 俊郎	春	木4	50	2	1		
00058		金子 憲一	春	月5	60	2	1		
00093		田中 雅英	春	火2	60	2	1		
00074		田中 雅英	春	火3	60	2	1		
00138		長崎 等	春	水1	60	2	1		
00253		松山 恵美子	春	月2	50	2	1		
13304		内田 俊郎	秋	木4	60	2	1		
		情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員						養・経・法
00019		内田 俊郎	春	木2	60	2	1		
00044		金子 憲一	春	月4	60	2	1		
00255		松山 恵美子	春	月3	60	2	1		
13306		内田 俊郎	秋	木3	60	2	1		
00076		田中 雅英	秋	火2	60	2	1		
00109		田中 雅英	秋	火4	60	2	1		
00141		長崎 等	秋	水1	60	2	1		
00231		松山 恵美子	秋	月3	60	2	1		
13162	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金子 憲一	春	月3	60	2	1		119
13164		金子 憲一	秋	月3	60	2	1		119
	情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員						養・経・法	120
00195		内田 俊郎	春	木3	60	2	1		
00210		内田 俊郎	秋	木2	60	2	1		
00060		金子 憲一	秋	月4	60	2	1		
00096		田中 雅英	秋	火3	60	2	1		
	情報科学各論(中級)								
15225	※(プレゼンテーション)	金井 満	春	火2	30	2	1	養・経・法	121
15226	※(プレゼンテーション)	金井 満	秋	火2	30	2	1	養・経・法	121
15227	※(万能ツールとしてのExcel)	金井 満	春	木2	30	2	1	養・経・法	122
15228	※(万能ツールとしてのExcel)	金井 満	秋	木2	30	2	1	養・経・法	122
15229	※(Wordを使いこなす)	工藤 達也	春	火3	30	2	1	養・経・法	123
15230	※(Wordを使いこなす)	工藤 達也	秋	火3	30	2	1	養・経・法	123
14281	※(HTML正しく伝えるために)	田中 善英	春	金4	30	2	1	養・経・法	124
14282	※(HTML美しく見せるために)	田中 善英	秋	金4	30	2	1	養・経・法	124
00048	(HTML応用1)	金子 憲一	秋	月5	30	2	1	養・経・法	125
00239	(表計算応用1)	松山 恵美子	秋	月2	30	2	1	養・経・法	126
16993	※(自然言語データベース(コーパス)の処理技法入門1)	木村 恵	春	木4	50	2	2	英・養・経・法	127
15232	※(自然言語データベース(コーパス)の処理技法入門2)	木村 恵	秋	木4	50	2	2	英・養・経・法	127
16994	※(言葉の特徴をコンピュータで見る1)	吉成 雄一郎	春	金2	50	2	2	英・養・経・法	128
15234	※(言葉の特徴をコンピュータで見る2)	吉成 雄一郎	秋	金2	50	2	2	英・養・経・法	128
00087	経済原論a	野村 容康	春	火1	350	2	1	養・経・法	129
00088	経済原論b	野村 容康	秋	火1	350	2	1	養・経・法	129
	社会心理学a	休講							
	社会心理学b	休講							

◎定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。  
 ※のある科目は、言語文化学科「コンピュータ基礎演習」として、履修できません。



(春) (春)	ボランティア論	担当者	青柳 多恵子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ボランティアの諸様相について検証し、基本的ボランティアの組織（NPO・NGO）活動を理解。  原義である自主性・無償性・社会性と歴史的意義と活動を現代社会の中で実施検証していくフィールドワークである。  歴史的・社会的変遷と関連事項（宗教・医学）の探索と解明。  産業社会と人間生活の方向性の接点を解明し、本来人間が保持している感情（優しさ・介護心・いたわり）の表現と活用の意義を理解し、社会的位置（小地域的・組織的・国際的）の研究と組織的な協力関係や団体のマネジメント能力の基本的知識の把握  救急法の体得（心肺蘇生術）  （介助・手話の知識習得）  手話入門・草加市探訪</p>		<p>① 4/9 青柳 講座ガイダンス・班編成  ② 4/16 青柳 草加市の福祉施策について  ③ 4/23 青柳 キャンパス内のボランティア  ④ 4/30 学外講師1) 社会・養護施設・日常での必要性  ⑤ 5/14 学外 (老人体験・介助研究)  ⑥ 5/21 学外講師2) 手話  ⑦ 5/28 救急法1) 災害時の応急法について  ⑧ 6/4 救急法2) 心肺蘇生法  ⑨ 6/11 青柳 NPOマネジメントについて  ⑩ 6/18 学外講師2) 組織運営の基礎と実情について  ⑪ 6/25 青柳 モチベーションとコミュニケーションについて  ⑫ 7/2 和田 (災害を想定して、自然の中での生活体験  ⑬ 7/9 青柳 草加市探訪・まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリント配布		実験実技を重んじる講座である 出席重視・レポート提出による評価	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)	現代世界論	担当者	佐藤 勘治
<b>講義目標</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的なテーマに沿って、受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究への入り口になることを目的にしている。そのため、この授業が主な対象としているのは、一年目の学生である。</p> <p>現代世界は、受講生や担当教員もその構成員である。それゆえ、現代世界の諸問題は、ほかでもない、我々自身の問題であることを講義を通じて明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。</p>		<p>1 佐藤勘治 <u>総論 ポストコロニアルとしての現代世界</u></p> <p>2 飯島一彦 <u>多文化社会としての日本</u></p> <p>3 岡村圭子 <u>グローバル社会と文化</u></p> <p>4 永田小絵 <u>現代社会における通訳という仕事</u></p> <p>5 田口雅徳 <u>顔の心理学</u></p> <p>6 工藤律子 (ジャーナリスト) <u>ストリートチルドレン:路上でくらす子供たちが語るもの</u></p> <p>7 佐藤勘治 <u>先住民とはだれか? アメリカ大陸と日本</u></p> <p>8 平田由紀江 <u>旅する食 Traveling Foods</u></p> <p>9 陳天璽 <u>「無国籍」を生きるとは?</u></p> <p>10 未定 (ジャーナリスト) <u>平和構築のために何が必要か?</u></p> <p>11 川村肇 <u>「共和国」という考え方と近代</u></p> <p>12 依田珠江 <u>社会的弱者のスポーツする権利</u></p> <p>13 松丸壽雄 <u>現代世界と私たち</u></p>	
<b>講義概要</b>			
<p>主に、言語文化学科所属教員にそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。多文化共生、コミュニケーション、平和、歴史、スポーツ、哲学、心理学など多様な視角から、それぞれ問題提起をしてもらう。統一のテーマは設定していない。現代世界の全体像というよりも、その一側面を論じることになる。</p> <p>ゲストスピーカーでは、工藤律子氏 (ジャーナリスト) を招いて、ストリートチルドレンについて、また、自らが無国籍の経験をもつ陳天璽氏 (国立民族学博物館) を招いて、無国籍の現状やその問題点を講演していただくほか、平和構築についてアフガニスタンなどで取材経験があるジャーナリストを招くつもりでいる。</p> <p>テーマや担当者の変更の可能性がある。</p>			
<b>受講生への要望</b>			
<p>授業の最後に、質疑応答の時間を設ける。積極的な発言を期待している。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>毎回の小レポート。期末のレポート。</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>			
<p>参考文献 陳天璽『無国籍』新潮社 2005 年 工藤律子『ストリートチルドレン:メキシコシティの路上に生きる』岩波ジュニア新書</p>			

(春) (春)	言語文化概論	担当者	下川 浩
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。</p> <p>文化とは、ある集団に共通のもの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。</p> <p>言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。</p> <p>遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまな民族に分かれ、言語も異なってきました。</p> <p>コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。</p> <p>多くの文化・言語が減ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人と人が出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？</li> <li>2. 動物の伝え合い</li> <li>3. コトバによる伝え合いとよらない伝え合い</li> <li>4. 伝え合いの手段・産物である言語とは？</li> <li>5. 世界にはどのような言語があるのか？</li> <li>6. 民族の形成</li> <li>7. 文化の形成・変化</li> <li>8. 民族と宗教</li> <li>9. 民族と国家</li> <li>10. 少数民族問題と民族・地域紛争</li> <li>11. はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？</li> <li>12. ウソとコトバの魔術</li> <li>13. 話し合いによる平和で豊かな世界の建設</li> </ol> <p>毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りませ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
下川 浩『どうしてそんなにダメされる？』(国際語学社)		授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを提出し、それを自己評価してもらい、これにもとづき評価します。	

(秋) (秋)	言語文化概論	担当者	下川 浩
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。</p> <p>文化とは、ある集団に共通のもの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。</p> <p>言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。</p> <p>遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまな民族に分かれ、言語も異なってきました。</p> <p>コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。</p> <p>多くの文化・言語が減ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人と人が出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？</li> <li>2. 動物の伝え合い</li> <li>3. コトバによる伝え合いとよらない伝え合い</li> <li>4. 伝え合いの手段・産物である言語とは？</li> <li>5. 世界にはどのような言語があるのか？</li> <li>6. 民族の形成</li> <li>7. 文化の形成・変化</li> <li>8. 民族と宗教</li> <li>9. 民族と国家</li> <li>10. 少数民族問題と民族・地域紛争</li> <li>11. はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？</li> <li>12. ウソとコトバの魔術</li> <li>13. 話し合いによる平和で豊かな世界の建設</li> </ol> <p>毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りませ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
高崎通浩「改訂版世界の民族地図」(作品社) 下川 浩『どうしてそんなにダメされる？』『生きたコトバづかい』(国際語学社)ほか		授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを提出し、それを自己評価してもらい、これにもとづき評価します。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	比較思想概論	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ユダヤ民族の歴史を縦糸に、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の比較対照を試みます。同時に「巡礼」という視点も取り込みたいと考えています。</p> <p>現代でも四国霊場やエルサレム、サンチャゴ・デ・コンポステーラなどは巡礼者でにぎわっています。何が人々を巡礼に駆り立ててきたのでしょうか。</p> <p>書物を通じて哲学者・思想家・宗教家と呼ばれる人々の考えを知るのではなく、巡礼をテーマとした映画・映像、地図などを使いながらごく普通の人々の思いを考える予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西行・芭蕉——人はなぜ旅をするのか</li> <li>2&amp;3. ユダヤ民族の歴史</li> <li>4. 流浪の民としてのユダヤ民族</li> <li>5. キリスト教の誕生</li> <li>6. イスラム教とユダヤ教[1]——イスラム教誕生から十字軍の時代まで</li> <li>7. オスマントルコ時代オリエントにおける、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教の関係</li> <li>8. キリスト教徒の巡礼者たち</li> <li>9. イスラム圏における反ユダヤ主義</li> <li>10. 十九世紀キリスト教圏における反ユダヤ主義</li> <li>11&amp;12&amp;13. ユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒、ついでに日本人の《聖なるもの》に対する関係について</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しません。</p> <p>参考文献は、講義のなかで指示します。</p>		<p>学期末に「比較」をテーマとしたレポートを提出していただきます</p>	



(春) (春)	日本文化論 a	担当者	飯島 一彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本は世間一般がぼんやりと信じている単一民族国家でもないし単一言語国家でもない。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてそれは日本に限ったあり方でもない。</p> <p>文化とは、「ある特定の間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。</p> <p>「日本」が含む諸地域の持つ文化的特徴を「歴史的複合重層性」ととらえ、周辺諸地域との文化交流によって複合し、新たな形態を産み出していく文化のあり方と、ある時代に盛期を迎えた典型的な文化的特徴が積み重なり、時代を超えて重層化するあり方が現在の文化を形作っているという立場から、海外との交流、国内交流、文字表記、振る舞い、季節感、信仰、文芸、美術・建築、芸能、思想、東西・都鄙観などの諸分野を概観し、具体例を示して講義していく。</p>		<p>〈各回講義のテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・導入</li> <li>2 日本文化の歴史的複合重層性</li> <li>3 日本は閉鎖的な国か？</li> <li>4 「日本」はいつから「日本」か？</li> <li>5 季節感…「四季」の嘘と作られた感受性</li> <li>6 文字の輸入…漢字・片仮名・平仮名</li> <li>7 ものの行き来、人の行き来</li> <li>8 日本人の振る舞い…正直・清潔・契約</li> <li>9 律令の輸入…「天皇」と「国家」</li> <li>10 「鎖国」…開かれていた国「日本」</li> <li>11 明治維新の文化史的意味付け…「和魂洋才」</li> <li>12 「日本人」の暮らしと死生観</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）		学期末試験（論述式）の成績による。	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)	日本語研究概論 a	担当者	桂 千佳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>言葉は、私達にとって生きていく上で欠かせないものである。だが、誰もが無意識に言葉をあやつっているために、あらためて、自分にとって言葉とは何か、ということを考える人は少ない。しかし、言葉をいかに使っていかうことは、その人の人生の質までも決めてしまうかもしれないほど、重要なことなのである。</p> <p>この授業では、主に、文法範疇の中の時をあらわす表現について学びながら、表現された結果である「文」の背後にある現象の見え方の違いについて考えていくことを通して、言葉を客観的に捉える視点を培うことを目的とする。その上で、日本語の文の構造の基本を理解する。</p> <p>講義形式ではあるが、例題を解きながら解説をしていくので、授業時において主体的に取り組むことを望む。</p> <p>また、高校までの国文法をざっと復習してから受講すること。留学生は、自分が勉強した教科書等の文法用語をしっかり覚えておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要について <ul style="list-style-type: none"> <li>ー各自、受講理由を書いて提出</li> </ul> </li> <li>2. 言葉とは何か</li> <li>3. 文法とは何か</li> <li>4. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> <li>ーテンス① 絶対テンスについて</li> </ul> </li> <li>5. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> <li>ーテンス② 相対テンスについて</li> </ul> </li> <li>6. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> <li>ーテンス③ まとめ</li> </ul> </li> <li>7. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> <li>ーアスペクト①</li> </ul> </li> <li>8. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> <li>ーアスペクト②</li> </ul> </li> <li>9. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> <li>ーアスペクト③</li> </ul> </li> <li>10. 日本語の文の構造について <ul style="list-style-type: none"> <li>ーコト</li> </ul> </li> <li>11. 日本語の文の構造について <ul style="list-style-type: none"> <li>ームード</li> </ul> </li> <li>12. 文章から文を抜き出す</li> <li>13. まとめと質疑応答</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回配布するプリント		テスト	

(秋) (秋)	日本語研究概論 b	担当者	桂 千佳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>言葉は、私達にとって生きていく上で欠かせないものである。だが、誰もが無意識に言葉をあやつっているために、あらためて、自分にとって言葉とは何か、ということを考える人は少ない。しかし、言葉をいかに使っていかうことは、その人の人生の質までも決めてしまうかもしれないほど、重要なことなのである。</p> <p>それを肝に銘じて、自分なりの言葉観を育めるようにしてほしい。</p> <p>この授業では、日本の国語学者たちが、どんな意識によって文法研究をしてきたのかを考えながら、日本語の文の構造を学ぶ。</p> <p>講義形式ではあるが、例題を解きながら解説をしていくので、授業時において主体的に取り組むことを望む。</p> <p>また、高校までの国文法をざっと復習してから受講すること。留学生は、自分が勉強した教科書等の文法用語をしっかり覚えておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要について <ul style="list-style-type: none"> <li>ー各自、受講理由を書いて提出</li> </ul> </li> <li>2. コトバの構造と文法観</li> <li>3. 文とは何か <ul style="list-style-type: none"> <li>「桜が咲く」は文か</li> </ul> </li> <li>4. 日本語の文についての研究史</li> <li>5. 「言語過程説」という考え方</li> <li>6. 日本語の文の構造</li> <li>7. 文の階層構造 <ul style="list-style-type: none"> <li>ー南不二男による4つの分類①</li> </ul> </li> <li>8. 文の階層構造 <ul style="list-style-type: none"> <li>ー南不二男による4つの分類②</li> </ul> </li> <li>9. 文の階層構造 <ul style="list-style-type: none"> <li>ー南不二男による4つの分類③</li> </ul> </li> <li>10. 文章の構造①</li> <li>11. 文章の構造②</li> <li>12. 日本語の文章の特徴とは</li> <li>13. まとめと質疑応答</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回配布するプリント		テスト	

(春) (春)	スペイン・ラテンアメリカ文化論 a	担当者	二宮、佐藤、浦部
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン・ラテンアメリカ文化論 a は、前半から 9 回の授業分、主にスペインの言語・地理・文化に関する授業を二宮が行い、後の 4 回を 2 回ずつ佐藤と浦部が担当し、近現代のスペインの歩みに関する授業を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。</p> <p>講義は、各自の専門分野にそって、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。</p> <p>なお、秋学期に開講される「スペイン・ラテンアメリカ文化論 b」と関連性・連続性が強いので、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界のスペイン語</li> <li>2. イベリア半島の地理・言語状況</li> <li>3. カタルーニャの言語文化 1</li> <li>4. カタルーニャの言語文化 2</li> <li>5. バスク、ガリシアの言語文化</li> <li>6. アンダルシーアの言語文化</li> <li>7. 1492</li> <li>8. フラメンコ</li> <li>9. 闘牛</li> <li>10. コンキスタ：スペインの「新大陸」支配</li> <li>11. 18、19 世紀のスペイン</li> <li>12. スペイン内戦とフランコ体制</li> <li>13. スペインの民主化とヨーロッパ統合</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

(秋) (秋)	スペイン・ラテンアメリカ文化論 b	担当者	佐藤・浦部
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないスペイン語圏を中心としたラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。</p> <p>前半の 6 回は佐藤が担当し、歴史と文化を中心にして論じ、後半の 6 回は浦部が担当して、地理と現代ラテンアメリカの課題を論じる。</p> <p>高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。</p> <p>春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。</p>		<p>佐藤担当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入：「ラテンアメリカ」とは：そのイメージを問う</li> <li>2 ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況</li> <li>3 「アメリカの発明」：先コロンブス期のアメリカ大陸と征服</li> <li>4 「ラテンアメリカ」の誕生と欧米列強</li> <li>5 現代のラテンアメリカ文化</li> <li>6 米国のラテンアメリカ系住民</li> </ol> <p>浦部担当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7 ラテンアメリカの地理と生活 1：アンデス</li> <li>8 ラテンアメリカの地理と生活 2：アマゾン</li> <li>9 ラテンアメリカの地理と生活 3：アタカマ砂漠</li> <li>10 現代ラテンアメリカの課題 1：貧困と社会格差</li> <li>11 現代ラテンアメリカの課題 2：暴力と麻薬</li> <li>12 現代ラテンアメリカの課題 2：人権と民主主義</li> </ol> <p>佐藤担当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13 複数形のアメリカ：「アメリカス」へ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献：増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』中公新書 その他、授業中に指示する		期末テスト。小レポートの提出をもとめることがある。	

(春) (春)	現代中国論 a	担当者	上村 幸治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国が経済発展にともない、世界の大国として存在感を強めている。米国メディアの中には超大国と呼ぶところも出てきた。アジアの巨大途上国の台頭を、21世紀の世界史的イベントだと指摘する声も出ている。</p> <p>同時に、社会の混乱や環境破壊、軍拡に懸念を示す声も出てきた。発展する沿海工業地帯と貧しい内陸の農村地帯の経済格差も大きな問題になっている。</p> <p>ナショナリズムの台頭は、反日デモや米国批判という形で火を噴いている。</p> <p>日本との貿易が急増するなど、日本との経済交流も深まっている。</p> <p>現代の中国を多角的にとらえるため、アヘン戦争以来の歴史を踏まえ、政治や外交や経済、文化の実態を見ていこうと思う。</p> <p>その上で、これからの中国がどう発展していくのか、日本との関係がどう変化していくのかを考えたい。</p> <p>春学期は歴史も踏まえながら、現代中国の実態に迫ろうと思う。秋学期は、現在の中国の表情、この国のかかえる問題点について具体的に見ていく。</p>		<p>1 はじめに（現代中国の実像）</p> <p>2 香港の変遷（アヘン戦争と近代史）</p> <p>3 日中関係（上）</p> <p>4 日中関係（下）</p> <p>5 大国中国の台頭</p> <p>6 朝鮮半島と中国</p> <p>7 共産党と国民党</p> <p>8 社会主義化がもたらしたもの</p> <p>9 文化大革命の実像</p> <p>10 改革開放から市場経済化への道</p> <p>11 天安門事件と民主化</p> <p>12 台湾問題の本質</p> <p>13 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>〔教材〕上村幸治著『中国路地裏物語—市場経済の光と影』岩波新書、上村幸治著『中国のいまがわかる本』岩波ジュニア新書</p>		出席、レポート、試験による	

(秋) (秋)	現代中国論 b	担当者	上村 幸治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じ		<p>1 市場経済のもたらしたもの</p> <p>2 都市部の変貌</p> <p>3 農村の課題</p> <p>4 巨大プロジェクト</p> <p>5 環境問題</p> <p>6 経済格差と階層社会の出現</p> <p>7 教育問題</p> <p>8 医療や社会保障</p> <p>9 選挙と民主化</p> <p>10 政治システム</p> <p>11 中台関係</p> <p>12 国際社会の中の中国</p> <p>13 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じ		春学期と同じ	



(春) (春)	英語演習 (Communicative English 1a )	(火2)	担当者	R. ダラム
<b>OVERALL OBJECTIVES OF THE COURSE:</b>		have more effective communication? Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day..		
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b> , from an <b>International</b> point of view; c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in English; and d) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i> .		Week 5: Student research/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest. Possibly: choosing an International topic for presentation		
<b>Tentative Weekly Schedule for the April – July Semester:</b>		Week 6: Discussing <b>movies, concerts, events</b> , in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Refining on possible presentation topics.		
(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)		Week 7: Examining & using of International vs. Domestic <b>etiquette and manners</b> . International News stories, with discussion. Preparations for making presentations.		
Week 1: <b>Introductions</b> , in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion.		Week 8: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. <b>International News</b> articles and/or videos; with discussion thereof.		
Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for INTERNATIONAL topics/themes which they would like to learn &amp; study</i> .		Week 9: <b>Body Language</b> : Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Listening exercise & discussion. Preparations for class presentations.		
Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication</i> ? Discussion of recent <b>International News</b> articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.)		Week 10: What is a "hobby"? <b>How many hobbies do YOU have?</b> In-depth discussion of which hobbies display good "EQ". Student presentations.		
Week 4: Asking and telling other people about likes & dislikes; hobbies; good places to dine/party. What is "EQ"; and how can we best use it, to		Week 11: <i>International communication</i> : telephoning to reserve hotels/air tickets/trains/restaurant seats, in English. Student presentations.		
		Week 12: Student presentations. Class discussion; using "How do you feel about _____?"		
		Week 13: Discussing & explaining plans for the Summer. Student presentations.		
<b>Materials/Textbook:</b>				
We will be using audio book listening exercises; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International videos, and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.				
<b>Evaluation Method/ Grading/ Assessment</b>				
You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework /test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.				
<b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that :a) the lower your Attendance , the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F") ;b) lateness will also affect your grade in this course. <b>(One late = 1/2absence.)</b>				

(秋) (秋)	英語演習 (Communicative English 1b )	(火2)	担当者	R. ダラム
<b>OVERALL OBJECTIVES OF THE COURSE:</b>		International communication, and on business success.		
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b> , from an <b>International</b> point of view; c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in English; and d) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i> .		Week 5: Hallowe'en video and discussion. News articles and/or video about <i>International</i> topics.		
<b>Tentative Weekly Schedule for the September – December/January Semester:</b>		Week 6: English-listening and discussion exercise. Preparation for presentations. Conversation practice. Ongoing assessments.		
(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)		Week 7: Song and/or video-listening exercise, with discussion/explanations thereof. Conversation practice/explanations: "What <b>kind</b> of _____ do you like?"		
Week 1: Asking, replying, and elaborating about your Summer Break, using modern English. News article exercises distributed & assigned.		Week 8: "What do you usually do _____?": <i>Discussing your usual practices</i> on holidays/weekends/weeknights. Using dynamic English & "EQ" in conversations.		
Week 2: Asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study. Continuous assessments.		Week 9: Finalizing preparations and practice for presentations. News articles and/or video about international topics. Song-listening exercise.		
Week 3: Researching <b>festivals in different countries</b> :Hallowe'en and other occasions chosen by students. Discussion of <b>International News</b> (articles and/or News Videos).		Week 10: Christmas song-listening exercise. <b>Christmas cultures</b> in various countries. Class presentations. Pair Practice.		
Week 4: Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in		Week 11: Asking others, and elaborating about, Christmas wishes and plans. Christmas video and/or Christmas song exercise.		
		Week 12: Class presentations. "What do you usually do for New Year's/ Christmas/ O-Bon/etc.?" Pair practice		
		Week 13: Christmas song-listening & discussion. Christmas in countries around the world, part 2		
<b>Materials/Textbook:</b>				
We will mostly be using dynamic conversation topics; International newspaper articles, Internet research, global videos, and research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.				
<b>Evaluation Method/ Grading/ Assessment</b>				
The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.				
<b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for <b>any</b> reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. <b>(One late = 1/2 absence.)</b>				

(春) (春)	英語演習 (Communicative English 2a) (木3)	担当者	R. ダラム
<b>OVERALL OBJECTIVES OF THE COURSE:</b>			
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in, communicate, and explain your ideas and opinions more effectively in modern <b>dynamic</b> English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively analyze &amp; discuss <b>World Issues</b>, from a more <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>fun, dynamic, interesting conversations</i> in English; and</p> <p>d) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>Week 4: Cultural elements of conversations: <b>HOW</b> to say it, in English ("EQ"). Continuous assessment. Optional: selecting an International presentation topic.</p> <p>Week 5: Song/ News/ Video-listening exercise. International News discussion. <b>Compliments</b>, &amp; appreciating people, in English.</p> <p>Week 6: Talking about your <b>preferences</b>. "<b>What kind of _____ do you like?</b>" (Focus on: explaining reasons for your preferences, in English.)</p> <p>Week 7: Listening exercise (song/ News/ Video), &amp; discussion. Further "EQ" practice: "<b>How's it going?</b>"</p> <p>Week 8: <b>Calling to reserve a hotel/ restaurant/ airplane ticket</b>/etc. Ongoing assessment. Preparation for optional presentations.</p> <p>Week 9: <b>Restaurant ordering</b>, in English: appetizers; main course; side dishes; dessert; drinks. <b>Tipping</b>: how to do it; when to do it; where to do it.</p> <p>Week 10: Pair practice: restaurant ordering. News/ song listening exercise.</p> <p>Week 11: <b>Calling to invite someone</b>, in English. (Including suggesting alternate days/ times/ meeting places.) Class presentations.</p> <p>Week 12: Class presentations. Class discussions; "What do you think of _____?": Giving your personal opinions.</p> <p>Week 13: Class presentations. Speaking about your dynamic <b>hobbies</b>, in English. Pair practice. Review. Discussion of <b>Summer plans</b>. Final assessments</p>	
<b>Tentative Weekly Schedule for the April – July Semester:</b>			
<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, &amp; the timing of the items may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, Parts 1 &amp; 2. Initial meeting &amp; greetings; the <b>continuing the conversation</b>. (Focus on "EQ": Emotional Intelligence".)</p> <p>Week 2: Listening exercise: song/ News/ Video. Pair practice, re: Intros 1 &amp; 2.</p> <p>Week 3: <b>What do you usually do _____ ?</b> (Focus on Golden Week.) Pair practice. International News discussion.</p>			
<b>Materials/Textbook:</b>			
We will be using audio book listening exercises; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International videos, and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.			
<b>Evaluation Method/ Grading/ Assessment</b>			
<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason</b>. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course.</p> <p><b>(One late = 1/2 absence.)</b></p>			

(秋) (秋)	英語演習 (Communicative English 2b) (木3)	担当者	R. ダラム
<b>OVERALL OBJECTIVES OF THE COURSE:</b>			
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in, communicate, and explain your ideas and opinions more effectively in modern dynamic English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively analyze &amp; discuss World Issues, from a more International point of view;</p> <p>c) enjoy fun, dynamic, interesting conversations in English; and</p> <p>d) (if students are interested) research and 'give' (present) a class presentation.</p>		<p>Week 5: Learning about, &amp; discussing: <b>Cultural 'festivals' in the world</b>. International News discussion. Listening exercise: video/ song/ News. Ongoing assessment.</p> <p>Week 6: "<b>How long have you _____ ?</b>" Pair practice: discussing in depth how long you have performed various tasks.</p> <p>Week 7: "<b>The Seven Ws</b>": asking &amp; answering questions, using "Who", "What", "Why", "Which", "Where", "When", and "How". Pair practice. Continuous assessment.</p> <p>Week 8: <b>How to express your opinions about things</b>, in English: "I'm crazy about it."; "I can't stand it."; "It's a good idea, because..."; "I think it's terrible."; etc. Focus on: ELABORATING (explaining, in detail). Pair practice.</p> <p>Week 9: International festivals: focus on <b>Thanksgiving</b>. Thanksgiving customs &amp; traditions.</p> <p>Week 10: Christmas song/video exercise. Ongoing assessment. Class presentations.</p> <p>Week 11: <b>International Christmas customs</b>. Examining &amp; discussing different Christmas customs, around the world. Christmas listening/video exercise.</p> <p>Week 12: Class presentations. Christmas customs worldwide, part 2. Christmas video/ listening exercise</p> <p>Week 13: <b>What's _____ like?</b>: describing a person/place/activity/thing, in English. Class presentations. Final assessments. "<b>What are your plans for the Christmas/ O-Sho-Gatsu holidays?</b>"</p>	
<b>Tentative Weekly Schedule for the September – December/January Semester:</b>			
<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, &amp; the timing of the items may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Discussing your Summer Break. "<b>It would have been better/worse, if I had _____.</b>"</p> <p>Week 2: Listening exercise: News/ video/song; with discussion. Asking &amp; giving <b>street directions</b>, and/or <b>subway directions</b>, in English. Pair practice. Continuous assessment.</p> <p>Week 3: Discussion of <b>International "Body Language"</b>. Selection of (optional) Fall presentation topic.</p> <p>Week 4: Polite vs. too-direct <b>asking of questions</b>, in English, with pair practice. Ways to <b>reply</b> to polite questions (cultural aspects of speaking English). Pair practice.</p>			
<b>Materials/Textbook:</b>			
We will mostly be using dynamic conversation topics; International newspaper articles, Internet research, global videos, and research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.			
<b>Evaluation Method/ Grading/ Assessment</b>			
<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason</b>. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course.</p> <p><b>(One late = 1/2 absence.)</b></p>			

(春) (春)	英語演習 (Advertising Strategies and Techniques)	担当者	M. デルベッキオ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>We are exposed to a large mass of advertising on a daily basis. However, not all of us are aware of the strategies companies use to market their goods or services, or, of the techniques used to influence our behavior. This course will investigate the context of advertising, the organizations or cultures that produce them, how they are produced, how advertisements represent individuals or groups and how we, the audience responds to them.</p> <p>Students will be expected to do research and share their experience, knowledge and opinions with their peers.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p> <p>English level: Intermediate</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Medium/Technology</li> <li>3. Purposes Explored</li> <li>4. Consumer Markets</li> <li>5. Measuring Emotions</li> <li>6. Advertising and the Media</li> <li>7. Persuasion Techniques</li> <li>8. Appeals</li> <li>9. Visual features/techniques</li> <li>10. Style and Language</li> <li>11. Relationships and Roles</li> <li>12. Controlling Advertisements</li> <li>13. Presentations</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Materials will be provided by the instructor. Students should have: English to English dictionary, thesaurus and access to the internet.</p>		<p>The final grade will combine the following: attendance, class performance, quizzes, one presentation and one written report.</p>	

(秋) (秋)	英語演習 (Media Studies)	担当者	M. デルベッキオ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>You are likely to have a good knowledge of the media already. This course aims to help you use and develop your understanding of how and why media texts are produced, how people respond to them and what messages and values they contain.</p> <p>Students will be expected to do research and share their experience, knowledge and opinions with their peers.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p> <p>Language level: Intermediate to advanced</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Television: news</li> <li>3. Television: sport</li> <li>4. Television: situation comedy</li> <li>5. Television: quiz shows</li> <li>6. Television: talk shows</li> <li>7. Cinema</li> <li>8. Newspapers (1)</li> <li>9. Newspapers (2)</li> <li>10. Magazines</li> <li>11. Comics</li> <li>12. Popular music</li> <li>13. Presentations</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Materials will be provided by the instructor. Students should have: English to English dictionary, thesaurus and access to the internet.</p>		<p>The final grade will combine the following: attendance, class performance, quizzes, one presentation and one written report.</p>	

(春) (春)	英語演習 (Understanding Japanese-American Experience through Works of Literature)	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goals of this course are twofold. First, it aims to improve students' overall English proficiency, with a focus on critical reading, communication, and vocabulary building. Second, it aims to deepen students' understanding of Japanese-American experiences.</p> <p>Class activities include mini lectures, discussion, jigsaw teaching, presentations, vocabulary building activities, and some writing activities.</p> <p>There will be both reading and writing assignments.</p> <p>[受講者への要望等]</p> <p>① Medium of instruction and communication is English.</p> <p>② Regular attendance is a prerequisite. More than 3 absences during the term will result in failure of the course.</p>		<p>Week 1: Introduction</p> <p>Weeks 2 – 3: History</p> <p>Weeks 4 – 6: Picture brides</p> <p>Weeks 7 – 9: World War II and Japanese Americans</p> <p>Weeks 10 – 12: Japanese-Americans today</p> <p>Week 13: Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be distributed.		Assignments (20%), Quizzes (20%), Presentations (30%), Final Exam (30%)	

(秋) (秋)	英語演習 (Understanding Diversity in Japan )	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goals of this course are twofold. First, it aims to improve students' overall English proficiency, with a focus on critical reading, communication, and vocabulary building. Second, it aims to deepen students' understanding of diversity in Japan.</p> <p>Class activities include mini lectures, discussion, jigsaw teaching, presentations, vocabulary building activities, and some writing activities.</p> <p>There will be both reading and writing assignments.</p> <p>[受講者への要望等]</p> <p>③ Medium of instruction and communication is English.</p> <p>Regular attendance is a prerequisite. More than 3 absences during the term will result in failure of the course.</p>		<p>Week 1: Introduction</p> <p>Weeks 2 – 4: Ainu</p> <p>Weeks 5 – 6: Kakyo</p> <p>Weeks 7 – 9: Zainichi Koreans</p> <p>Weeks 10 – 12: Nikkei Brazilians and Peruvians</p> <p>Week 13: Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be distributed.		Assignments (20%), Quizzes (20%), Presentations (30%), Final Exam (30%)	



(春) (春)	英語演習 (Story Telling 1)	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、英語での story telling (絵本の読み聞かせ) を通じて、英語の読解力と発話力の向上を目指す。また、英語圏以外の童話を英語に翻訳し、読み聞かせをする。</p> <p>本講義では、読み聞かせのコツについての講義、発音練習やグループ・個人での口頭発表を中心として進めていく。</p> <p>[受講者への要望等]</p> <p>① 授業内使用言語は英語と日本語です。 ② 出席を前提とします。4 回以上欠席した場合は不合格となります。</p>		<p>第1週目：概論</p> <p>第2～3週目：読み聞かせのコツ</p> <p>第4～5週目：読み聞かせ (グループ) 1</p> <p>第6週目：口頭発表 (グループ) 1</p> <p>第7～8週目：読み聞かせ (個人) 2</p> <p>第9週目：口頭発表 (個人) 2</p> <p>第10～11週目：翻訳作成</p> <p>第12～13週目：口頭発表 (個人) 3</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義で配布します。		課題 (30%), 小テスト (10%), 口頭発表(20%x3回=60%)	

(秋) (秋)	英語演習 (Story Telling 2)	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、story telling 1 (絵本の読み聞かせ) に引き続き、英語の読解力と発話力の向上を目指す。また、英語圏以外の童話を英語に翻訳や物語の創作も試み、読み聞かせをする。</p> <p>本講義では、読み聞かせのコツについての講義、発音練習やグループ・個人での口頭発表を中心として進めていく。</p> <p>[受講者への要望等]</p> <p>① 授業内使用言語は英語と日本語です。 ② 出席を前提とします。4 回以上欠席した場合は不合格となります。</p>		<p>第1週目：概論</p> <p>第2週目：読み聞かせのコツ</p> <p>第3週目：読み聞かせ (詩) 1</p> <p>第4週目：口頭発表 (個人) 1</p> <p>第5～6週目：翻訳作成</p> <p>第7～8週目：口頭発表 (個人) 2</p> <p>第9～11週目：物語創作</p> <p>第12～13週目：口頭発表 (個人) 3</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義で配布します。		課題 (30%), 小テスト (10%), 口頭発表(20%x3回=60%)	

(春) (春)	英語演習(Global Issues a) (月4)	担当者	岡崎 享恭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class is designed to improve your English proficiency, focusing on fluency in reading, writing, listening and speaking, as well as critical awareness towards current global issues. In addition, you will have opportunities to learn language learning techniques from the instructor and classmates.</p> <p>This class will be conducted in English, but students who are not confident in their English communication skills are welcome to attend.</p>		<p>We will be learning about and discussing current local and global socio-political issues such as world poverty, international development, peace, human right, environment, languages and most importantly, possible actions to solve them. The class content will be negotiated and tailored to students' specific needs and interests. You are encouraged to voice your thoughts on how the class should be run through on-going class evaluations. Class activities include reading about the issues, DVD/video analysis, reaction freewriting journals, group discussion, projects and guest speaker sessions.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required. Reading materials will be provided in advance.		Class Participation, Assignments, Quizzes, Writing Journals, & Projects	

(秋) (秋)	英語演習(Global Issues b) (水3)	担当者	岡崎 享恭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class is designed to improve your English proficiency, focusing on fluency in reading, writing, listening and speaking, as well as critical awareness towards current global issues. In addition, you will have opportunities to learn language learning techniques from the instructor and classmates.</p> <p>This class will be conducted in English, but students who are not confident in their English communication skills are welcome to attend.</p> <p>Specific issues discussed and materials used in the spring semester will not be repeated.</p>		<p>We will be learning about and discussing current local and global socio-political issues such as world poverty, international development, peace, human right, environment, languages and most importantly, possible actions to solve them. The class content will be negotiated and tailored to students' specific needs and interests. You are encouraged to voice your thoughts on how the class should be run through on-going class evaluations. Class activities include reading about the issues, DVD/video analysis, reaction freewriting journals, group discussion, projects and guest speaker sessions.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required. Reading materials will be provided in advance.		Class Participation, Assignments, Quizzes, Writing Journals, & Projects	

(春) (春)	英語演習 (通訳・翻訳)	担当者	柴原 智幸
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、通訳や翻訳の実技演習をおこなう。つまり、通訳力と翻訳力を上げることを通じて、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせるわけである。</p> <p>通訳力・翻訳力を上げるということは、複合的な分野を強化していくことになる。「通訳力・翻訳力＝英語力＋日本語力＋知識量」という考えのもと、日本語力の強化、知識の強化もおこなう。</p> <p>英語力の強化については、宿題として毎回英字新聞を読む精読訓練のほか、Graded Readersなどの多読訓練もおこなう。また、発音指導などもおこなうほか、通訳演習を通して総合的な力を慣用する。</p> <p>日本語力については、課題図書を読むと感想文の提出（日本語）、日本語での要約訓練をおこなう。</p> <p>知識の訓練としては、学期中何度か設定したテーマを元にリサーチ、ディスカッション、通訳演習などをおこなう。</p> <p>また英語力と日本語力の総合的随時翻訳（日英・英日）をおこなう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 通訳・翻訳とは何か トレーニングのやり方について</li> <li>2 文法の大切さ 受験時代の遺産を活用する</li> <li>3 発音のコツ カタカナ発音からの脱出</li> <li>4 リスニングのコツ 質・量2種類のトレーニング</li> <li>5 日本語を駆使する 母語の落とし穴</li> <li>6 リサーチのやり方 どう調べ、どうまとめるか</li> <li>7 プレゼンテーションのやり方 効果的な伝え方とは</li> <li>8 翻訳のやり方 英文和訳・和文英訳からの脱却</li> <li>9 進度調整日 総復習</li> <li>10 プレゼンテーションの通訳 実技と講評</li> <li>11 プレゼンテーションの通訳 実技と講評</li> <li>12 プレゼンテーションの通訳 実技と講評</li> <li>13 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>随時プリントなどを配る。</p> <p>特定のテキストを購入する必要がない分、和書・洋書などを積極的に購入して読むこと。</p>		<p>通訳実技 30%</p> <p>翻訳実技 30% 期末テスト 40%</p>	

(秋) (秋)	英語演習 (通訳・翻訳)	担当者	柴原 智幸
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、通訳や翻訳の実技演習をおこなう。つまり、通訳力と翻訳力を上げることを通じて、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせるわけである。</p> <p>通訳力・翻訳力を上げるということは、複合的な分野を強化していくことになる。「通訳力・翻訳力＝英語力＋日本語力＋知識量」という考えのもと、日本語力の強化、知識の強化もおこなう。</p> <p>英語力の強化については、宿題として毎回英字新聞を読む精読訓練のほか、Graded Readersなどの多読訓練もおこなう。また、発音指導などもおこなうほか、通訳演習を通して総合的な力を慣用する。</p> <p>日本語力については、課題図書を読むと感想文の提出（日本語）、日本語での要約訓練をおこなう。</p> <p>知識の訓練としては、学期中何度か設定したテーマを元にリサーチ、ディスカッション、通訳演習などをおこなう。</p> <p>また英語力と日本語力の総合的随時翻訳（日英・英日）をおこなう。</p> <p>春学期とは別の教材を用いる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 通訳・翻訳とは何か トレーニングのやり方について</li> <li>2 文法の大切さ 受験時代の遺産を活用する</li> <li>3 発音のコツ カタカナ発音からの脱出</li> <li>4 リスニングのコツ 質・量2種類のトレーニング</li> <li>5 日本語を駆使する 母語の落とし穴</li> <li>6 リサーチのやり方 どう調べ、どうまとめるか</li> <li>7 プレゼンテーションのやり方 効果的な伝え方とは</li> <li>8 翻訳のやり方 英文和訳・和文英訳からの脱却</li> <li>9 進度調整日 総復習</li> <li>10 プレゼンテーションの通訳 実技と講評</li> <li>11 プレゼンテーションの通訳 実技と講評</li> <li>12 プレゼンテーションの通訳 実技と講評</li> <li>13 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>随時プリントなどを配る。</p> <p>特定のテキストを購入する必要がない分、和書・洋書などを積極的に購入して読むこと。</p>		<p>通訳実技 30%</p> <p>翻訳実技 30% 期末試験 40%</p>	

(春) (春)	英語演習(スピーキング a)	担当者	山本 英政
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語圏で長く暮らしたことがなければ、通じる英語表現を適宜、ひねり出すには高度な訓練が必要だ。それをジョークを題材として身につけようとするのが授業のねらいである。</p> <p>毎回、2話のジョークを他者に口伝し、笑いをとる。</p> <p>本演習では、意思伝達のコツを習得する。同時に、日米間で小話のオチがかくも異なることを発見し、大しておもしろくもないのに、外人の話しに「愛想笑い」する日本人の悪癖を乗り越えたい。</p> <p>授業の使用言語は9割ほど英語である。</p>		<p>アメリカジョークを主に扱うジャンルとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆職業</li> <li>☆身分</li> <li>☆人種・民族</li> <li>☆男女関係</li> </ul> <p>などをネタにしたものを、混合して使用する</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
随時、プリントを配布する		普段点（出席、課題への取り組み）と発表、小テスト	

(秋) (秋)	英語演習(読解と発話)	担当者	山本 英政
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英文を読み、その意図するところを十分に理解し、他者と口頭で意見を交換する。扱う題材はアメリカ社会である。その文化、歴史、事件を、各週完結の文章で読む。</p> <p>最初は、事実を要領よく伝達することを目指す。徐々に、情報量の多い複雑な事柄をつたえる。自分の理解と意見を相手に納得させることを試みてほしい。</p> <p>こうした授業で読解と発信、そして時事に関する理解力の向上をはかりたい。</p> <p>授業の使用言語は9割ほど英語である。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ War comes home</li> <li>・ The Gulf War</li> <li>・ The spirit of Aloha</li> <li>・ Rachel Carson</li> <li>・ The Wounded Knee Massacre</li> <li>Etc.</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Different Histories		普段点（出席、発表、課題への取り組み）期末テスト	

(春) (春)	スペイン語演習	担当者	C.ガリード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行う。より深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とし、既に学習した文法事項を必要に応じて復習をしながら発展させる。ひとつのテーマを2、3時間かけ状況に応じて、個人で発表したり、ペアーを組んだり、グループを作りディスカッションをする。</p> <p>積極的な授業への参加態度を重視し、評価する。</p> <p>毎回の授業は必ず予習をし西和和辞典を携帯すること。</p>		<p><b>El plan de estudios puede variar dependiendo del tiempo disponible y del avance.</b></p> <p>1~2. Volver a empezar (concernos; hablar sobre nosotros; aficiones ;gustos ;costumbres; verbos de cambios...)</p> <p>3~4. ¿Se te dan bien las lenguas? (reflexión sobre la lengua; hablar de nuestras habilidades y dificultades...)</p> <p>5~6. El turista accidental (hablar sobre viajes; contar anécdotas...)</p> <p>7~8. ¡Basta ya! (hablar sobre problemas; expresar deseos, reclamaciones, necesidad, valorar situaciones...)</p> <p>9~10. Misterios y enigmas (hacer hipótesis y conjeturas; relatar sucesos; expresar diferentes estados de seguridad...)</p> <p>11~12. Tenemos que hablar (expresar intereses y sentimientos; hablar de las relaciones entre personas...)</p> <p>13. América (¿Qué sabes sobre América; concurso...)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。</p> <p>西和和辞典</p>		<p>50%を授業への出席、および積極的参加態度、課題提出。</p> <p>残りの50%を2回の試験。</p>	

(秋) (秋)	スペイン語演習	担当者	C.ガリード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行う。より深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とし、既に学習した文法事項を必要に応じて復習をしながら発展させる。ひとつのテーマを2、3時間かけ状況に応じて、個人で発表したり、ペアーを組んだり、グループを作りディスカッションをする。</p> <p>積極的な授業への参加態度を重視し、評価する。</p> <p>毎回の授業は必ず予習をし西和和辞典を携帯すること。</p>		<p><b>El plan de estudios puede variar dependiendo del tiempo disponible y del avance.</b></p> <p>1~3. Buenas noticias (referirnos a una noticia y comentarla; redactar una noticia; voz pasiva...)</p> <p>4~5. Yo nunca lo haría (hablar de situaciones imaginarias; expresar deseos y dar consejos...)</p> <p>6~7. ¿Y qué te dijo? (conflictos entre personas; transmitir ordenes, peticiones y consejos...)</p> <p>8~10. Maneras de vivir (diseñar el paraíso donde vivir; hacer propuestas; matizar; expresar condiciones ..)</p> <p>11~12. Así pasó (escribir la crónica de un suceso; diferentes medios de comunicación....)</p> <p>13. De diseño (describir objetos, sus características; opinar sobre ellos.....)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。</p> <p>西和和辞典</p>		<p>50%を授業への出席、および積極的参加態度、課題提出。</p> <p>残りの50%を2回の試験。</p>	

(春) (春)	スペイン語演習	担当者	J.I.ドメネク・アロンソ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業はできる限りスペイン語で行いスペイン語でのコミュニケーションに慣れてもらいます。基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。ビデオ教材等を使用し、スペインおよびラテンアメリカ文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。</p>		<p>1- Introducción. 2-3- Información personal. Gustos y aficiones 4-5- a moda, las compras. 6-7- Descripciones. 8- Relatar hechos del pasado. 9-10- Estados de ánimo. Acuerdo y desacuerdo. 11- Video cultural y debate. 12-13 Examen</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教材としてテキストは使用せず、コピーを配布します。		試験 70% 授業中評価 30%	

(秋) (秋)	スペイン語演習	担当者	J.I.ドメネク・アロンソ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業はできる限りスペイン語で行いスペイン語でのコミュニケーションに慣れてもらいます。基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。ビデオ教材等を使用し、スペインおよびラテンアメリカ文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。</p>		<p>1- Repaso general. 2-3- Deseos, recomendaciones y protestas. 4-5- Opiniones. La familia. 6-7- Problemas con el trabajo y la vivienda. 8-9- La salud y la juventud. 10- Relatar lo que han hecho otras personas. 11- Video cultural y debate. 12-13 Examen</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教材としてテキストは使用せず、コピーを配布します。		試験 70% 授業中評価 30%	

(春) (春)	スペイン語演習	担当者	N. ウエチ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。</p>		<p><b>Plan de estudio sujeto a cambios.</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Presentación del curso, evaluación de nivel</li> <li>2. España: información general sobre el arte: grandes protagonistas de la pintura</li> <li>3. Cine y música</li> <li>4. Literatura española</li> <li>5. Presentación oral</li> <li>6. Cine hispano</li> <li>7. Discusión sobre películas</li> <li>8. Ecuador: información general</li> <li>9. Quito</li> <li>10. Islas Galápagos: parte 1</li> <li>11. Islas Galápagos: parte 2</li> <li>12. Medio Ambiente: calentamiento global</li> <li>13. Presentación y discusión sobre posibles soluciones</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教室で配布		60%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題、口頭発表とグループ討論、残りの40%を2回の試験によって行う。	

(秋) (秋)	スペイン語演習	担当者	N. ウエチ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。</p>		<p><b>Plan de estudio sujeto a cambios.</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Colombia: Gabriel García Márquez</li> <li>2. Análisis de sus novelas</li> <li>3. Fernando Botero</li> <li>4. Argentina: información general</li> <li>5. Música argentina</li> <li>6. Literatura argentina</li> <li>7. Presentación oral</li> <li>8. Cuba: información general.</li> <li>9. Che Guevara y Cuba</li> <li>10. Festivales de España</li> <li>11. Festivales de Hispanoamérica</li> <li>12. Los jóvenes y las tradiciones culturales</li> <li>13. Presentación oral</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教室で配布		60%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題、口頭発表とグループ討論、残りの40%を2回の試験によって行う。	



(春) (春)	スペイン語演習	担当者	兒島 峰
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>すでに文法を修了した学生を対象に、スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。</p> <p>下記に指定したテキストを使用し、授業を進める。受講学生は入念な予習をする必要があることを覚悟すること。中途半端な予習と受講態度を取る学生は、たとえ授業に出席していても欠席とみなす。欠席が続く学生は学期末試験への受験資格を失なうので注意すること。</p> <p>試験には、筆記、ディスカッション、聞き取り、などが総合的に含まれる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Leer “la lengua de las mariposas”</li> <li>3. Leer “la lengua de las mariposas”</li> <li>4. Leer “la lengua de las mariposas”</li> <li>5. Discir sobre el tema</li> <li>6. Leer “un saxo en la niebla”</li> <li>7. Leer “un saxo en la niebla”</li> <li>8. Leer “un saxo en la niebla”</li> <li>9. Discir sobre el tema</li> <li>10. 小テスト</li> <li>11. Ver la película “la lengua de las mariposas”</li> <li>12. Ver la película “la lengua de las mariposas”</li> <li>13. Discir sobre el tema</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
岩根園和／菊田和佳子 編著 『蝶の舌-La lengua de las maripisas-』 西和辞典は必携。		授業への参加態度、小テスト、学期末試験を総合的に評価する。	

(秋) (秋)	スペイン語演習	担当者	兒島 峰
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。</p> <p>スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。</p> <p>グループ討論やディスカッションも評価の対象になる。この期間中に欠席をした場合、学期末試験の受験資格を失なうことがあるので、注意すること。</p> <p>ひとつのテーマについて、2 から 3 時間かけて、購読、ディスカッション、応用練習、および、グループ討論を行ない、読解、会話、聞き取り、および理解力を高めることを、本講義の目的としている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. La religión azteca (購読)</li> <li>3. La religión azteca (ディスカッション)</li> <li>4. La religión azteca (応用練習)</li> <li>5. 復習・小テスト</li> <li>6. En el viaje (イントロダクション)</li> <li>7. En el viaje (グループ討論)</li> <li>8. En el viaje (個人による報告発表)</li> <li>9. Ver noticias en la televisión (聞き取り)</li> <li>10. Ver noticias en la televisión (応用練習)</li> <li>11. Fiestas navideñas (購読)</li> <li>12. Fiestas navideñas (ディスカッション)</li> <li>13. 試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは当方で用意する。 西和辞典は必携。		授業への参加態度、小テスト、グループ討論、報告発表、および学期末試験を総合的に評価する。	

(春) (春)	スペイン語演習	担当者	中井 博康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン・ラテンアメリカの歴史・文化・社会について書かれた様々なスタイルのスペイン語を読む（あるいは聞く）とともに、和文西訳を中心に書く（あるいは話す）練習をしながら、スペイン語の基礎的な運用力を高め、スペイン語圏に対する理解を深めることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>01. 基礎文法の復習</li> <li>02. スペイン（１）</li> <li>03. スペイン（２）</li> <li>04. キューバ</li> <li>05. コスタ・リカ</li> <li>06. メキシコ</li> <li>07. ペルー</li> <li>08. アルゼンチン</li> <li>09. 中世のスペイン</li> <li>10. 大航海時代</li> <li>11. 古代アメリカ文明</li> <li>12. ラテン・アメリカ諸国の独立</li> <li>13. スペイン内戦</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを使用します。		期末定期試験の成績（80％）に、平常点（20％）を加味して、総合的に評価します。	

(秋) (秋)	スペイン語演習	担当者	中井 博康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン・ラテンアメリカの歴史・文化・社会について書かれた様々なスタイルのスペイン語を読む（あるいは聞く）とともに、和文西訳を中心に書く（あるいは話す）練習をしながら、スペイン語の基礎的な運用力を高め、スペイン語圏に対する理解を深めることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>01. 現代スペインの諸問題</li> <li>02. 現代ラテンアメリカの諸問題（１）</li> <li>03. 現代ラテンアメリカの諸問題（２）</li> <li>04. 食文化</li> <li>05. 音楽</li> <li>06. 映画</li> <li>07. 文学（１）</li> <li>08. 文学（２）</li> <li>09. 宗教</li> <li>10. 祝祭</li> <li>11. 女性</li> <li>12. 移民</li> <li>13. 予備</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを使用します。		期末定期試験の成績（80％）に、平常点（20％）を加味して、総合的に評価します。	

(春) (春)	中国語演習（中国語で読む中国社会 a）	担当者	嚴 明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義主要演習當代的中国語，從各種時事報道學習中國語，在學習中直接了解中國社會發展的真實情況。近年來中國經濟騰飛，發展迅速，社會各方面都出現巨大變化，本講義選擇多種角度，觀察中國社會的各個側面，關注中國取得的成就，也關注中國存在的各種問題。中國近年來成爲世界的熱點，中國的經濟成就和社會問題都直接影響到了世界的發展，2008年北京舉辦奧林匹克運動會，2010年，上海舉辦世界博覽會，圍繞着這些大事，中國社會正在出現各種深刻的變化。本講義選擇中國報刊上的報道文章，讓學生在第一時間就掌握中國的動態和現狀，提高運用中國語的能力。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、溫總理的溶冰之旅</li> <li>2、世界上最長的跨海大橋</li> <li>3、新人類的消費性向</li> <li>4、农民劳动者的子女教育</li> <li>5、怎么看中国製品信用失墜</li> <li>6、從猪年看中国生肖文化</li> <li>7、今年中国的流行語</li> <li>8、奧運会的历史</li> <li>9、北京奥运会花絮</li> <li>10、中国房地產的消長</li> <li>11、中国的醫療體制改革</li> <li>12、中国的年青人關心什麼</li> <li>13、中国的环境问题</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書：三瀨正道《時事中国語の教科書》2008年度版，朝日出版社，2008年版。		受講條件： 評價方法:期末定期試験，平常授業の課題など	

(秋) (秋)	中国語演習（中国語で読む中国社会 b）	担当者	嚴 明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義主要演習當代的中国語，從各種時事報道學習中國語，在學習中直接了解中國社會發展的真實情況。近年來中國經濟騰飛，發展迅速，社會各方面都出現巨大變化，本講義選擇多種角度，觀察中國社會的各個側面，關注中國取得的成就，也關注中國存在的各種問題。中國近年來成爲世界的熱點，中國的經濟成就和社會問題都直接影響到了世界的發展，2008年北京舉辦奧林匹克運動會，2010年，上海舉辦世界博覽會，圍繞着這些大事，中國社會正在出現各種深刻的變化。本講義選擇中國報刊上的報道文章，讓學生在第一時間就掌握中國的動態和現狀，提高運用中國語的能力。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、故宮里的星巴克</li> <li>2、探訪寧夏的回族</li> <li>3、向政府說“不”</li> <li>4、在中国當演員</li> <li>5、中国標語之变化</li> <li>6、感恩孝敬父母</li> <li>7、大城市的細節</li> <li>8、中国兒童劇</li> <li>9、外国人看中国</li> <li>10、上海的变化</li> <li>11、都市里的健身熱</li> <li>12、中国的假日旅遊</li> <li>13、中国的城乡差别</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書：三瀨正道《時事中国語の教科書》2008年度版，朝日出版社，2008年版。		受講條件： 評價方法:期末定期試験，平常授業の課題など	

(春) (春)	中国語演習（中国現代社会 a）	担当者	上村 幸治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国語の基礎学習を修了した学生を対象に行う。教科書の文章ではなく、実際に社会で使われている文章を読み解き、長い文章に慣れることを目的とする。</p> <p>文章は現代中国社会に関するもので、基本的に時事的な内容を扱う。新聞、雑誌、あるいは評論の文章、ルポや小説の一部なども使いたい。</p> <p>素材として、政治や経済、外交、格差問題や人口問題、女性問題、環境問題などを扱ったものを予定している。</p> <p>一回目の講義で資料を配布し、講義の進め方について説明する。</p>		<p>第一回 教材の配布、説明</p> <p>第二回以降 講読</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
なし		出席、テストにより総合的に評価	

(秋) (秋)	中国語演習（中国現代社会 b）	担当者	上村 幸治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じ方針		春学期と同じ方針（内容は別）	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じ		春学期と同じ	

(春) (春)	中国語演習 (中日翻訳入門)	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>テーマ：ドラマの字幕翻訳</p> <p>台湾トレンドドラマの決定版『求婚事務所』を使用します。身分を越えた恋人たちの姿、そして恋人たちが人間としてそれぞれ成長する姿を見事に描いています。授業で使用するのは第1話から6話までの「麻雀恋鳳凰 ～ブリテイウーマン～」第1話と第2話です。</p> <p>中国語の自然な会話の聞き取りができるよう、中国語発音に中国語字幕のついたビデオ教材を使用します。  予習：字幕を文字に書き起こしたテキストを配布しますので、事前に字幕用に翻訳してきてください。  授業：まず、ドラマを鑑賞しながら、セリフを中国語で実際に発話する練習をします。慣れてきたらロールプレイで中国語会話の練習も取り入れていきます。次にセリフの日本語訳を確認します。最後にプロの字幕翻訳者がつけた日本語字幕で同じシーンを確認します。  復習：予習で誤訳した部分を訂正し、完成原稿を提出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物語の発端</li> <li>2. ジェンカイとアンアン</li> <li>3. クアンジュンとシャオチー</li> <li>4. クアンジュンがプロポーズに失敗</li> <li>5. 父親に勘当されるアンアン</li> <li>6. 失意のクアンジュン</li> <li>7. 社内で窮地に立つジェンカイ</li> <li>8. ジェンカイの会社で働き始めるアンアン</li> <li>9. アンアンとジェンカイ、初めてのデート</li> <li>10. イーペイとクアンジュン</li> <li>11. 会社を抜け出すジェンカイ</li> <li>12. アンアンと希望企業会長</li> <li>13. 学期のまとめ、期末課題などの説明</li> </ol> <p>授業の進度によって予定を変更することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
台湾の連続ドラマ『求婚事務所』DVD セリフの書き起こし台本は初回授業でエクセルのデータ形式で配布しますのでUSBメモリを持参すること。		出席率、授業への取り組み、翻訳課題の完成度によって評価します。	

(秋) (秋)	中国語演習 (中日通訳入門)	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>テーマ：逐次通訳入門</p> <p>中国語の短いニュースやエッセイなどを用いて逐次通訳の練習を行います。</p> <p>宿題：ピンインだけが書かれたプリントを配布しますので漢字に変換し、さらに日本語に訳してきてください。  授業：まず漢字表記と翻訳の確認をし、次に音声教材を利用してリピーティング、シャドーイングなどの練習を行います。最後にペアワークで中国語音読と逐次通訳を行っていただきます。  復習：誤訳を訂正し完成した訳文を提出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと授業方法の説明</li> <li>2. ジャイアントパンダ絶滅の危機 -1-</li> <li>3. ジャイアントパンダ絶滅の危機 -2-</li> <li>4. 国力の充実が留学生を集める -1-</li> <li>5. 国力の充実が留学生を集める -2-</li> <li>6. 現代日本の美人の基準 -1-</li> <li>7. 現代日本の美人の基準 -2-</li> <li>8. ゴールドカラーと称せられる同時通訳者</li> <li>9. サラリーマンと入社拒否症 -1-</li> <li>10. サラリーマンと入社拒否症 -2-</li> <li>11. 頭脳労働者が選ぶ食品 (1)</li> <li>12. 頭脳労働者が選ぶ食品 (2)</li> <li>13. 学期のまとめ、期末課題などの説明</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストなどの購入は不要です。授業でプリントを配布します。		出席率、授業への取り組み、翻訳課題の完成度によって評価します。	

(春) (春)	中国語演習 (中国語ビジネス文書 a) (木 3)	担当者	吉田 桂子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>2008年北京オリンピック、2010年上海万博に象徴される中国の国際社会における存在感がますます高まるなか、近年の中国経済の急成長を背景に、現在、中国語を自由に操れる人材の育成が急務となっています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス業務を中心に、「ビジネスレター」「契約書」「仕様書」等について、中国語による様々な表現方法を習得すると共に、併せて、「ビジネス文書」を通じて、実際の日中間の貿易業務に触れることにより、ビジネス分野の専門用語や「貿易業務」の基礎知識を理解することを目指します。</p> <p>実際の授業では、毎回中国語で「ビジネスレター」を作成すると同時に、ゼミ形式で授業を進め、全員に発言の機会を提供します。理解をより深める為、中国語演習木曜4限「ビジネス中国語会話 a」の同時受講と、春/秋通年の履修を薦めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日中貿易概説</li> <li>2 中国語のビジネスレターの概要</li> <li>3 業務取引の申し込みと CIF</li> <li>4 業務取引の申し込みと CFR</li> <li>5 見積書の送付依頼</li> <li>6 見積書の送付依頼と FOB</li> <li>7 サンプル送付に対する回答 (一)</li> <li>8 サンプル送付に対する回答 (二)</li> <li>9 製品紹介のレターと Form A</li> <li>10 オフファーシートの送付と L/C</li> <li>11 L/C と船積書類</li> <li>12 契約書 (契約内容/支払方法) とインボイス</li> <li>13 実習とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
・ 毎回配布するプリント		・ 出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が 60 点以上で単位取得。	

(秋) (秋)	中国語演習 (中国語ビジネス文書 b) (木 3)	担当者	吉田 桂子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>2008年北京オリンピック、2010年上海万博に象徴される中国の国際社会における存在感がますます高まるなか、近年の中国経済の急成長を背景に、現在、中国語を自由に操れる人材の育成が急務となっています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス業務を中心に、「ビジネスレター」「契約書」「仕様書」等について、中国語による様々な表現方法を習得すると共に、併せて、「ビジネス文書」を通じて、実際の日中間の貿易業務に触れることにより、ビジネス分野の専門用語や「貿易業務」の基礎知識を理解することを目指します。</p> <p>実際の授業では、毎回中国語で「ビジネスレター」を作成すると同時に、ゼミ形式で授業を進め、全員に発言の機会を提供します。理解をより深める為、中国語演習木曜4限「ビジネス中国語会話 b」の同時受講を薦めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 契約書付属文書</li> <li>2 契約書付属文書と L/C</li> <li>3 支払条件の変更と D/P</li> <li>4 支払条件の変更と D/A</li> <li>5 信用状 (L/C) 開設の督促 (一)</li> <li>6 信用状 (L/C) 開設の督促 (二)</li> <li>7 信用状の期限延長の要請 (一)</li> <li>8 信用状の期限延長の要請 (二)</li> <li>9 船積通知と B/L</li> <li>10 インシュランス (保険) と A/R, W/A, F.P.A.</li> <li>11 クレーム (品質苦情) の申し立て</li> <li>12 クレームへの回答</li> <li>13 実習とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
・ 毎回配布するプリント		・ 出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が 60 点以上で単位取得。	

(春) (春)	中国語演習 (ビジネス中国語会話 a) (木 4)	担当者	吉田 桂子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>躍進する中国経済を背景に日本企業の積極的な中国進出が続く中、中国語で直接コミュニケーションができ、且つ中国社会や現地の商習慣を理解し得る人材が今、あらゆる分野で求められています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を中心に、ビジネス業務をスムーズに遂行するため中国現地のビジネスマナーも併せて、聞いて話せる中国語能力の習得を目指します。同時に、様々なビジネス分野の専門用語を含め、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、「ビジネス業務」全般の基礎知識の習得も目指します。</p> <p>実際の授業では、毎回全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めます。理解をより深める為、中国語演習木曜 3 限「中国語ビジネス文書 b」の同時受講と、春/秋通年履修を薦めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 商談の基礎/アポイントメント</li> <li>2 アポイントメントの取得</li> <li>3 引き合い</li> <li>4 引き合いの連絡</li> <li>5 オフファー</li> <li>6 オフファーを提示する</li> <li>7 商品及びメーカーの紹介</li> <li>8 商品及びメーカーを紹介する</li> <li>9 カウンタービット</li> <li>10 カウンタービットの連絡</li> <li>11 コミッションに関する話し合い</li> <li>12 オーダーを確認する</li> <li>13 実習とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>・『実習ビジネス中国語—商談編』白水社</p>		<p>・出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が 60 点以上で単位取得。</p>	

(秋) (秋)	中国語演習 (ビジネス中国語会話 b) (木 4)	担当者	吉田 桂子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>躍進する中国経済を背景に日本企業の積極的な中国進出が続く中、中国語で直接コミュニケーションができ、且つ中国社会や現地の商習慣を理解し得る人材が今、あらゆる分野で求められています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を中心に、ビジネス業務をスムーズに遂行するため中国現地のビジネスマナーも併せて、聞いて話せる中国語能力の習得を目指します。同時に、様々なビジネス分野の専門用語を含め、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、「ビジネス業務」全般の基礎知識の習得も目指します。</p> <p>実際の授業では、毎回全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めます。理解をより深める為、中国語演習木曜 3 限「中国語ビジネス文書 b」の同時受講を薦めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 支払条件</li> <li>2 支払条件を取り決める</li> <li>3 船積み期日</li> <li>4 船積み期日に関する話し合い</li> <li>5 パッキング条件</li> <li>6 パッキング条件を話し合う</li> <li>7 インシュランス (保険)</li> <li>8 インシュランス (保険) の取り扱い</li> <li>10 クレーム</li> <li>11 クレームを申し立てる</li> <li>12 契約を締結する</li> <li>13 実習とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>・『実習ビジネス中国語—商談編』白水社</p>		<p>・出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が 60 点以上で単位取得。</p>	



(春) (春)	中国語演習 (中国近代戯曲)	担当者	劉 岸麗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国近代戯曲の一作品の翻訳を通して、中国語及び中国文学の読解力、会話力を向上させるのは授業の目的である。</p> <p>使用予定の作品は曹禺の「雷雨」(第二幕)、近代演劇の成熟を示した、画期的な作品と評価されたものです。やさしく洗練されたせりふの醍醐味をあげてもらいたい。</p>		<p>1 二、三ページずつ</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>13</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「雷雨」(第二幕) プリント		期末レポート、通常の出席及び翻訳発表の総合評価。	

(秋) (秋)	中国語演習 (中国近代エッセイ)	担当者	劉 岸麗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>有名作家のエッセイを読み、伝統社会から近代社会に移り変わろうとする時代に生きていた中国人の精神世界を理解することと、中国近代文学の読解力を向上させることは授業の目的とする。</p> <p>テキストは原作を使用する予定である。</p>		<p>1. 「背影」 朱自清</p> <p>2.        "</p> <p>3. 「拝偶記」 朱自清</p> <p>4.        "</p> <p>5. 「銭」 張愛鈴</p> <p>6.        "</p> <p>7. 「天才夢」 張愛鈴</p> <p>8.        "</p> <p>9. 「我的理想家庭」 老舎</p> <p>10.       "</p> <p>11. 「談虎集」 周作人</p> <p>12.       "</p> <p>13.       "</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「朱自清」 散文集などのプリント		毎回の翻訳発表の評価及び出席による。	

(春) (春)	日本思想史 a	担当者	川村 肇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。</p> <p>2. 古代から中世に至る日本思想史の概略的な流れを理解する。</p> <p>3. 現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。</p> <p>4. 「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。</p> <p>かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成もあるので、意欲的に参加されたい。</p> <p>日本語を母語としない学生は、少なくとも「<u>上級日本語Ⅱ</u>」の単位を取得していること。</p> <p>古文や漢文を資料として用いるなど、かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいてほしい。</p>		<p>1 講義の進め方の説明</p> <p>2 古代から近世までの思想史の概略</p> <p>3 日本文化の特質について</p> <p>4 仏教と古代日本</p> <p>5～6 キリスト教と日本</p> <p>7 日本の近世思想の概略／江戸という時代</p> <p>8 儒学思想</p> <p>9 朱子学と日本</p> <p>10 貝原益軒の思想</p> <p>11 荻生徂徠の思想</p> <p>12 水戸学の思想</p> <p>13 武士道について</p> <p>14 幕末維新期の思想／民衆の思想</p> <p>15 歴史意識の「古層」について</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
配布プリント類による／参考文献は、適宜紹介する。		最終レポートおよび、適宜課外レポート、感想文など。講義中に、文献の暗唱を求めることがあるが、その場合には、その結果を加味する。	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)	日本文化・芸能論 a	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ある特定の間人集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文化」と言う。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。その意味で日本の「古典芸能」は意図的に民衆の心の動きを表現し、維持・伝承してきた。</p> <p>日本における「芸能」の概念が歴史的にどう形成されたかを講義した上で、各分野における古典芸能の粋を鑑賞し、それぞれの分野で日本的な「美」がどのような価値観に支えられて表現されているかを分析し、講義する。</p> <p>具体的には「雅楽」「歌舞伎」「文楽」「能・狂言」「相撲」「箏曲・地唄」「長唄」「日本舞踊」「茶道」「華道」「古典落語」等を取りあげ、映像資料を用いて視点を呈示し、概念と「振り（演出）」の実際がどう機能しているかに留意する。</p> <p>なお、4～7月に歌舞伎・文楽・日本舞踊・落語の鑑賞（参加費各回 1500～2000 円）を行う。</p>		<p>〈各回のテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・導入</li> <li>2 「日本」における「古典」と「芸能」</li> <li>3 雅楽…「音楽」の「古典」という幻想</li> <li>4 歌舞伎…派手と粋、世話と人情</li> <li>5 文楽…人形の表現、声の表現</li> <li>6 能・狂言…「幽玄」とは何か？</li> <li>7 相撲…「芸能」と「スポーツ」と</li> <li>8 箏曲・地唄…庶民の教養・情操</li> <li>9 長唄…芝居と音楽的独立と</li> <li>10 日本舞踊…「所作」と「ふり」と</li> <li>11 茶道・華道…わび茶と生け花</li> <li>12 古典落語…庶民の生活と「ことば」</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室でその都度指示する		数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績	

(秋) (秋)	日本文化・芸能論 b	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ある特定の間人集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文化」と言う。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。<u>無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観</u>もすべて「文化」である。その中でも民俗芸能は、民衆生活との結びつきの深さという点からは特徴的な「文化」である。</p> <p>日本の民俗芸能は世界にもまれに見る濃厚さで民衆生活と結びついてまだ残存しているが、そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義していく。「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点から東西日本の様々な民俗芸能を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料を用いて視点を呈示し、概念と「振り（演出）」の実際がどう機能しているかに留意する。</p>		<p>〈各回のテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・導入</li> <li>2 日本文化の複合重層性と「見えないもの」</li> <li>3 神の来訪と芸能①…春日若宮のおん祭</li> <li>4 神の出現と芸能②…八重山の祭と芸能 I</li> <li>5 異人の出現と芸能①…八重山の祭と芸能 II</li> <li>6 異人の出現と芸能②…岩手県の鹿踊・剣舞</li> <li>7 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植</li> <li>8 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り I</li> <li>9 稲作の習俗と芸能③…東北の田植踊り II</li> <li>10 稲作の習俗と芸能④…能登のアエノコト</li> <li>11 年齢階梯と芸能①…福島県の成人儀礼「幡祭」</li> <li>12 年齢階梯と芸能②…兵庫県の宮座</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト『日本の伝統芸能』錦正社、(税込 3,500 円) ISBN4-7646-0109-5 参考文献は随時教室で示す。</p>		数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績	

(春) (春)	日本近現代史 a	担当者	丸浜 昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、首相の靖国神社参拝にもみられたように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。</p> <p>そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そうして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって</li> <li>2 日中戦争と対米英戦争</li> <li>3 真珠湾からか、コタバルからか</li> <li>4 被害の問題①—空襲は何を示すか</li> <li>5 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか</li> <li>6 加害の問題①—731 部隊とは何か</li> <li>7 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか</li> <li>8 加害の問題③—強制連行と従軍慰安婦</li> <li>9 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる</li> <li>10 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか</li> <li>11 戦時下の社会①—天皇制と国家神道</li> <li>12 戦時下の社会②—戦争への動員・協力と抵抗</li> <li>13 まとめとして—戦争の全体像を考える</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定	

(秋) (秋)	日本近現代史 b	担当者	丸浜 昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「15 年戦争」は、戦後 60 年を越えた今日でも、日本と中国、韓国の間で問題になっているように、日本の社会に大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということがからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。</p> <p>秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 沖縄戦が私たちに投げかけたこと</li> <li>2 本土決戦と日本の戦争の終わり方</li> <li>3 日本国憲法はどう生まれたか</li> <li>4 東京裁判をめぐって</li> <li>5 サンフランシスコ講和のもった問題</li> <li>6 日本とドイツの戦後補償①</li> <li>7 日本とドイツの戦後補償②</li> <li>8 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか</li> <li>9 日中国交回復への道のり</li> <li>10 「731 部隊展」の取り組みが意味したこと</li> <li>11 アジアの民衆からの戦後補償要求</li> <li>12 戦後 50 年の国会決議をめぐって</li> <li>13 過去の戦争と現代の戦争</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定	

(春) (春)	日本文学	担当者	福沢 健
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本文学の代表的なテキストである万葉集について、論じる。万葉集の歌を読みながら、文学が政治・階級・都市・国家というような社会的要素とどのように結びついているかを見ていきたい。最後に、日本文学としての万葉集とはどのような意味を持つものか、国民国家論と関連させて述べる。</p> <p>文学が単に作者の感情を表出するためのものならば、千年以上も生き残ることはなかった。長い年月生き残るためには、社会的な機能があったからである。この授業では、文学の目に見えない働きについて考えていきたいと思う。</p> <p>なお、古典の知識がなくても分かるように話します。別に、品詞分解のようなことはやりません(必要なときには、少し説明しますが、テストで出したりしません)。古典が苦手だという人にも分かるように、努力していくつもりです。</p>		<p>1 万葉集とは何か 2 大王の歌 3 国見の歌 4 恋の歌と行幸 5 歌垣とタブー 6 亡都への嘆き 7 日の皇子の死 8 秩序ある風景 9 社会への怒り 10 酒への讃美 11 東国の歌 12 万葉風の完成 13 万葉集の発明</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント配布 参考文献は、授業中に指示します。</p>		<p>出席 試験</p>	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)	日本経済論 a	担当者	波形 昭一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。</p> <p>なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 戦後民主化政策と経済改革</li> <li>3. 戦後経済復興対策</li> <li>4. ドッジ・ラインとシャープ勧告</li> <li>5. 朝鮮戦争と日本経済</li> <li>6. 高度成長時代の到来</li> <li>7. 高度成長の構造</li> <li>8. 高度成長の精神的土台</li> <li>9. 高度成長の時代背景</li> <li>10. 高度成長の終焉(1) ドル・ショック</li> <li>11. 高度成長の終焉(2) オイル・ショック</li> <li>12. 日本経済の構造転換</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
主に統計表などのプリントを配布。		学期末試験の結果（通年講義は春期・秋期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。	

(秋) (秋)	日本経済論 b	担当者	波形 昭一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1970年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく変化し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえて、70年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた10年」について論述し、そのうえで近年たたかわされた日本経済再建論議の当否、小泉内閣の構造改革の位置づけ、さらにその後の状況を検討したい。</p> <p>なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. スタグフレーションとその原因</li> <li>3. レーガノミクスとアメリカ経済</li> <li>4. プラザ合意後の経済変化</li> <li>5. バブル経済の発生とその原因</li> <li>6. バブル経済の崩壊</li> <li>7. 平成不況の特徴 ー複合不況ー</li> <li>8. 「失われた10年」とその意味</li> <li>9. 景気対策か構造改革か(1)</li> <li>10. 景気対策か構造改革か(2)</li> <li>11. 小泉内閣の構造改革を問う(1)</li> <li>12. 小泉内閣の構造改革を問う(2)</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春期と同じ。		春期と同じ。	

(春) (春)	日本政治外交史 a	担当者	福永 文夫
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治外交史を講義している。本年は、戦後日本の政治と外交を論ずること、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを見てみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに一戦後日本と国際環境一</li> <li>2. 日米戦争への道</li> <li>3. 米国の占領政策（1）－ローズベルト政権</li> <li>4. 米国の占領政策（2）－国務省知日派の闘い</li> <li>5. 米国の占領政策（3）－ヤルタからポツダムへ</li> <li>6. 敗戦と占領の開始</li> <li>7. 政党の復活－戦前と戦後</li> <li>8. 新憲法の誕生（1）</li> <li>9. 新憲法の誕生（2）</li> <li>10. 占領改革</li> <li>11. 戦後日本の出発－政党政治の復活</li> <li>12. 中道政権の形成と崩壊－改革から復興へ－</li> <li>13. おわりに</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
福永文夫『戦後日本の再生－1945～1964年』丸善		講義中に行う平常試験（50点）と年度末の定期試験（50点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

(秋) (秋)	日本政治外交史 b	担当者	福永 文夫
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治外交史を講義している。本年は、戦後日本の政治と外交を論ずること、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、サンフランシスコにおける講和・独立から55年体制を経て70年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに一国際社会と戦後日本一</li> <li>2. 吉田茂の再登場</li> <li>3. 講和への胎動</li> <li>4. 「全面講和論」の展開</li> <li>5. 講和をめぐる国際関係</li> <li>6. サンフランシスコ講和</li> <li>7. 保守勢力の混迷</li> <li>8. 「55年体制」の成立－保守合同と社会党の統一</li> <li>9. 鳩山・岸内閣</li> <li>10. 60年安保騒動と政党政治</li> <li>11. 池田・佐藤政権</li> <li>12. 混迷の70年代</li> <li>13. おわりに</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
福永文夫『戦後日本の再生－1945～1964年』丸善		講義中に行う平常試験（50点）と年度末の定期試験（50点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	



(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	日本研究特殊講義(文献読解)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言うまでもないことだが、現代の日本が先進国の一員として国際社会にいられるのは、19世紀後半に明治維新を経て近代化に成功したからである。それから1世紀以上を経て、グローバル化の渦中にある現在、日本が如何にして近代化を進めて国際社会に躍り出るに至ったかを振り返ることは意味があるだろう。この講義では日本の近代化の実相を理解するために必要な文献の購読をする。</p> <p>具体的にはイザベラ・バード著『日本奥地紀行』(高梨健吉訳、平凡社ライブラリ)を読み進め、都市における「文明開化」と東北地方における江戸時代とほぼ変わらぬ暮らしとの対比をすることで、明治時代の近代化がどのように進み、現代へと至っているかを理解する。授業は演習形式で学生諸君に分担してもらい、『日本奥地紀行』の年紀と記事内容を、当時の風俗や地理、文化的な様相、同時に日本で起きている社会変革の諸事象等と比較し、平行して理解していく方策を探っていく。</p>		1 オリエンテーション (参考文献の提示、発表順) 2 概説 (イザベラ・バード、近代化、時代) 3 発表① 4 発表② 5 発表③ 6 発表④ 7 発表⑤ 8 発表⑥ 9 発表⑦ 10 発表⑧ 11 発表⑨ 12 発表⑩ 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト『日本奥地紀行』(税別 1500 円)ISBN4-582-76329-4【参考文献】『イザベラ・バードの『日本奥地紀行』を読む』宮本常一、平凡社ライブラリ、(税別 1,200 円) ISBN4-582-76453-3  その他多数あるので教室で示す</p>		発表の成果と学期末試験(論述式)の成績による。	

(春) (春)	日本研究特殊講義(写本を読む)	担当者	飯島 一彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本の古典、あるいは近代になっても多量に残された生活に関わる文書等、筆墨で記された文献(版本を含む)を読み解くために必要な基本的技能(連綿体・変体仮名・書類上の日本漢文を読み解く力)を、写本類を読むことで養う。</p> <p>具体的には、変体仮名を読む訓練を徹底的にした後、近世期に記された文芸(物語・和歌類)・地方文書・実用書(版本)等の各ジャンルから様々な様態を示すもののうち典型的な例を影印で示して読解の指導と作業を行う。</p> <p>さらに、基礎力を養った後に架蔵の写本類から比較的分量の少ないものを影印で与えて翻刻を課する。余裕のあるものには毛筆での書写も課する。</p> <p>全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</p>		<p>〈各回のテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・導入</li> <li>2 概説(日本の筆写・出版の歴史)</li> <li>3 変体仮名演習①</li> <li>4 変体仮名演習②</li> <li>5 変体仮名演習③</li> <li>6 変体仮名演習④</li> <li>7 和歌を読む①</li> <li>8 和歌を読む②</li> <li>9 物語を読む①</li> <li>10 物語を読む②</li> <li>11 文書を読む①</li> <li>12 文書を読む②</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト『古文書検定入門編』柏書房(税別1,200円) ISBN4-7601-2799-2          参考図書『宮内庁書陵部書庫渉猟一書写と装訂一』おうふう(税別3800円) ISBN4-273-03396-8,</p>		<p>数回の提出物、および学期末試験の成績による。</p>	

(秋) (秋)	日本研究特殊講義(碑文を読む)	担当者	飯島 一彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類(墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等)を読み解くために必要な基本的技能(連綿体・変体仮名・日本漢文・経文・梵字等)を養い、解釈と理解の道筋を示して身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高める。</p> <p>具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を影印・拓本・写真などで示して読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い報告することを課する。</p> <p>変体仮名の初歩等から教えることはしないので、日本研究特殊講義(写本を読む)をすでに履修したもの、もしくは変体仮名を読めることが履修の最低条件である。</p> <p>全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</p>		<p>〈各回のテーマ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・導入、変体仮名読解試験</li> <li>2 概説(石碑の種類・刻まれた文字達)</li> <li>3 日本漢文体読解練習</li> <li>4 経文読解練習</li> <li>5 梵字読解練習①</li> <li>6 梵字読解練習②</li> <li>7 墓碑銘を読む①</li> <li>8 墓碑銘を読む②</li> <li>9 記念碑を読む</li> <li>10 歌碑・句碑を読む①</li> <li>11 歌碑・句碑を読む②</li> <li>12 供養碑を読む</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト『古文書検定入門編』柏書房(税別1,200円) ISBN4-7601-2799-2          他の文献については教室にて示す。</p>		<p>数回の提出物、およびレポート(碑文の採集)の成果による。</p>	

(春) (春)	日本研究特殊講義(企業経営)	担当者	黒川 文子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、我国企業の経営の特質について、グローバルな視点から考察することが目標である。グローバルな日本企業を数社取り上げて、先進国、発展途上国を問わず、如何に市場に参入し、成功を収めているかについて考察する。その上で、日本企業の企業経営における競争優位性について理解を深めていく。</p> <p>日本企業がグローバル企業として世界に認められるには、その条件がある。日本国内だけに目を向けた経営は、やがて世界から排除されるのみならず、市場からの消滅の恐れこそある。したがって、限定された地域、人々を対象とするのではなく、開放的な経営をすることが、肝要となる。未成熟な経営段階からグローバル企業として認知されてきている我国企業の経営について、具体例を取り上げながら講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代企業の諸形態</li> <li>2. 株式会社の発展と企業支配</li> <li>3. 日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス</li> <li>4. 現代企業の社会的責任</li> <li>5. 現代企業の環境経営</li> <li>6. 現代企業の経営戦略</li> <li>7. 人間関係論からモチベーション論へ</li> <li>8. 経営組織の基本形態</li> <li>9. 経営組織の発展形態</li> <li>10. 製造業の国際競争力と生産管理</li> <li>11. 経営のグローバル化と多国籍企業</li> <li>12. 現代企業における IT 戦略</li> <li>13. 日本型企业システムの変容</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)	日本研究特殊講義(能楽論)	担当者	瀬尾 菊次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。</p> <p>この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点からビデオ鑑賞・仮設舞台での実演などを交えて、平易に解明していきます。</p> <p>能楽の実際を知るため能楽堂での鑑賞を実施します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 古典芸能としての能楽</li> <li>② 能楽の概説</li> <li>③ 能楽のながれ</li> <li>④ 能楽を演じる各役</li> <li>⑤ 能舞台について</li> <li>⑥ 能の演技について (実演)</li> <li>⑦ 能の演目について I</li> <li>⑧ 能の演目について II (実演)</li> <li>⑨ 能の構成 I (夢幻能と現在能)</li> <li>⑩ 能の構成 II (源義経の能)</li> <li>⑪ 能の構成 III (源義経の能)</li> <li>⑫ 能の構成 IV (源義経の能)</li> <li>⑬ まとめ</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
関連資料のコピー配布		課題レポート・能楽鑑賞レポート	

(秋) (秋)	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾 菊次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>古典芸能「能」は、日本歴史上の出来事や伝説を題材として曲目が作られており、中世の武士(もののふ)の活躍が描かれています。</p> <p>今回は、信州に伝わる鬼・奈良春日野に土着する鬼の話を取り上げ、能としてどのように作品化されているか解釈していきます。</p> <p>能楽についての知識・鑑賞法も併せて解説します。</p> <p>「能楽」への理解度を深めるために、春期から続いている受講も可能です。</p> <p>能楽の実際を知るため、能楽堂での鑑賞を実施します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 能楽の紹介</li> <li>② 鬼伝説と能</li> <li>③ 能「紅葉狩」を題材として能について</li> <li>④ 能「紅葉狩」を題材として能について</li> <li>⑤ 能の演技について (実演)</li> <li>⑥ 能「紅葉狩」の解釈と鑑賞 I</li> <li>⑦ 能「紅葉狩」の解釈と鑑賞 II</li> <li>⑧ 能「紅葉狩」の特殊演出</li> <li>⑨ 歌舞伎「紅葉狩」 I</li> <li>⑩ 歌舞伎「紅葉狩」 II</li> <li>⑪ 鬼の能「野守」 I</li> <li>⑫ 鬼の能「野守」 II</li> <li>⑬ まとめ</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
関連資料のコピー配布		課題レポート・能楽鑑賞レポート	

(春) (春)	日本研究特殊講義(民俗学)	担当者	長野 隆之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>民俗とは民間に伝承されてきた生活文化であり、日本民俗学は、その歴史的変遷、もしくは、民俗を資料として日本文化の構造などを明らかにし、研究成果を現在に活かすことを目的としている学問である。</p> <p>したがって、本講義では、民俗学の基礎的な理論と日本文化の多様性の把握を目的として、人間が生きていくために最も切実な問題である食の確保、すなわち、生業を基盤として、そこから設定された文化類型に沿って、ヒトとヒト・ヒトとカミ・ヒトと自然との関わりを、文献や音声・映像などの具体的資料を提示しながら講義したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 民俗学とは／日本人の民俗的世界概念</li> <li>3 海上の道／稲を選んだ日本人</li> <li>4 海民の生活と文化</li> <li>5 稲作民の生活と文化</li> <li>6 餅なし正月と雑穀・畑作文化</li> <li>7 山民の生活と文化</li> <li>8 山と海の交流</li> <li>9 都市の民俗文化</li> <li>10 学校の怪談／妖怪と幽霊</li> <li>11 カミとヒト／アニミズム</li> <li>12 女性と子どもと老人の民俗文化</li> <li>13 授業時試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業時に指示		試験によって評価：授業の理解度(80%)＋考察(20%) ただし、授業の1/3を欠席した者には、受験資格を与えない。	

(秋) (秋)	日本研究特殊講義(地域文化)	担当者	長野 隆之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>正月には神社に参拝をし、盆に寺で死者供養を行ない、クリスマスイベント化している日本人の姿は、成立宗教をあつく信仰している人びとに奇異なものとして映じているであろう。しかし、仏教を帰化させ、さまざまな仏を「神」として信仰してきた日本人にとっては、そういった信仰のあり方はむしろアタリマエなのであり、「神」という語から想起されるイメージも一様ではない。</p> <p>本講義では、そうした信仰のあり方の表象として儀礼・芸能を捉え、それらを通して日本人の信仰の在り方を把握することを目的として、文献や音声・映像などの具体的資料を用いて、日本の民間信仰を、それが伝承されている地域との関わりから把握し、検討したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 祭り・儀礼・芸能の概念と構造</li> <li>3 神懸かりと巫女神楽</li> <li>4 山伏神楽と修験道</li> <li>5 宗教者と芸能</li> <li>6 予祝儀礼①—小正月の訪問者</li> <li>7 予祝儀礼②—モノマネ・モノヅクリ</li> <li>8 田植え儀礼</li> <li>9 災厄防除儀礼／鎮送呪術</li> <li>10 収穫祭と田の神送り</li> <li>11 宴会と芸能</li> <li>12 特定小地域での祭り・儀礼・芸能の在り方</li> <li>13 授業時試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業時に指示		試験によって評価：授業の理解度(80%)＋考察(20%) ただし、授業の1/3を欠席した者には、受験資格を与えない。	

(春) (春)	日本語文法論 a	担当者	浅山 佳郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義目的〕 日本語教育のための文法をあつかう。ここで対象とする文法とは、いわゆる「文」をつくりだすための規則のセットとしての文型文法である。この文法は、日本語学習者が、初級段階の学習において、対象とする学習項目である。学習者の初級段階での目標は、この文法を獲得することによって、「文」をつくりだせるようになることである。</p> <p>本講義では、そうした意味をもつ文法について、日本語の教師として必要な知識を獲得することを目的とする。</p> <p>この形態論では、文型文法の前半として、語の認定・動詞の活用・名詞と格・ヴォイス・アスペクトなどをとりあげる。</p> <p>〔講義概要〕 講義資料は、講義支援ポータルサイトに掲示される。それを、毎回、授業前によんでくることが要求される。授業は資料への質問と、その内容に対する課題（おおおくは例文とそれへの文法の適用分析）をクラスで議論し、発表することによる。文法上の問題をたて、データから解答をつくり、それを解釈して理論とする、ということを授業で実践したい。</p>		第1回 文法とはなにか 第2回 語の認定と形態素（1） 第3回 語の認定と形態素（2） 第4回 名詞と格（1） 第5回 名詞と格（2） 第6回 名詞と格（3） 第7回 動詞の活用（1） 第8回 動詞の活用（2） 第9回 動詞の活用（3） 第10回 ヴォイス（1） 第11回 ヴォイス（2） 第12回 アスペクト（1） 第13回 アスペクト（2）	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		期末試験をおこなう。授業への参加および発表も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

(秋) (秋)	日本語文法論 b	担当者	浅山 佳郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義目的〕 講義の目的などについては、日本語文法論 a に準ずる。当該の項を参照のこと。なお、日本語文法論は、春学期の日本語文法論 a と秋学期の日本語文法論 b をあわせて全体となるように計画されているが、両者を連続して受講しなければならないものではなく、この講義は、日本語文法論 a の履修を前提とするものではない。</p> <p>日本語文法論 b では、文型文法の後半として、疑問・時制・モダリティ・「のだ」をあつかうとともに、複文の文法もとりあげる。</p> <p>〔講義概要〕 講義の方法などについては、日本語文法論 a に準ずる。当該の項を参照のこと。</p>		第1回 疑問と平叙（1） 第2回 疑問と平叙（2） 第3回 時制（1） 第4回 時制（2） 第5回 モダリティ（1） 第6回 モダリティ（2） 第7回 「のだ」（1） 第8回 「のだ」（2） 第9回 並列節と副詞節（1） 第10回 並列節と副詞節（2） 第11回 連体節と補足節（1） 第12回 連体節と補足節（2） 第13回 まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		期末試験をおこなう。授業への参加および発表も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

(春) (春)	日本語音声学 a	担当者	磯村 一弘
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本語の音声について、基本的な知識を学ぶ。          普段、意識しないで話している日本語の音声を、客観的に捉えられるようになることを目標とする。          昨年度までと異なり、今年度は半年間の講義で単音から韻律までの分野を一通りカバーすることになっている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語音を作るしくみ</li> <li>2. 母音</li> <li>3. 子音(1)</li> <li>4. 子音(2)</li> <li>5. 音素と異音、拍</li> <li>6. 五十音図とその発音</li> <li>7. ★中間試験★</li> <li>8. 特殊音素(1)</li> <li>9. 特殊音素(2)、母音の無声化</li> <li>10. アクセント(1)</li> <li>11. アクセント(2)</li> <li>12. イントネーション</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>猪塚恵美子・猪塚元『日本語の音声入門』バベル・プレス(2003年)。そのほか、適宜プリントを配布する。</p>		<p>中間試験、期末試験による。出席は取らない。</p>	

(秋) (秋)	日本語音声学 b	担当者	磯村 一弘
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「日本語音声学」の応用編として、外国人学習者に対する日本語音声教育について扱う。          日本語の音声について、それぞれの項目ごとに復習しつつ、外国人にとってそれがどのように問題になるか、これを外国人に教える際どのような方法があるか等について考える。          履修システムの関係で、少人数の授業となることが予想されると聞いているので、授業では、単音の実際的な発音訓練や、ディスカッション、簡単なリサーチ、模擬授業等を行うことも予定している。          なお、授業は日本語音声学の基礎的な(「日本語音声学 a」終了程度)の知識を前提とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声を教える前に</li> <li>2. 日本語の母音と子音(1)</li> <li>3. 日本語の母音と子音(2)</li> <li>4. 日本語の母音と子音(3)</li> <li>5. 日本語の母音と子音(4)</li> <li>6. 長音、促音、撥音</li> <li>7. ★中間試験★</li> <li>8. 拍とリズム</li> <li>9. アクセント(1)</li> <li>10. アクセント(2)</li> <li>11. イントネーション</li> <li>12. 音声を教えるときに</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>国際交流基金『音声を教える』ひつじ書房(近刊。発行が授業開始までに間に合わない場合は授業中に指示する)。</p>		<p>中間試験、期末試験によるが、授業でのパフォーマンスも考慮する。</p>	

(春)	対照言語学 a	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>① 第二言語習得の理論を概観した後、日本語と他の言語の共時的な比較対照及び誤用分析の方法を学ぶ。対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。</p> <p><u>具体的なクラス運営</u></p> <p>① クラスの形態は講義と演習（学生による誤用分析）を中心とする。</p> <p>② 比較対照を行う演習形式をとる。日本語と英語の翻訳文を資料とし、語順、コソアドなどの文法項目について検討する。</p> <p>③ 後期には講義と学生による課題発表を中心としたい。比較対照の課題における言語は英語に限らない。</p>		<p>1. オリエンテーション 対照研究とは？ 誤用分析とは？ 言語類型論と対照研究 言語習得概論</p> <p>2. 音のしくみ</p> <p>3. 語順</p> <p>4. 形容詞</p> <p>5. 指示代名詞　ーコソアド</p> <p>6. 人称代名詞</p> <p>7. 動詞</p> <p>8. テンスとアスペクト</p> <p>9. 日本語の構造（主題・解説　v s　主語・述部）</p> <p>10. ヴォイス</p> <p>11. 授受表現</p> <p>12. モダリティ</p> <p>13. 敬語</p> <p>14. その他、「原因」「理由」「推量」等さまざまな表現</p> <p>上記の項目は授業で取り上げる予定の項目であり、学生の興味、希望によっては変更される。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献はクラスで紹介する。 テキストは特に指定しないが日英対照のための小説を使用する。基本的にはプリントの配布を中心とする。</p>		<p>①テスト　②課題発表 ③出席率　④クラス参加</p>	

(秋)	対照言語学 b	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に同じ</p>		<p>引き続き、上記の項目について講義＋演習の形で進める。授業形態としては、後期は学生の人数にもよるが、課題発表が中心となる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献はクラスで紹介する。 テキストは特に指定しない。基本的にはプリントの配布を中心とする。</p>		<p>①テスト　②課題発表 ③出席率　④クラス態度</p>	



(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	日本語語彙・意味論	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 意味論と語用論について学習する。テキストは英語による意味論・語用論のものであるが、言語学の基礎的な意味論の諸問題を理解することを当面の課題とする。ただし、本講義の最終的な目的は、日本語教育を念頭においたうえでの日本語についての意味論・語用論であるので、できるだけ日本語の問題としてあつかう。</p> <p>〔講義概要〕 本年度の授業は、Hofman &amp; Kageyama による『10 Voyages in the Realms of Meaning』を読解することを中心とする。授業前にテキストの各章を予習してくることが要求される。毎回の授業では、簡単な解説と質問のあと、テキストに付属のエクササイズを日本語に適用した課題について、議論と発表をかさねる。なお、課題は事前に講義支援ポータルサイトに掲示される。</p>		第1回 意味 第2回 有標性 第3回 対義と否定 第4回 指示 第5回 方向 第6回 助動詞 第7回 時 第8回 アスペクト 第9回 語から文へ 第10回 意味と文脈 第11回 談話 第12回 語用 第13回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Th. R. Hofman & 影山太郎 共著『10 Voyages in the Realms of Meaning (10日間意味旅行)』くろしお出版.1993年		期末試験をおこなう。授業への参加および発表も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

(春)	日本語教授法 I a	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>将来、国内あるいは海外で日本語教師として日本語を教えたい、あるいは、ボランティア活動を通じて外国人と関わり、日本語を教えたいと考える学生を対象にしたコースである(但し、言語教育という観点からは、他言語の教育にも応用され得る)。</p> <p>言語教育の基本理念、言語学習及び習得理論を紹介した上で、主要な外国語教授法の理論的背景を概観する。主たる目標は、発話場面や文脈にあった言語運用能力を育成する指導法を考える能力を養うことであり、そのために具体的な教材の紹介、教室活動の展開、文型・文法項目等の指導法を具体的に紹介する。最終的には、各自がそれぞれ実際に教案・教材を作成する、極めて実践的な授業である。</p> <p>課題研究の発表についてはグループワーク、ペーパーワークの形態をとるが、基本的には講義が中心となる。日本語教育の理論と実践の全般に亘るかなり広範囲の内容になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとコースデザイン (レディネス分析とニーズ分析)</li> <li>2. 学習理論・言語習得理論</li> <li>3. オーディオリンガル v s コミュニカティブ・アプローチ</li> <li>4. 教材・教具論 &lt;課題：教科書評価&gt; グループ内での報告</li> <li>5. 技能別指導法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本語の音声教育</li> <li>(2) 聴解指導</li> <li>(3) 文字指導</li> </ol> </li> </ol> <p>上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 ①プリント ②『実践日本語教授法』 中西家栄子他 バベル出版 ③その他さまざまな参考文献は授業中に紹介</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>①課題提出</li> <li>②前期テスト</li> <li>③出席率</li> </ol>	

(秋)	日本語教授法 I b	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期と同じ		<p>技能別指導法の続き</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(4) 読解指導</li> <li>(5) 作文指導</li> <li>(6) 文法/文型の指導</li> <li>(7) 会話指導 &lt;ドリルの作成&gt; ドリル課題 - グループでの検討 コミュニケーション活動の紹介</li> <li>(8) 文法(文型)の指導 - 導入方法 コミュニケーション活動の作成 &lt;課題：上記活動の作成&gt;</li> </ol> <p>7. クラス活動全体の展開 教案の書き方 - 導入からまとめまで クラスマネジメント(例：誤用の訂正方法)</p> <p>8. &lt;課題：教案の作成&gt;とクラス内でのグループ発表</p> <p>9. テスト作成法 ・ 評価 ・ 評価</p> <p>上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> <li>①課題提出(教案の作成、その他)</li> <li>②後期テスト</li> <li>③出席率</li> </ol>	

(春) (春)	日本語教授法Ⅱ	担当者	浅山 佳郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義目的〕 外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なう準備教育であり、演習中心の授業である。</p> <p>〔講義概要〕 毎回、学生による模擬授業となる。日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生になり、その授業を受けながら、授業の進行を客観的に観察する。観察を通じ、各人が教室活動、指導法について具体的に評価・検討する。</p>		<p>1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ④授業観察の方法</p> <p>2回目～ 担当者による模擬授業</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『みんなの日本語』（初級用） 『日本語の教え方の秘訣』スリーエーネットワーク		①模擬授業 ②教案の提出 ③レポート（授業観察のまとめと自己分析） ④出席によって評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春)	日本語教授法Ⅱ	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なうための準備教育であり、演習中心の授業である。毎回、学生による模擬授業となる。模擬授業の担当者はまず教案を1週間前に教員に提出し、授業の準備を行う。模擬授業担当以外の学生は、仮の日本語学習者となり、その授業を受ける。その場合、学習者は授業の進行を客観的に観察し、担当者の行う教室活動、指導法を具体的に検討・評価する。一方、模擬授業担当者は自分の授業をビデオ録音し、授業後、自分の授業を観察し、さらに自己評価を行う。最後に、自己評価および他者からの観察シートをまとめ、自己分析に基づいて、レポートを提出する。</p> <p>登録者数にもよるが、各自、少なくとも2回程度の模擬授業を行うことになる。</p> <p><b>**注意： 1回目の授業で、担当の割り当て、日程を決定するので、必ず出席をすること。</b></p>		<p>1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ー 復習 ④動詞の活用と分類 ー 復習 ⑤ドリル作成 ー 復習 ⑥授業観察の方法</p> <p>2回目より 担当者による模擬授業 授業担当者は1回につき2名。 30分の模擬授業と15分の質疑応答</p> <p>内容：初級文型の導入と指導 中級読解の指導、など</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>初級：『みんなの日本語』を中心に 参考文献：①「日本語の教え方の秘訣」スリーエーネットワーク ②「中・上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク</p>		<p>①模擬授業 ②教案の提出 ③レポート (授業観察のまとめと自己分析) ④出席</p>	

(秋)		担当者	
(秋)			
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(春) (春)	日本語教授法Ⅱ	担当者	松浦 恵津子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行うための準備教育で、演習中心の授業である。</p> <p>毎回、学生による模擬授業を行う。日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生役あるいは観察者となる。全員が教室活動や指導法について具体的に評価・検討し、授業の改善を目指す。</p> <p>担当回数と模擬授業時間は人数によって決めるが、全体を通して少なくとも1人2～3回は行う。</p> <p>周到的な準備とリハーサルを行ったうえで模擬授業に臨むことが求められる。</p>		<p>1回目 ①オリエンテーション ②初級の学習項目 ③1つの授業の流れ ④ドリルとアクティビティー ⑤教材・教具について ⑥教案の書き方(確認) ⑦授業観察の方法 ⑧スケジュール決め ⑨評価方法 ⑩参考文献</p> <p>2回目以降 担当者による模擬授業</p> <p>必ず1回目から出席すること。2回目から模擬授業を行うので、そのつもりで参加してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>初級テキスト『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』(スリーエーネットワーク)を中心に 参考文献:『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ教え方の手引き』</p>		<p>①模擬授業の準備と実践 ②事前の教案提出 ③レポート(授業観察のまとめと自己分析) ④出席</p>	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春)			
(春)			
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋)	日本語学 a	担当者	中西 家栄子
(秋)			
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、第二言語としての日本語教科書の分析を中心に進める。教科書の分析を通じながらコミュニケーションのための日本語教育文法について検討する。その上で、コミュニケーションのための教材開発を行う場合、どのように学習項目を決定するのか、その提示順序、提示方法を考える。特に、日本語でのコミュニケーション能力を促進するには、どのような教材が求められるのかをテキストを参考にしながら、クラスで考える。</p> <p>最終的には、明らかになった構成概念に基づいて、4技能のうち、1つを選び、教材を作成することが課題となる。具体的な授業活動としては、教師による解説だけではなく、学習者同士のディスカッション(検討)が重視されるため、指定された教科書のページをきちんと読むことが求められる。</p> <p><b>**注意：このクラスはかなり日本語教育に特化しているため、日本語教育論を履修していることが必須であるとともに日本語教育に強い興味を持っている方が履修することが望ましい。</b></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図</li> <li>2. 機能シラバス</li> <li>3. コミュニケーションに役立つ日本語教育文法</li> <li>4. 日本語学的文法から独立した日本語教育文法</li> <li>5. 学習者の習得を考慮した日本語教育文法</li> <li>6. 学習者の母語を考慮した日本語教育文法</li> <li>7. コミュニケーション能力を高める日本語教育文法</li> <li>8. 聞くための日本語教育文法</li> <li>9. 話すための日本語教育文法</li> <li>11. 読むための日本語教育文法</li> <li>12. 書くための日本語教育文法</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>①テキスト 「コミュニケーションのための日本語教育文法」 野田尚史編 くろしお出版</p> <p>②参考文献 「日本語学習者の文法習得」野田尚史、他 大修館書店 「みんなの日本語」スリーエーネットワーク その他：論文のプリント（クラスで配布）</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>① 課題の提出</li> <li>② 出席率（クラス活動への参加）</li> <li>③ テスト（論述式）</li> <li>④ 課題教材の作成</li> </ol>	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	日本語学 b	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 日本語教育のための談話論をあつかう。初級の日本語学習が、いわゆる「文」を作り出すことのできる規則を、文型として獲得することを目標とするとすれば、中級の日本語学習は、複数の文からなる談話を構成することのできる能力の獲得を目標とすると考えることができる。この授業では、日本語の談話に、一定の構造を考えることによって、学習対象としての談話能力にある程度明確な輪郭を与えることを目標とする。</p> <p>〔講義概要〕 あつかう対象は、指示・省略・主題・隣接ペア・テンス・モダリティ・丁寧さ・ターンなどであり、右欄の計画にそって進行する。受講者は、毎回の授業前に、該当する資料をよんでくることが要求される。授業は、受講者からの質問とそれに対する回答の形式ですすめる。なお、ここで要求している「質問」は、むずかしいものではない。資料中の理解できない箇所について、より詳細な説明をもとめるものでよい。積極的な参加を期待する。</p>		第1回 談話とはなにか、中上級教育と談話論 第2回 指示 第3回 省略と代名詞 第4回 「ハ」主題（1） 第5回 「ハ」主題（2） 第6回 文のモードと隣接ペア（1） 第7回 文のモードと隣接ペア（2） 第8回 テンスとモダリティ 第9回 引用 第10回 丁寧さ 第11回 ターンテイキングなど 第12回 談話と行為 第13回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		期末試験をおこなう。授業への参加および発表も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

(春) (春)	日本語教育論	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語教師になることを目的とした学生のみを対象としたコースではなく、日本語、日本語教育、あるいは語学教育全般にわたって広く興味を持っている学生に受講してもらいたい。</p> <p>1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。 2. 世界の中における日本語教育の現状を知る。 3. 日本語を外国語として概観する。 4. 日本語の基本的な仕組みを知る。 5. 日本語を外国人に教えるとは？</p> <p>授業では様々な授業形態のビデオを見ることによって、実際に日本語教育のイメージをつかんでいく。</p> <p>* 毎回、プリントの配布があるが、このプリントはネット上におくので、自分できちんとこのプリントをダウンロード、プリントすること。</p>		<p>1) オリエンテーション ― 日本語教育の現場を見る (ビデオ)</p> <p>2) 日本語教育とは？ 日本語教育と国語教育の違い (言語伝達能力の指導：教養としての国語力)</p> <p>3) 世界における日本語教育</p> <p>4) 国内における日本語教育</p> <p>5) 日本語教育の歴史と現状</p> <p>6) さまざまな日本語教育 (地域住民のための日本語教育、就学生のための日本語教育、など)</p> <p>7) 日本語の教科書紹介とシラバス</p> <p>8) 外国語としての日本語教育法 (直接法で教える)</p> <p>9) 日本語教師に求められる能力(日本語でのコミュニケーション能力をどう捉えるのか)</p> <p>10) 日本語のしくみとその指導法のポイント 音声 文字・表記 日本語の文法 語彙・意味</p> <p>11) 日本語教育の実際 ― 教室活動の流れ</p> <p>上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし。但し、プリントの配布</p> <p>参考文献：『ここからはじまる日本語教育』 姫野昌子他、ひつじ書房</p>		① 期末定期試験	

(秋) (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	



(春) (春)	日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論 a)	担当者	中西 家榮子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語の文法とコミュニケーション・ストラテジーについての入門コースである。従って、必要に応じて他の文献も課題として与える。講義の部分もあるが、基本的には、全員が参加する演習の形式で進められる。</p> <p>発表担当者は担当部分を要約し、クラスでその内容を解説・発表する。担当者以外の全員は、同様に指定されたテキストを読み、問題点、疑問点等をクラスで述べられるようにする。</p> <p>通年をかけて、テキストを熟読し、日本語について、時には英語と対照しながら、学び、知識の体系化を図る。</p> <p>文法等の内容は基本的なレベルではあるが、履修に際しては、日本語文法等、日本語関連の授業を履修していることが望ましい。</p>		<p>1回目 オリエンテーション 発表担当の分担、いかなる方法で勉強をすすめるかの説明</p> <p>2回目以降 テキストの内容にそって、講義を進める。毎回4～5ユニットぐらいずつ進む。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>An Introduction to Japanese Grammar and Communication Strategies</i> By Senko K. Maynard, The Japan Times, 1990</p> <p>プリント</p>		<p>①課題のまとめと発表 ② 期末テスト ③出席率 (欠席4回以上はF評価とする)</p>	

(秋) (秋)	日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論 b)	担当者	中西 家榮子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期と同じ</p> <p>The purpose of this course is to learn in great detail not only how Japanese grammar operates, but how native speakers of Japanese use it strategically in conversation. Teaching Japanese well requires that you know the culture that goes with it.</p>		<p>前期に引き続き、テキストの内容を理解し、検討していく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>On Japanese and How to Teach it</i> Edited by Osamu Kamada &amp; Wesley M. Jacobsen, The Japan Times 1990</p>		<p>① 課題のまとめと発表 ②試験の得点 ③出席率 (欠席4回以上はF評価とする)</p>	

(春) (春)	自然言語処理 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然言語」といいます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面</li> <li>2 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性</li> <li>3 自然言語処理の予備知識</li> <li>4 形態素解析（１） 形態素解析の原理と方法</li> <li>5 形態素解析（２） 日本語と英語の形態素解析実験</li> <li>6 単語処理 単語の同定、単語の統計処理</li> <li>7 構文解析（１） 文脈自由文法、句構造文法</li> <li>8 構文解析（２） 構文解析の原理と実験</li> <li>9 言語処理の知識源（１） 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出</li> <li>10 言語処理の知識源（２） コーパス、言語データベースの構造と使い方</li> <li>11 言語の統計処理 コーパスからさまざまな知識の抽出技術</li> <li>12 言語統計モデル</li> <li>13 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(１) 最初の講義で指示します。</li> <li>(２) 必要な資料を配布します。</li> </ol>		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

(秋) (秋)	自然言語処理 b	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理 a での知識を踏まえた上で、自然言語処理基礎技術である意味解析、文脈解析、知識の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システム、質問応答システム、対話システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 意味論： 自然言語の意味論、フレーム理論</li> <li>2 意味解析： 意味解析の方法と実験</li> <li>3 文脈解析： 談話構造、照応問題の対処法</li> <li>4 知識の表現法</li> <li>5 文書処理（１） 言い換え、文書校正</li> <li>6 文書処理（２） 自動要約の原理、換言処理、要約システム構造</li> <li>7 機械翻訳（１） 機械翻訳の処理方式と原理</li> <li>8 機械翻訳（２） 機械翻訳システムの使用と評価</li> <li>9 質問応答システム</li> <li>10 情報検索における言語処理技術</li> <li>11 対話システム</li> <li>12 自然言語処理システム</li> <li>13 総合演習とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(１) 最初の講義で指示します。</li> <li>(２) 必要な資料を配布します。</li> </ol>		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

(春) (春)	プログラミング論 a (プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は MS-Excel (表計算ソフト) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel でデータ処理を行う過程において、計算式や関数などを利用するが、毎回同じ一連の操作を繰り返して行う必要性が発生する場合がある。そのような場合、同じ一連の操作内容を記録・登録することで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。この機能を「マクロ」機能という。</p> <p>基本的なマクロの作成を通して、これまで習得してきた Excel の基本操作をスキルアップする、またマクロ機能で自動的に作成される VBA(Visual Basic for Application)の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>初回の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンス</li> <li>2 計算式および関数の復習</li> <li>3 マクロ機能について</li> <li>4 簡単なマクロ (成績処理) の作成と実行 (1)</li> <li>5 簡単なマクロ (成績処理) の作成と実行 (2)</li> <li>6 第 1 回目課題の作成</li> <li>7 VBA の基礎 (1) コードの入力</li> <li>8 VBA の基礎 (2) コード入力で簡単なゲームを作成する</li> <li>9 第 2 回目課題の作成</li> <li>10 マクロ (テーブル参照) の作成と実行 (1)</li> <li>11 マクロ (テーブル参照) の作成と実行 (2)</li> <li>12 最終課題の作成 (1)</li> <li>13 最終課題の作成 (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 初回の講義で指示する。</li> <li>(2) 随時必要な資料を配布する。</li> </ol>		授業中に指示する課題 (30%) と出席状況 (20%) と最終課題 (50%) で総合評価を行う。	

(秋) (秋)	プログラミング論 b (プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義はコンピュータ基礎演習 (中級-表計算応用 1) またはプログラミング論 a (プログラミング論・自然言語処理入門) の単位を取得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>MS-Excel (表計算ソフト) には情報を実用的に活用する機能が様々あるが、その手段のひとつである「マクロ」機能を中心とした講義を行う。</p> <p>コンピュータ基礎演習 (中級-表計算応用 1) で学習してきた「記録マクロ」の復習と、そのなかで利用した VBA (Visual Basic for Application) を一歩踏み込んで理解すること、またプログラミングの基礎を習得することを目的とする。</p> <p>最終的にはコンピュータ基礎演習 (中級-表計算応用 1) で作成した記録マクロを、プログラミングを通して、さらに汎用性のあるものへと完成させていく。</p> <p>初回の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンス</li> <li>2 マクロ機能の復習</li> <li>3 マクロと VBA について</li> <li>4 変数と定数</li> <li>5 セルの参照</li> <li>6 条件による分岐</li> <li>7 複数の条件による分岐</li> <li>8 繰り返し処理 (1)</li> <li>9 繰り返し処理 (2)</li> <li>10 ユーザフォームの利用</li> <li>11 項目の選択を使ったユーザフォームの利用</li> <li>12 最終課題の作成 (1)</li> <li>13 最終課題の作成 (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 初回の講義で指示する。</li> <li>(2) 随時必要な資料を配布する。</li> </ol>		授業中に指示する課題 (30%) と出席状況 (20%) と最終課題 (50%) で総合評価を行う。	

(春) (春)	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	加藤 尚吾
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解することを目的とする。また、同時に実際にプログラミングをどのようにすればよいかを理解することを目的とする。</p> <p>基本的な命令から、その組み合わせまでを、例をあげて講義する。その後、ひとつひとつの命令に関して実際に Visual Basic.NET でプログラミングの演習を行う。</p> <p>ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のガイダンスとコンピュータ概説：ソフトウェアの概略とコンピュータの構成</li> <li>2. Visual Basic.NET の概略：イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ</li> <li>3. 簡単なプログラム作成（1）：アプリケーション開発手順、文字の入出力</li> <li>4. 簡単なプログラム作成（2）：四則演算</li> <li>5. 簡単なプログラム作成（3）：キャッシュレジスター</li> <li>6. 選択のあるプログラム作成（1）：アプリケーションの設計、コントロールの扱い方</li> <li>7. 選択のあるプログラム作成（2）：多くの選択のあるプログラムの処理</li> <li>8. 選択のあるプログラム作成（3）：オプションボタン、チェックボタンの利用</li> <li>9. 選択のあるプログラム作成（4）：リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用</li> <li>10. 繰り返しのあるプログラム作成（1）：If と Go To, For Next を用いた繰り返し</li> <li>11. 繰り返しのあるプログラム作成（2）：Case 文、While 文</li> <li>12. 総合問題作成</li> <li>13. 総合問題作成：まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習－Visual Basic.NET、サイエンス社		出席、演習、レポートで総合的に評価する。	

(秋) (秋)	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	加藤 尚吾
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>プログラム論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目標とする。画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成することを目的とする。</p> <p>本講義では、プログラム論 a と同様に、Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげる。</p> <p>ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のガイダンスとプログラミング論 a の復習</li> <li>2. 図形の処理（1）：直線を描く、曲線を描く</li> <li>3. 図形の処理（2）：円を描く、色を塗る</li> <li>4. 図形の処理（3）：Windows の画像処理、タイマーの利用、</li> <li>5. 図形の処理（4）：ドラッグアンドドロップの利用</li> <li>6. 音声、動画の処理：音声を録音する、音声を再生する</li> <li>7. 配列とコントロール配列：一元配列、コントロール配列の利用</li> <li>8. プルダウンメニュー：コンボボックス、プルダウンメニューの利用</li> <li>9. ファイルの利用（1）：テキストファイルの読み込み</li> <li>10. ファイルの利用（2）：画像ファイルの読み込み</li> <li>11. ファイルの利用（3）：シーケンスファイルの作成</li> <li>12. ファイルの利用（4）：シーケンスファイルの読み込みと利用</li> <li>13. インターネットの利用：Visual Basic.NET とホームページとのリンク</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習－Visual Basic.NET、サイエンス社		出席、演習、レポートで総合的に評価する。	

(春) (春)	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田 ルミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。</p> <p>そのために、Windows の機能をフルに活用できるオブジェクト記述型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。</p> <p>基本的な命令から始め、それらを組み合わせでどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの1つ1つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題ネットワークファイル上に提出する。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の最初に、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。また、同じクラスの人たちの作ったプログラムも紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義</li> <li>2 Visual Basic.NET の概略:講義と実習</li> <li>3 文字の表示:講義と実習</li> <li>4 簡単な計算:講義と実習</li> <li>5 関数の利用:講義と実習</li> <li>6 飛び越し命令:講義と実習</li> <li>7 条件判断による分岐:実習</li> <li>8 コントロールによる分岐:実習</li> <li>9 選択用コントロールによる分岐:実習 リストボックス、チェックボックスの利用</li> <li>10 回数指定による繰り返し:講義と実習 If と Go To、For Next を用いた繰り返し</li> <li>11 条件指定による繰り返し:講義と実習</li> <li>12 総合問題作成1:実習 いろいろなオブジェクトを用いて問題を作成する</li> <li>13 総合問題作成2:実習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著:実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

(秋) (秋)	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田 ルミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルやWindows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 プログラムの分割:講義と実習</li> <li>2 プログラムの構造化:講義と実習</li> <li>3 配列の処理:講義と実習</li> <li>4 配列の入出力:講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用</li> <li>5 文字列の処理:講義と実習</li> <li>6 図形の描画:講義と実習</li> <li>7 画像の取り扱い:実習</li> <li>8 ファイル処理と記憶装置:講義と実習</li> <li>9 シーケンシャルファイルの処理:講義と実習</li> <li>10 ランダムファイルの処理:講義と実習</li> <li>11 ファイルダイアログコントロール:講義と実習</li> <li>12 インターネットの利用:講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク</li> <li>13 総合問題作成:実習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著:実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

(春) (春)	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	堀江 郁美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コンピュータープログラミングの基礎を学びます。プログラミング言語としては Java 言語を用います。</p> <p>コンピューターの仕組み・操作や、プログラムを作る際の考え方を学習するところからはじめ、簡単な問題であれば、独力で Java のプログラムが書けるようになることを目指します。</p> <p>課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。</p>		<p>1: ガイダンス: コンピューターの仕組み・操作法</p> <p>2: 情報表現</p> <p>3: プログラムとは、考え方</p> <p>4: データ型、変数、演算</p> <p>5: 入力、出力</p> <p>6: 配列</p> <p>7: 式、条件判断・分岐</p> <p>8: 繰り返し(1)</p> <p>9: 繰り返し(2)</p> <p>10: 文字と文字列</p> <p>11: メソッド(1)</p> <p>12: メソッド(2)</p> <p>13: 総合問題、まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜、必要な資料を提示する。		定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。	

(秋) (秋)	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	堀江 郁美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「プログラミング論 a」で学習したことをベースにして、Java の特徴であるオブジェクト指向に焦点をあてて、オブジェクト指向を用いたプログラムの作成方法を学習します。最終的には、やや難しい問題やオブジェクト指向を用いた問題でも、独力で Java プログラムが書けるようになることを目指します。</p> <p>課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。</p>		<p>1: ガイダンス: オブジェクト指向とは</p> <p>2: クラスの概要</p> <p>3: クラスとインスタンス(1)</p> <p>4: クラスとインスタンス(2)</p> <p>5: フィールドとローカル変数</p> <p>6: コンストラクタ</p> <p>7: 継承 (1)</p> <p>8: 継承 (2)</p> <p>9: メソッドのオーバーライド</p> <p>10: リスト</p> <p>11: 例外処理とファイル入出力</p> <p>12: GUI ツールキット</p> <p>13: 総合問題、まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜、必要な資料を提示する。		定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。	

(春) (春)	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	森 園子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらのソフトウェアが、どのように開発されているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して、その根本となる論理的な思考、即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理解する。</p> <p><b>講義概要：</b>コンピュータの構造を概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic .Net を用いて解説し、演習を行う。さらにインターネットやマルチメディアについても、デモンストレーションを行うと共に、それらのプログラミングについても、自分でテーマを決めて製作する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のガイダンスとコンピュータシステムの概説： ハードウェア及び、システムの構成と概略</li> <li>2. ソフトウェアの分類、OS、ネットワークの概略</li> <li>3. プログラム開発手順： PCと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ</li> <li>4. Visual Basic の概略： イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ等の概略</li> <li>5. 簡単なプログラム作成(1)： アプリケーション開発手順、文字の入出力</li> <li>6. 簡単なプログラム作成(2)：四則演算、変数のまとめ</li> <li>7. 選択のあるプログラム作成(1)： アプリケーションの設計、コントロールの扱い方</li> <li>8. 選択のあるプログラム作成(2)： 分岐するプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ</li> <li>9. 選択のあるプログラム作成(3)： オプションボタンの利用、チェックボタンの利用</li> <li>10. 選択のあるプログラム作成(4)： リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用</li> <li>11. 繰り返しのあるプログラム作成： If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し</li> <li>12. 総合問題作成：いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。</li> <li>13. 総合問題作成：まとめとプレゼンテーション</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
林直治嗣 “実習 VisualBasic.Net” サイエンス社		前期：レポート：70% ネットワーク上に提出 定期試験：30%	

(秋) (秋)	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	森 園子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらのソフトウェアが、どのように開発されているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して、その根本となる論理的な思考、即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理解する。</p> <p><b>講義概要：</b>コンピュータが現在どのように使われているかを概説し、最新のソフトウェア開発についてネットワークを用いて紹介する。</p> <p>さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらのプログラミングについて、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic.Net を用いて解説し、演習を行う。また、インターネットやマルチメディアについてもデモンストレーションを行い、それらを踏まえたプログラミングについて講義と演習を行う。</p> <p>最後に、自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図形の処理(1)：講義と実習 コンピュータグラフィックスの基礎</li> <li>2. 図形の処理(2)：講義と実習 点・直線・円を描く、色を塗る</li> <li>3. 図形の処理(3)：講義と実習 Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーの利用</li> <li>4. プログラムの構造化(1)：プログラムの分割と構造化</li> <li>5. プログラムの構造化(2) Subプロシージャと Function プロシージャ</li> <li>6. 音声・動画の処理：講義と実習 音声の録音と再生、動画再生のデモンストレーション</li> <li>7. 配列とコントロール配列：講義と実習 一次元配列、コントロール配列、二次元配列</li> <li>8. ブルダウンメニュー：実習 コンボボックス、ブルダウンメニューの利用</li> <li>9. メニューエディタの利用：実習 メニューエディタの編集と利用、ポップアップメニューの取り扱い</li> <li>10. ファイルの利用(1)：講義と実習 コントロールの利用、シーケンスファイルの利用</li> <li>11. ファイルの利用(2)：講義と実習 ランダムファイルの利用とアクセスファイルの利用：</li> <li>12. インターネットの利用：講義と自習 Visual Basic.Net とホームページとのリンク</li> <li>13. まとめ：講義と実習 課題の説明と作成</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
林直治嗣 “実習 VisualBasic.Net” サイエンス社		後期：レポート：60% ネットワーク上に提出 定期試験：40%	

(春) (春)	通訳翻訳論	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>通訳・翻訳の実践、理論、歴史について理解を深め、現代社会の中で通訳・通訳が果たす役割と問題点を検討していきます。</p> <p>通訳・翻訳の実務と理論に関して講義を行います。実務については、各種の通訳の実践において求められる能力と業務内容の違いについて詳しく説明し、さらに通訳訓練に用いられる様々な方法を紹介します。実際に通訳を行っているビデオなども用いて、社会の中で通訳者がどのような仕事をしているのかを見ていきましょう。</p> <p>理論については、翻訳を中心として、日本と世界における翻訳の歴史、翻訳規範および言語学的に見た翻訳の可能性と不可能性などについて講義を行います。</p> <p>講義レジュメの文字教材以外にDVDやビデオなど映像教材を使用しますので、遅刻・欠席しないようにしてください。</p>		<p>第一回 ガイダンス、講義資料について</p> <p>第二回 香港返還記念式典の同時通訳分析</p> <p>第三回 通訳の実務(1) 会議通訳、一般通訳</p> <p>第四回 通訳の実務(2) 放送通訳、医療通訳</p> <p>第五回 通訳の実務(3) コミュニティー通訳 観光、芸能、スポーツの通訳</p> <p>第六回 通訳の実務(4) 司法通訳</p> <p>第七回 通訳訓練法と外国語学習</p> <p>第八回 翻訳と通訳の共通点と相違点</p> <p>第九回 翻訳の規範</p> <p>第十回 通訳と翻訳の歴史(1)</p> <p>第十一回 通訳と翻訳の歴史(2)</p> <p>第十二回 翻訳の規範、ことばと通訳、訳せないもの</p> <p>第十三回 学期のまとめ、成績評価に関する説明</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義用のレジュメはインターネットからダウンロードできるようにしておきます。ダウンロード用のサイトは講義の中で紹介します。なお、映像資料は配付できませんので、必ず授業に出るようにしてください。		出席率と期末試験（またはレポート課題）によって評価を行います。期末試験（またはレポート課題）では、講義内容にとどまらず、自分自身の経験や大学で履修している他の授業内容と関連させて論述されることが求められます。	

(秋) (秋)	情報・コミュニケーション研究特殊講義 (コーパス言語学入門)	担当者	浅山 佳郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義目的〕 日本語教育のための、コンピュータをもちいた言語分析の方法をまなぶ。 よってコンピュータはあくまで道具であり、それ自身が目的となるものではない。授業の目的は、基本的に日本語教育のためのコーパス言語学にある。 なお、コンピュータについての専門的な知識はまったく必要ないが、日本語分析についての知識は、あるほうがのぞましい。</p> <p>〔講義概要〕 授業は、教員が簡単なモデルを提示したあと、練習問題をだすので、それを受講生が実習するという形式を原則とする。 さらに簡単なコーパスの設計と組み立て、それを利用した簡単な研究を課題としてあたえるので、履修者には、課題をこなして、発表することがもとめられる。</p>		<p>第1回 コンピュータとDOS</p> <p>第2回 テキストファイル</p> <p>第3回 コーパスの設計と構築</p> <p>第4回 データのダウンロード</p> <p>第5回 テキスト処理・検索(1)</p> <p>第6回 中間発表(コーパスの設計)(1)</p> <p>第7回 中間発表(コーパスの設計)(2)</p> <p>第8回 テキスト処理・検索(2)</p> <p>第9回 テキスト処理・検索(3)</p> <p>第10回 形態素解析・茶筌(1)</p> <p>第11回 形態素解析・茶筌(2)</p> <p>第12回 最終発表(コーパスによる分析)(1)</p> <p>第13回 最終発表(コーパスによる分析)(2)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
開講後指示する。		発表と出席で評価する。	



(春) (春)	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	岡村 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>あなたにとってなにが異文化／自文化か？そう訊ねられたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。</p> <p>本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることである。そのうえで、異文化への／からの「まなざし」について、また多文化共生の理想と現実について考えていきたい。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をとおして異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 異文化と自文化 ——あなたにとって「異文化」とは？</li> <li>3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史</li> <li>4. コミュニケーションの構造 ——コンテキストとステレオタイプ</li> <li>5. 異文化へのまなざし（1）「日本」の表象</li> <li>6. 異文化へのまなざし（2）自文化中心主義</li> <li>7. 内なる異文化（1）</li> <li>8. 内なる異文化（2）</li> <li>9. 内なる異文化（3）</li> <li>10. マルチカルチュラリズムと異文化共生（1） ——文化的差異の承認をめぐるジレンマ</li> <li>11. マルチカルチュラリズムと異文化共生（2） ——多文化教育の視点</li> <li>12. 相互行為分析と異文化研究 ——異文化と自文化のあいだ</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート（履修者の状況によってはテストになる場合もある）	

(秋) (秋)	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	山本 英政
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族共存のモデルケースを紹介する。</p> <p>複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間に生じる摩擦により、ときに多大な犠牲が払われた。</p> <p>前半では、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀が過ぎ、はたして人種間の対話は進展を見せたのだろうか。</p> <p>後半は、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げ、多文化が根を張るこの島社会の共生の核心部分を、日本人移民の同化過程を中心に解説する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ モザイク国家アメリカ</li> <li>☆ 民族混合のジレンマ</li> <li>☆ 奴隷制下の人種共存</li> <li>☆ 黒人の地位向上運動</li> <li>☆ 共存のパラダイム転換</li> <li>☆ 公民権運動の共生理念</li> <li>☆ 急進派ブラック・パワーによるコミュニケーションの断絶</li> <li>☆ ロス暴動に見る共生の現実</li> <li>☆ 多民族混合社会ハワイ</li> <li>☆ ハワイの経験—多民族の取り込み—</li> <li>☆ 日本人の移民</li> <li>☆ 日系、アジア人の同化体験</li> <li>☆ 異人種間共生の手がかり</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『アメリカ黒人の歴史』 本田創造 岩波新書 『キング牧師とマルコム X』 上坂昇 講談社現代新書 『ハワイの日本人移民』 山本英政 明石書店		期末試験と小テスト、自由課題	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	マス・コミュニケーション論 b	担当者	上村 幸治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代社会における情報の意味、メディアの果たす新しい役割について考える。</p> <p>前半は報道を中心に、一般市民がメディアとどうつきあっていくべきかという、いわゆるメディア・リテラシーについて見ていく。</p> <p>新聞社でジャーナリストとして働き、米国や中国で14年間にわたって海外特派員として暮らした経験を踏まえ、実践的なメディア論を紹介したい。</p> <p>パブリシティの項目では、メディアと広告との関係を紹介する。映画『バック・トゥー・ザ・ヒューチャー』で知られる俳優マイケル・J・フォックスへのインタビュー記録などを使う。</p> <p>後半は、国際政治の中で大きな関心を集めているソフトパワーに焦点を当てる。ソフトパワーとは、経済力や軍事力といったハードパワーではなく、その国が持つ文化の力のことをいう。考える素材として、ハリウッド映画や日本のアニメを取り上げる。『風と共に去りぬ』や手塚治虫、宮崎駿のアニメなども素材として使う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに (メディアリテラシーとは)</li> <li>2 報道の自由 (政治とメディアの関係)</li> <li>3 スcoopと誤報 (メディアの内幕)</li> <li>4 メディア・スクラムの弊害 (報道被害にどう対処すべきか)</li> <li>5 パブリシティ 1 (映像と広告の複雑な関係)</li> <li>6 パブリシティ 2 (俳優マイケル・J・フォックスの苦悩)</li> <li>7 ソフトパワー論 (ハリウッドの衝撃)</li> <li>8 メディアの中の女性問題</li> <li>9 ポリティカル・コレクトネス</li> <li>10 アニメの台頭がメディアにもたらしたもの</li> <li>11 日本のアニメ戦略とアジア</li> <li>12 クラシックとミュージカルの及ぼした効果</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。適宜資料を配布する。		出席、レポート、試験による	

(春) (春)	認知科学	担当者	田口 雅徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり、その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。まず、人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに、動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていき、その関連領域である「学習の過程」についてあつかう予定である。さらに、近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてみていくことにする。</p> <p>基本的に、受講者による発表により授業を進めていく予定である。十分な予習が必要となる。また、授業後にもレポートを提出させる予定である。</p>		<p>授業計画は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知科学の領域と対象</li> <li>2. 認知科学の歴史</li> <li>3. 知覚①</li> <li>4. 知覚②</li> <li>5. 記憶の種類</li> <li>6. 記憶のしくみ</li> <li>7. 記憶と学習</li> <li>8. 学習のしくみ</li> <li>9. 学習と認知スタイル</li> <li>10. 脳のしくみ①</li> <li>11. 脳のしくみ②</li> <li>12. 失語症</li> <li>13. 情報工学と脳</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。		出席・レポート・試験により評価する。	

(秋) (秋)	認知科学	担当者	田口 雅徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>半期完結授業のため春学期参照</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)	人間関係とカウンセリング a	担当者	瀧本 孝雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。</p> <p>まずカウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法について学ぶ。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるので、言語文化学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>実習を中心とする授業であるので、他学科の学生は受講者が50名以上の場合には抽選による。</p> <p>出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングとは何か (定義・目的)</li> <li>2. カウンセラーの役割と資格</li> <li>3. カウンセラーの世界 (相談機関)</li> <li>4. カウンセリングと心理療法</li> <li>5. クライエント中心カウンセリング (1)</li> <li>6. クライエント中心カウンセリング (2)</li> <li>7. 精神分析的カウンセリング</li> <li>8. 認知行動カウンセリング</li> <li>9. 傾聴の理論</li> <li>10. 傾聴の実習</li> <li>11. ロールプレー実習 (1)</li> <li>12. ロールプレー実習 (2)</li> <li>13. 教育、産業、医療とカウンセリング</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「カウンセリングへの招待」 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループ・ワークに関する小テスト、レポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>			

(春) (春)	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	担当者	J. スティベンソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっと e というコンピュータープログラムを用いて集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ● 現在の TOEIC スコアが 350-600 点 (プログラムの性質上、350 点以下、または 600 点以上学習者には適していません。) ● 初回の授業に必ず出席すること ● 4 回以上欠席しないこと</p> <p>本授業で求められる事項： ● 20 時間以上のぎゅっと e の学習 (自習) ● 学習プランの作成と学習記録 ● 学習自己評価 (2 回) ● 実力診断テスト・学習プランの作成 ● 小テスト</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>シラバスとプログラムの説明</li> <li>リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成</li> <li>テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング)</li> <li>テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング)</li> <li>テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング)</li> <li>テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング)</li> <li>小テスト・リスニング実力診断テスト</li> <li>リーディング実力診断テスト</li> <li>テキスト Days 3-4 模擬試験 (リーディング)</li> <li>テキスト Day 5 模擬試験 (リーディング)</li> <li>テキスト Days 7-8 模擬試験 (リーディング)</li> <li>小テスト・リーディング実力診断テスト</li> <li>アンケート・自己評価レポートの説明</li> </ol> <p>(変更する場合があります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> <li>新 TOEIC テスト直前の技術 (CD 2 枚付) ISBN: 4-7574-1121-9</li> <li>ぎゅっと e プログラム ぎゅっと e ホームページ (体験版あり) <a href="http://gyutto-e.jp/">http://gyutto-e.jp/</a></li> </ol>		出席 20%      学習記録 30% 学習プランと自己評価レポート 20% 小テスト 30%	

(秋) (秋)	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	担当者	J. スティベンソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっと e というコンピュータープログラムを用いて集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ● 現在の TOEIC スコアが 350-600 点 (プログラムの性質上、350 点以下、または 600 点以上学習者には適していません。) ● 初回の授業に必ず出席すること ● 4 回以上欠席しないこと</p> <p>本授業で求められる事項： ● 20 時間以上のぎゅっと e の学習 (自習) ● 学習プランの作成と学習記録 ● 学習自己評価 (2 回) ● 実力診断テスト・学習プランの作成 ● 小テスト</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>シラバスとプログラムの説明</li> <li>リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成</li> <li>テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング)</li> <li>テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング)</li> <li>テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング)</li> <li>テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング)</li> <li>小テスト・リスニング実力診断テスト</li> <li>リーディング実力診断テスト</li> <li>テキスト Days 3-4 模擬試験 (リーディング)</li> <li>テキスト Day 5 模擬試験 (リーディング)</li> <li>テキスト Days 7-8 模擬試験 (リーディング)</li> <li>小テスト・リーディング実力診断テスト</li> <li>アンケート・自己評価レポートの説明</li> </ol> <p>(変更する場合があります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> <li>新 TOEIC テスト直前の技術 (CD 2 枚付) ISBN: 4-7574-1121-9</li> <li>ぎゅっと e プログラム ぎゅっと e ホームページ (体験版あり) <a href="http://gyutto-e.jp/">http://gyutto-e.jp/</a></li> </ol>		出席 20%      学習記録 30% 学習プランと自己評価レポート 20% 小テスト 30%	

(春) (春)	情報・コミュニケーション研究特殊講義 (国際語としての英語)	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>約3億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると20億人あまり英語話者がいるという。20億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。また話す必要があるのだろうか。</p> <p>本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題(主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート)をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点:英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週:概論</p> <p>第2~4週:英語の国際化と多様化 -Kachruの3つの円 -英語の普及(歴史等) -ビジンとクレオール(定義等) -方言(定義等)と標準語</p> <p>第5~7週:世界英語</p> <p>第8~10週:母語話者 vs.非母語話者 -英語は誰のもの?(language ownership) -母語話者とは? -非母語話者教員としての役割</p> <p>第11~12週:世界の英語教育</p> <p>第13週:総論</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題(30%)、レポート(20%)、小テスト(10%)、 期末テスト(40%)	

(秋) (秋)	情報・コミュニケーション研究特殊講義 (多言語環境と英語)	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」の役割について理解を高めることを目的とする。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題(主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート)をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点:英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週:概論</p> <p>第2~4週:ことばとアイデンティティー</p> <p>第5~6週:多言語使用に関わる理論</p> <p>第7~9週:世界の言語政策</p> <p>第10~12週:日本における多言語共生</p> <p>第13週:総論</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題(30%)、レポート(20%)、小テスト(10%)、 期末テスト(40%)	

(春) (春)	情報・コミュニケーション研究特殊講義 (翻訳通訳論・英語)	担当者	柴原 智幸
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>通訳・翻訳の理論およびモデルの理解を目的とする。</p> <p>通訳・翻訳においては、その実技面が強調されるあまり、その実技がどのような理論に立脚したものなのかという点が、ともするとおざなりになるきらいがある。本講義では、通訳・翻訳の一般的な理論・モデルなどを紹介する。</p> <p>授業に際しては、毎週大量の英文を読解することが求められる。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席すること。基本的に初回の授業に欠席した者は、単位を付与しない。やむをえない事情で出席できない場合は、授業日翌日までに、講師にメールで連絡をとり、指示を仰ぐこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 通訳の3次元モデルについて</li> <li>2 通訳技術とは何か</li> <li>3 通訳における知識ベースについて</li> <li>4 通訳における言語能力について</li> <li>5 逐次通訳の基本理論</li> <li>6 ノートテイキングについて</li> <li>7 同時通訳の基本理論</li> <li>8 二重経路モデルと翻訳</li> <li>9 翻訳モデル その1</li> <li>10 翻訳モデル その2</li> <li>11 翻訳モデル その3</li> <li>12 誤訳について</li> <li>13 まとめと期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>随時プリントなどを配布する。</p> <p>特定のテキストを購入する必要がない分、様々な和書・洋書などを積極的に購入して読むこと。</p>		<p>出席 10% 授業参加および提出物など 50%</p> <p>期末テスト 40%</p>	

(秋) (秋)	情報・コミュニケーション研究特殊講義 (翻訳通訳実習・英語)	担当者	柴原 智幸
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>翻訳・通訳のトレーニングを通して、翻訳通訳理論の定着とすでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化する。</p> <p>通訳・翻訳のトレーニングは理論と切り離されて語られることが多い。本講義では、理論をふまえた徹底したトレーニングを行い、英語の受信力・発信力を鍛える。</p> <p>春学期の特殊講義（翻訳通訳論・英語）を受講していることが望ましい。</p> <p>トレーニングの「質」と「量」を確保するため、毎週様々な課題が課される。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席すること。基本的に初回の授業に欠席した者は、単位を付与しない。やむをえない事情で出席できない場合は、授業日翌日までに、講師にメールで連絡をとり、指示を仰ぐこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、発音トレーニング、翻訳課題</li> <li>2 訳文検討、スラッシュ・リーディング</li> <li>3 シャドウイング、要約演習</li> <li>4 スラッシュリーディング、シャドウイング</li> <li>5 要約練習、日本語トレーニング</li> <li>6 日本語トレーニング、英文暗唱</li> <li>7 英文暗唱、逐次通訳（英日）</li> <li>8 逐次通訳（日英）、逐次通訳（英日）</li> <li>9 逐次通訳（英日、日英）、同時通訳（日英）</li> <li>10 逐次通訳（日英、英日）、同時通訳（日英、英日）</li> <li>11 同時通訳（日英、英日）、映像翻訳（吹き替え）</li> <li>12 映像翻訳（吹き替え）</li> <li>13 まとめと期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>随時プリントなどを配布する。</p> <p>特定のテキストを購入する必要がない分、様々な和書・洋書などを積極的に購入して読むこと。</p>		<p>出席 10%、授業参加および提出物など 50%</p> <p>期末テスト 40%</p>	

(春) (春)	情報・コミュニケーション研究特殊講義 (翻訳通訳論・スペイン語)	担当者	柴田 バネッサ						
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>							
<p>日本語の文献を用いて、歴史的・理論的観点から考える。そして、ある程度の理解が得られた段階で、翻訳理論分野の英語とスペイン語の文献の読解方法を検討する。</p> <p>翻訳者育成のための各国のプログラムを検討する。</p> <p>最後に、様々なリソースを駆使しながら、この分野のスペイン語文献をある程度の水準の日本語に訳してみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 翻訳 初めに</li> <li>3. Translation Attitude</li> <li>4. Development of a Theory</li> <li>5. Discourse Analysis</li> <li>6. Translation by Steps</li> <li>7. 辞書、その他</li> <li>8. 言語と文化</li> <li>9. 課題プレゼンテーション</li> <li>10. 課題プレゼンテーション</li> <li>11. 課題プレゼンテーション</li> <li>12. 課題プレゼンテーション</li> <li>13. 予備日 課題プレゼンテーション</li> </ol>							
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>							
教科書：安西徹雄・井上健・小林章夫（編）『翻訳を学ぶ人のために』世界思想社、2005年。		<table> <tr> <td>平常点</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>課題プレゼンテーション</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> </table>		平常点	50%	課題プレゼンテーション	30%	レポート	20%
平常点	50%								
課題プレゼンテーション	30%								
レポート	20%								

(秋) (秋)	情報・コミュニケーション研究特殊講義 (翻訳通訳実習・スペイン語)	担当者	柴田 バネッサ						
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>							
<p>オーストラリアの翻訳・通訳の国家試験である NAATI の問題に挑戦し、訳出内容を検討する。</p> <p>クラスアワーの前半で翻訳演習、後半を通訳演習にあてる。国家試験のサンプル問題の点数と国家試験と同レベルの類似問題をグループで担当し、通訳、翻訳の実際的な感覚をつかむ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. NAATI</li> <li>2. 演習問題 1</li> <li>3. 演習問題 2</li> <li>4. 演習問題 3</li> <li>5. 演習問題 3</li> <li>6. 演習問題 3</li> <li>7. 演習問題 4</li> <li>8. 演習問題 4</li> <li>9. 課題プレゼンテーション</li> <li>10. 課題プレゼンテーション</li> <li>11. 課題プレゼンテーション</li> <li>12. 課題プレゼンテーション</li> <li>13. 予備日 課題プレゼンテーション</li> </ol>							
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>							
NAATI 問題のプリント クラス内で配布		<table> <tr> <td>平常点</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>課題プレゼンテーション</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題レポート</td> <td>20%</td> </tr> </table>		平常点	50%	課題プレゼンテーション	30%	課題レポート	20%
平常点	50%								
課題プレゼンテーション	30%								
課題レポート	20%								



(春) (春)	情報・コミュニケーション研究特殊講義 (翻訳通訳論・中国語)	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>通訳・翻訳の実践、理論、歴史について理解を深め、現代社会の中で翻訳・通訳が果たす役割と問題点を検討していきます。</p> <p>初回はこの科目に関する一般的説明を行います。 二回から四回までは、中国の翻訳史を振り返り、現代に到るまでの翻訳対象と翻訳者の変遷を概観します。 五回から七回まで清朝末期からの翻訳理論と翻訳規範を中心に講義を行います。 八回から十二回までは現代の通訳論（理論、教育、実践）を紹介します。 最終回で学期のまとめと期末評価の方法について説明します。</p> <p>テキストは中国語ですので、中国語の読解力が求められます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 中国翻訳史(1) 仏典漢訳</li> <li>3. 中国翻訳史(2) 宣教師による翻訳</li> <li>4. 中国翻訳史(3) 清朝末期の翻訳</li> <li>5. 中国翻訳史(4) 現代翻訳事情</li> <li>6. 中国近代の翻訳論 魯迅の翻訳論</li> <li>7. 中国近代の翻訳論 胡適、林語堂など</li> <li>8. 現代の通訳理論(1)</li> <li>9. 現代の通訳理論(2)</li> <li>10. 現代の通訳理論(3)</li> <li>11. 現代の通訳理論(4)</li> <li>12. 現代の通訳理論(5)</li> <li>13. 学期のまとめ、成績評価に関する説明</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは指定しません。 必要に応じて授業中にプリントを配布します。</p>		出席率と期末試験（またはレポート課題）によって評価を行います。	

(秋) (秋)	情報・コミュニケーション研究特殊講義 (翻訳通訳実習・中国語)	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>教科書は中国の最新の様子を紹介すると同時に伝統的なことも取り上げており、中国についての理解がより深まります。</p> <p>文章は中級向けの学習者にあわせて中国語教育の専門家によって書かれており、習得すべき文法事項や語彙についてもわかりやすい解説があります。テキストの内容を学習することによって自然な言い回しが身に付きます。 また、教科書付属のCDを繰り返し聞くことで中国語の美しい発音とリズムが身に付きます。</p> <p>授業では通訳訓練の手法を用いてリスニング力・スピーキング力・語彙力の増強をはかり、さらに逐次通訳の基礎を固め、原稿付き同時通訳にも挑戦します。</p> <p>学生のレベルと授業の進度に応じて副教材を使用することがあります。副教材はそのつど配布します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、授業の方法について</li> <li>2. 上有天堂下有苏杭</li> <li>3. 长寿面</li> <li>4. 七夕</li> <li>5. 春节晚会</li> <li>6. 国球</li> <li>7. 高考</li> <li>8. 北京的“的哥”</li> <li>9. 海归</li> <li>10. 跳槽</li> <li>11. 独生子女</li> <li>12. 追星族</li> <li>13. 沙尘暴</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山下輝彦・蘇英霞『中国を語る～文化と生活～』金星堂		出席率と期末試験によって評価します。	

(春) (春)	地域文化論 i b	担当者	佐藤 勘治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、主に 19 世紀末以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得ないラテンアメリカとその自立の動きを現代までおって行く。基礎的歴史事項の修得を第一の目標にするが、それとともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資するものとして、現代ラテンアメリカの特徴は、①「もうひとつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移動を通じた一体化する南北「アメリカ」、という一見相反する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれからどの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供していき、履修者が自ら考える場としたい。</p> <p>ラテンアメリカ史の全体的ながれについては、秋学期に別の授業が用意されている。</p> <p>なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 問題の所在 1 米国と向き合うラテンアメリカ</li> <li>2 問題の所在 2 なぜラテンアメリカは「情熱」ということばでかたられるのか？</li> <li>3 メキシコ米国関係史 1</li> <li>4 メキシコ米国関係史 2</li> <li>5 メキシコ米国関係史 3</li> <li>6 中米・カリブ海域と米国 1：米国の運河：ニカラグアとパナマ</li> <li>7 中米・カリブ海域と米国 2：米西戦争と米国による中米・カリブ海支配</li> <li>8 中米・カリブ海域と米国 3：米国からの自立の模索</li> <li>9 権威主義体制から民主化へ(南米を中心に)</li> <li>10 ラテンアメリカにおけるアイデンティティ・ポリティクスの展開</li> <li>11 新しい「人種」カテゴリーの誕生：米国ラテンアメリカ系住民（ラティーノ）</li> <li>12 現代ラテンアメリカにおける反「新自由主義」運動と対抗文化</li> <li>13 まとめ：「もう一つの世界」は可能か</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）／高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡（世界の歴史 18）』（中央公論社）</p>		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

(秋) (秋)	地域文化論 i a	担当者	佐藤 勘治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義の目的は、ラテンアメリカおよびカリブ海地域を対象として、人の移動とその結果生まれることになる「人種・エスニック」間関係史に焦点をあてながら、ラテンアメリカ史（カリブ海域史も含まれる）の基礎的事項とその特徴を世界史の展開と関係付けて理解することにある。歴史理解を通じて、ラテンアメリカ的特質とは何かを探っていく場としたい。その際、米国史の諸特質との差異や類似点には特に注意を向けたいと思う。</p> <p>また、上記と密接に関係するが、史上、欧米列強の支配領域（公式、非公式）であったラテンアメリカの自立の道のりを概観する。</p> <p>時期的には、先コロンブス期から現代ラテンアメリカの基本的特徴が確立する 19 世紀末～20 世紀初頭までを主な対象とする。ただし、現代ラテンアメリカの動向を履修者に常に注意を向けさせるよう、導入などで音楽や絵画、文学を紹介したい。なお、20 世紀史については春学期に別の授業が用意されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 問題の所在：米国のヒスパニック化が問いかけていること</li> <li>2 1492 年 コロンブスの新世界「発見」：レコンキスタからコンキスタへ</li> <li>3 先コロンブス期のアメリカ諸文明</li> <li>4 アステカとインカの征服</li> <li>5 植民地支配の特徴</li> <li>6 独立戦争</li> <li>7 国家形成の模索</li> <li>8 西欧列強のカリブ海地域支配：近代世界システムのゆりかご、カリブ</li> <li>9 イギリス非公式帝国と米国の覇権</li> <li>10 アジアとラテンアメリカの関係史</li> <li>11 「ラテンアメリカ」の成立 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人種混交と新たなエスニシティの誕生</li> </ul> </li> <li>12 「ラテンアメリカ的」とは</li> <li>13 ラテンアメリカの世界史における位置</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）／高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡（世界の歴史 18）』（中央公論社）</p>		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

(春) (春)	地域文化論 ii a	担当者	二宮 哲
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語の文法要素を言語学的に分析することが本講義の目的である。分析の結果も大事な成果のひとつであるが、それ以前に分析の方法、プロセスを見だし、設定をする練習の場とも考える。</p> <p>今年度のテーマは「代名詞」とする。 まず、「代名詞」に関する疑問点を洗い出す。 次に、そのテーマに関する基本的な文献の講読を全員で行う。 その後、個人あるいはグループで、先の疑問点に関するひとつの答えをプレゼンテーションする。</p>		<p>① スペイン語の代名詞について（説明講義） ② スペイン語の代名詞について（説明講義） ③ 代名詞に対する疑問点の洗い出し ④ 文献講読 ⑤ 文献講読 ⑥ 文献講読 ⑦ 文献講読 ⑧ 文献講読 ⑨ プレゼンテーションの準備 ⑩ プレゼンテーションの準備 ⑪ プレゼンテーション ⑫ プレゼンテーション ⑬ プレゼンテーション</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリントを配布。		出席状況、授業への参加度、プレゼンテーションによって評価する。	

(秋) (秋)	地域文化論 ii b	担当者	二宮 哲
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。</p> <p>主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語史上重要な文献や作品を実際に読む。</p>		<p>① 「スペイン」と「スペイン語」1 “Glosas Emilianenses” ② 「スペイン」と「スペイン語」2 ③ イスラム・スペイン “Jarchas” ④ 「Cantar de Mio Cid」1 ⑤ 「Cantar de Mio Cid」2 ⑥ 1492 “Gramática de la Lengua Castellana” ⑦ 「Don Quijote」1 ⑧ 「Don Quijote」2 ⑨ 闘牛 ⑩ フラメンコ 1 García Lorca ⑪ フラメンコ 2 ⑫ スペイン内戦とピカソ ⑬ 近現代のスペイン</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

(春) (春)	地域文化論 iii a (中国)	担当者	武信 彰
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが、2つの時期の状況がとりわけ注目を引く。</p> <p>唐代においては、日本が貪欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。</p> <p>そして、近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。和製漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み、当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。</p> <p>中国語を学ぶ日本人の観点から、これを論ずる中国人学者の論文を読み、われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。</p>		<p>1 漢字・漢語の移入、仮名の発明</p> <p>2 漢字文化圏</p> <p>3 「訓」と「音」</p> <p>4～6 中国語における外来語</p> <p>6・7 中国語における日本語由来の外来語</p> <p>8 漢字と中国語の語彙が日本語の書き言葉を育む</p> <p>9 梁啓超・嚴復</p> <p>10・11 “経済、社会、哲学、文化、文学”等々の社会科学・人文科学の術語</p> <p>12 “信、達、雅” (嚴復)</p> <p>13 日本を通して間接的に西洋を学ぶ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。	

(秋) (秋)	地域文化論 iii b (中国)	担当者	武信 彰
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は、古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。</p> <p>「一衣帯水」という微妙な距離をおいての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は、背景の文化に対するそれと同様、独特のものがある。</p> <p>日本語母語話者の中国語学習においては、この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。</p>		<p>1 中国語とは？普通話、汉语、华语、国語 漢字文化圏（＝漢語文化圏）</p> <p>2 現代中国語の音韻</p> <p>3 華人と中国語の比喩</p> <p>4 中国人のコミュニケーションの特色</p> <p>5 中国人の「色」</p> <p>6 ことわざ・歇後語</p> <p>7 “既成の言い回し” 描写表現</p> <p>8 東西南北、右左</p> <p>9 日本語母語話者ゆえの誤謬</p> <p>10 飲食に関する言葉</p> <p>11 中国人の名前・命名</p> <p>12 自尊心・コネ社会・宗教</p> <p>13 「漢文」の時代の中国語と現代中国語</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。	

(春) (春)	地域文化論 iv a	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国中央テレビ局の古典普及番組「百家講壇」で爆発的な人気を集めた、北京師範大学の于丹教授の『論語』を読み解くシリーズ講座の DVD を利用して、中国思想において最も重要な位置を占める『論語』と儒教の真髄について学習します。儒教と道教は中国のみならず、東洋人の精神世界形成に大きな役割を果たしました。社会の中で生きる規範（社会的な人格の形成）を儒教に求め、人生を楽しむための哲学を道教に求める思想はアジアに共通のもので、とくに『論語』は日本でも古くから研究が進んでおり、不朽の価値を持っている書物であると言えます。</p> <p>テキストに使用する『論語心得』は上述テレビ番組の講演を忠実に書き起こしたのですが、この番組では論語を非常に分かりやすく（中学生にも分かるように）解説されています。</p> <p>授業では、中国語発音に中国語の字幕のついた DVD を使用しますので中国語の読解力が求められます。授業の進捗は学生に合わせて変更することがあります。</p> <p>『論語』本文に関する参照サイトは下記です。  <a href="http://www5.ocn.ne.jp/~bushido/rongo.htm">http://www5.ocn.ne.jp/~bushido/rongo.htm</a>  <a href="http://rongo.jp/kaisetsu/kaisetsu00.html">http://rongo.jp/kaisetsu/kaisetsu00.html</a></p>		<p>1回 ガイダンス、『論語』および『論語心得』について</p> <p>2～4回 「交友之道」 よい友達つきあいとは何でしょうか？ 孔子の言う「益者三友、損者三友」の概念を用いて友達つきあいの重要性について学びます。</p> <p>5～7回 「理想之道」 人はいかなる理想を抱いて人生を歩むべきでしょうか？ 理想や目標の実現のために、私たちが今なすべきことを孔子のことばから探っていきます。</p> <p>8～10回 「処世之道」 複雑な現代社会において誠実に生きていくための方策とは？ 社会の中でよりよい人間関係を築くための生き方を考えましょう。</p> <p>11～13回 「人生之道」 孔子は「十五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る」と述べています。人は自分の一生をどのように計画すべきでしょうか？</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>1 『論語新釈』宇野哲人 講談社学術文庫 1350 円 2 テレビ番組『論語心得』講演原稿：授業で配布</p>		出席率、授業への取り組み、期末試験によって評価します。	

(秋) (秋)	地域文化論 iv b	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>台湾で放映され、金賞を受賞した中国大陸紀行番組である『八千里路雲和月』を教材に使用します。</p> <p>この番組は中国大陸の風土と民族文化を紹介したもので、名司会者である凌峰が中国各地を旅行して収録されました。名所旧跡の紹介、現地の人々に対するインタビューなどから構成されています。</p> <p>この授業ではシリーズの中から、特に中国の民俗芸能と芸術に関する内容を取り上げます。授業を通して中国各地の風土民情にふれ、中国の民間芸術・芸能に対する理解を深めることを目標とします。</p> <p>中国語発音に中国語の字幕のついた DVD を使用しますので中国語の理解力が求められます。</p> <p>授業では最初に各単元について簡単に解説をしてから、番組を鑑賞し、最後に内容を日本語で確認していきます。</p>		<p>1. ガイダンス、『八千里路雲和月』について</p> <p>2. 湖南：洞庭湖と岳陽楼、馬王堆古墳</p> <p>3. 陝西：半坡遺跡、安塞腰鼓</p> <p>4. 河北：吳橋雜技、長城</p> <p>5. 貴州：茅台苗塞敬酒歌、苗姑娘挑花場</p> <p>6. 安徽：九華山（1）、（2）</p> <p>7. 吉林：長春電影節、吉林</p> <p>8. 江西：景德鎮、中国功夫</p> <p>9. 河南：河南[木邦]子、少林寺</p> <p>10. 広東：客家山歌、佛山陶磁</p> <p>11. 上海：四行倉庫、魯迅</p> <p>12. 天津：楊柳青年画、泥人張</p> <p>13. 北京：児童京劇比賽、故宮</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
必要な資料は授業中に配布します。		出席率、授業への取り組み、期末試験によって評価します。	

(春) (春)	地域経済論 i a	担当者	今井 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. ラテンアメリカ政治経済社会構造の特質を、アジア、アフリカとの比較において理解し、ラテンアメリカ地域の自然・住民・宗教・文化について概観する。</p> <p>2. ラテンアメリカ地域の政治経済社会の歴史の変遷過程を辿り、植民地前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、政治経済構造の変容について理解する。</p> <p>3. こうした考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な政策課題を明らかにする。そしてこれらの政策課題に対する各国政府や国際機関の取り組みについて紹介する。</p> <p>4. ラテンアメリカにおける開発の思想、理論、政策について、中心-周辺理論、構造学派、従属論、およびコスタリカ・モデル（非武装・中立・教育・福祉・環境重視）を中心に解説し、持続可能な開発のあり方について考える。</p> <p>5. 日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代の下での日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について受講生全員で考え、討論する。主として講義形式で進め、テーマに応じてディスカッションをとり入れる。</p>		<p>1. ラテンアメリカ概観—ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較</p> <p>2. 第1章 ラテンアメリカ経済の歴史の変遷過程 第1節 時期区分 ラテンアメリカ経済史時期区分</p> <p>3. 第2節 植民地期以前の先コロンブス期（—15世紀末）コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観</p> <p>4. 第3節 植民地期（15世紀末—19世紀初め）</p> <p>5. 第4節 独立期（19世紀初め—19世紀半ば）</p> <p>6. 第5節 第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば—1929年恐慌）</p> <p>7. 第6節 工業化から地域統合に至る時期（1929年恐慌—現在）</p> <p>8. 第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と課題</p> <p>9. 第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と課題</p> <p>10. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策</p> <p>11. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策—コスタリカ・モデル</p> <p>12. 第4章 日本とラテンアメリカの関係</p> <p>13. まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（参考書）今井圭子編著『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004年、西島章次・細野昭雄編著『ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004年。</p>		<p>授業中にリアクション・ペーパー、学期末にレポートを提出。リアクション・ペーパーとレポート、出席、授業参加状況を合わせて評価する。</p>	

(秋) (秋)	地域経済論 i b	担当者	今井 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. ラテンアメリカの経済を理解するためにまず基礎的な経済理論、経済用語について学ぶ。それを踏まえて経済発展に関する主要な理論と政策、ラテンアメリカにおける主要な開発の思想、理論、政策について学習する。</p> <p>2. ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治社会構造を踏まえながら理解する。ラテンアメリカ経済の主要なテーマをとりあげ、その現状と課題、政策について考察する。こうした問題への理解を深めながら、経済のグローバル化がラテンアメリカ経済に及ぼしてきた影響を、WTOとラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済の自由化と格差問題、開発と環境などを中心に考察し、持続可能な発展の可能性について考える。</p> <p>3. 以上を理解した上で、日本とラテンアメリカの経済関係について、貿易、投資、政府開発援助を中心に考察し、今後の望ましい方向性について考える。</p> <p>授業は、講義、関連文献の購読、ディスカッション等の形で進められるので、積極的参加を歓迎する。</p>		<p>1. 序、第1章 第1節 経済学の基礎理論、用語解説</p> <p>2. 第2節 経済発展に関する主要な理論、政策</p> <p>3. 第3節 ラテンアメリカにおける経済発展の理論と政策</p> <p>4. 第4節 ラテンアメリカの経済開発と政治体制</p> <p>6. 第2章 ラテンアメリカ経済の現状と課題 第1節 経済概況 第2節 経済成長と所得分配</p> <p>7. 第3節 経済成長とインフレーション 第4節 財政・金融システムと通貨危機</p> <p>8. 第5節 雇用・格差・貧困問題</p> <p>9. 第6節 国際収支・対外債務・為替政策</p> <p>10. 第7節 第一次産業と土地所有制度</p> <p>11. 第8節 産業構造・企業構造・民営化 第9節 対ラテンアメリカ投資と技術移転</p> <p>12. 第3章 経済のグローバル化とラテンアメリカ経済 第1節 WTO・地域統合・自由貿易協定 第2節 日本とラテンアメリカの経済関係</p> <p>13. まとめ—持続可能な開発を目指して</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（参考書）石黒 馨編『ラテンアメリカ経済学—ネオ・リベラリズムを超えて』世界思想社、2003年、今井圭子編著『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004年、今井・堀坂・斎藤共著『民主化と経済発展—ラテンアメリカABC3国の経験』上智大学、1997年、今井圭子『アルゼンチンの主要紙にみる日本認識』上智大学、2006年。</p>		<p>授業中に課したリアクション・ペーパーとさいごの授業までに提出するレポートおよび出席・授業参加状況を合わせて評価する。</p>	

(春) (春)	地域経済論 iia	担当者	森 健
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、オーストラリアを中心に取り上げる。但し、オーストラリアとの関連で、他のアジア太平洋諸国についても言及する。近年、オーストラリアは、先進国の中でトップクラスの好調な経済運営を続ける国、自国およびアジア太平洋地域の貿易・投資の自由化に熱心な国、さらに、自国の多文化社会化に努め、世界で最も人気の高い移住先および留学先として知られている。しかし、この国は70年代中期から80年代にかけては、経済パフォーマンスの最も悪い国の一つであった。また、かつては、名だたる保護貿易主義国、アジア人を含む有色人種移民を排除する人種差別国家であった。オーストラリアがこのような政策転換を行った理由は何か。新政策はどのような影響をオーストラリアに及ぼしているのか。この講義では、このような課題について、春秋期を通じて、分野別に解明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の目的、地域研究の意義、中高生用ビデオ教材によるオーストラリア社会概観</li> <li>2 総論：オーストラリア社会構造変化の流れ（1）</li> <li>3 総論：オーストラリア社会構造変化の流れ（2）</li> <li>4 平等主義、仲間主義の起源</li> <li>5 金発見、高度成長と1890年代恐慌</li> <li>6 戦争と国家・国民意識の形成</li> <li>7 アボリジニ</li> <li>8 白豪主義の終焉と多文化主義社会化</li> <li>9 反多文化主義と現況</li> <li>10 女性の社会進出と少子高齢化</li> <li>11 法律の特色、司法制度、マボ判決の意義</li> <li>12 政治制度</li> <li>13 (予備日)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>受講条件・評価方法</b>	
竹田いさみ・森健・永野隆行編『新版オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年9月およびプリント。		<p>受講条件：bも受講すること。          評価方法：定期試験。感想文提出を求める場合もある。</p>	

(秋) (秋)	地域経済論 iib	担当者	森 健
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(春期の講義を受講していることを前提として講義を進めるので、秋季に初めて受講する場合はテキストの前半部分に眼を通しておくこと。講義目的と概要については春期の欄を参照。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 春期の復習を兼ねたオーストラリア歴史概観</li> <li>2 外交：冷戦時代の政策</li> <li>3 外交政策（安保体制、国連外交）</li> <li>4 アジア太平洋政策と日米の位置</li> <li>5 経済構造の特色と変化</li> <li>6 1970年代以前の主要政策体系</li> <li>7 70年代の経済困難と金融財政政策</li> <li>8 ホーク・キーティング労働党政権の政策</li> <li>9 ハワード政権の政策とラッド政権の政策</li> <li>10 貿易構造と体内・対外投資</li> <li>11 日豪関係（1）</li> <li>12 日豪関係（2）</li> <li>13 (予備日)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
(春期と同じ)		(春期に準ずる)	

(春) (春)	地域経済論 iii a	担当者	全 載旭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>近年東アジアの急速な発展と域内諸国の相互依存関係の強化によって、東アジアは世界経済を牽引する存在になったと言われている。なかでも中国経済の動向は21世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。</p> <p>日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。</p> <p>この授業では中国経済の歴史、発展可能性などについて1970年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中国経済の全般的な動向 (1)</li> <li>2 中国経済の全般的な動向 (2)</li> <li>3 世界の工場か、世界の市場か? (1)</li> <li>4 世界の工場か、世界の市場か? (2)</li> <li>5 社会主義市場経済とは何か? (1)</li> <li>6 社会主義市場経済とは何か? (2)</li> <li>7 メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか? (1)</li> <li>8 メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか? (2)</li> <li>9 国有企業改革はどこまで進んだか? (1)</li> <li>10 国有企業改革はどこまで進んだか? (2)</li> <li>11 農村はいかに変化したか? (1)</li> <li>12 農村はいかに変化したか? (2)</li> <li>13 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第2版』日本評論社、2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する。	

(秋) (秋)	地域経済論 iii b	担当者	全 載旭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国経済の発展をめぐる内的な課題と、対外貿易の発展、外資導入などの経済成長への役割、近年中国の台頭による東アジア経済の再編について論じていく。</p> <p>貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方についても考察する。また東アジアにおける経済統合の実現可能性も取り上げる。</p> <p>東アジア・中国経済論 a を履修し、中国の経済発展メカニズムの基本を把握していることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 失業率は本当に低いか?</li> <li>2 金融は中国経済のアキレス腱か?</li> <li>3 輸出は成長のエンジンか? (1)</li> <li>4 輸出は成長のエンジンか? (2)</li> <li>5 外資は何をもたらしたか? (1)</li> <li>6 外資は何をもたらしたか? (2)</li> <li>7 中国は国際社会にとって脅威か?</li> <li>8 日中関係はいかにあるべきか?</li> <li>9 持続成長は可能か? (1)</li> <li>10 持続成長は可能か? (2)</li> <li>11 成長の果実は誰の手に?</li> <li>12 21世紀における東アジア経済と中国経済</li> <li>13 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第2版』日本評論社、2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する。	



(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	比較社会論 b	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>どの社会もそれぞれ独自の人間関係のあり方、それを基礎にした組織、またそのような関係や組織についての認識の仕方をもっている。これを理解してゆくために、ほぼどの社会にもその存在が認められている、最小単位としての「家族」を取り上げる。この「家族」をさまざまな側面から検討してゆくことによって、その社会の特質を理解するようにしたい。</p> <p>「家族」は婚姻によって成立する。そこでさまざまな社会の婚姻慣習とその意味を考え、それを基礎に形成された「家族」について、その構成、成員間の関係、単位としての性格などについて、まず講義を行う。</p> <p>またいくつかの社会の家族については、論文を用意し、受講者に配布して、読んでもらい、発表してもらう。そういう形をとって「異文化」の（文化人類学だから内容的には「未開」の）さまざまな家族について知識を得てもらいたい。そうすることでわれわれのもつ家族についても批判的な知見をもてるはずである。</p>		<p>人間の「家族」は、動物がもたぬ「婚姻」によって成立する、ということから話を始める。婚姻のいろいろな形、意味、親族との関係など、話すことはいくらかもある。その間に家族について読んでもらう論文を用意し、配布する。今予定しているのは、アフリカ、ネパール、バングラデシュ、サモア、カナダ・インディアン、インドなどの社会のものである。これを希望に応じて発表してもらい、また読まないものについては、その発表を聴くことで知識を得てもらう。何回目は何をするか、授業が始まってから決めることになる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
論文は用意する。また、その他、必要と思われる文献については随時紹介する。		出席を取ったり、適宜レポートを提出してもらったりという形で、多少出席を強制したい。これを基礎に、期末提出のレポートで評価をする。	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明 a)	担当者	P.ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objetivo del curso:</b></p> <p>1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los autores y obras artísticas y literarias más destacadas de cada época.</p> <p>2. Desarrollar:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos.</li> <li>-La expresión oral a través de comentarios acerca de los conocimientos adquiridos.</li> <li>-La comprensión oral mediante videos y películas.</li> <li>-Expresión escrita.</li> </ul> <p><b>Destinatarios:</b> alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. La España prerromana. Los albores del arte español: <i>la cueva de Altamira</i>.</li> <li>2. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas: <i>la Dama de Elche</i>.</li> <li>3. La romanización y sus consecuencias.</li> <li>4. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad y el arte visigodo.</li> <li>5. La invasión musulmana (s. VIII). Sociedad, cultura y arte árabe.</li> <li>6. la Alhambra de Granada y la Mezquita de Córdoba.</li> <li>7. La Reconquista (ss.XI-XIII). Las ciudades medievales y el nacimiento de la burguesía.</li> <li>8. Los orígenes del español. <i>El romancero</i>.</li> <li>9. El arte románico (s. XI).</li> <li>10. El arte gótico (s. XII).</li> <li>11. La España de los Reyes Católicos (s. XV). La expulsión de los árabes y judíos. El Descubrimiento de América.</li> <li>12. El humanismo. <i>La Celestina</i> (XVI).</li> <li>13. La novela picaresca: <i>El Lazarillo de Tormes</i> (1554).</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		Una pequeña prueba sobre los conocimientos adquiridos. <b>La asistencia a clase es importantísima.</b>	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明 b)	担当者	P.ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ver el apartado anterior.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. La monarquía española de los Austrias (ss. XVI-XVIII), transformaciones sociales y políticas.</li> <li>2. La literatura barroca: Góngora (1561-1627), Quevedo (1580-1645), Lope de Vega (1562-1635) y Calderón de la Barca (1600-1681).</li> <li>3. La literatura barroca (continuación).</li> <li>4. El arquitectura barroca (XVII).</li> <li>5. El Greco (1541-1614).</li> <li>6. Diego de Velázquez (1599-1660).</li> <li>7. La Ilustración (XVIII): Francisco de Goya (1746-1828).</li> <li>8. El Romanticismo (XIX).</li> <li>9. El mito de <i>Don Juan</i>.</li> <li>10. La crisis de 1898. La Generación del 98: Unamuno (1894-1936), Pío Baroja (1873-1956) y Valle Inclán (1866-1936).</li> <li>11. La arquitectura de Antonio Gaudí (1852-1926).</li> <li>12. Pablo Picasso (1881-1973).</li> <li>13. Tema libre.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		Una pequeña prueba sobre los conocimientos adquiridos. <b>La asistencia a clase es importantísima.</b>	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民俗と文化 b)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カリブ海域社会は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その上に文化が築かれている。そこでまずその歴史をしっかりと知ってもらいたい。そしてそれを基礎にした、複雑な民族構成、錯綜した民族関係とその意識を知り、さらにこの地域の特徴とされるクレオール語を中心とした複雑な言語および言語構成を理解する。わたしが調査した「家族」「マーケット」、人口に膾炙した「音楽」についても話をできる内容をもっているが、半期でどこまで話をできるか、わからない部分もある。右の授業計画は暫定的なものと考えてもらいたい。</p> <p>注：この地域の社会は規模も小さく、資源もありません。したがって世界のなかで政治的・経済的に全く力をもっていません。ただ人間はいるのだし、それぞれに独特の文化や意識をもって生活してはいます。そういうことだけで十分興味があるという人が受講してください。</p>		<p>1 カリブ海域鳥瞰 2 資料（本、ビデオ、CD など）紹介 3 歴史（1） 4 歴史（2） 5 歴史（3） 6 民族・住民——白人と黒人 7 民族・住民——黒人同士（1） 8 民族・住民——黒人同士（2） 9 民族・住民——黒人とインド人 10 言語分布鳥瞰 11 クレオール語の成立 12 各クレオール語解説（1） 13 各クレオール語解説（2）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		いつも受講者はごく少ない。出欠を繰り返しては授業ができない。厳しく出席を取るか、適宜レポートを出してもらおうか。それに期末のレポートを加えて評価をする。	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究 a)	担当者	浦部 浩之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。</p> <p>ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸の規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異なる言語や文化をもつ小国家群も存在する。</p> <p>本講義の前半では、まずラテンアメリカのいくつかの代表的な国を取り上げ、その政治や社会の特色と多様性を具体的に学ぶ。そのことをふまえて、後半では、ラテンアメリカ全体に通じる政治・経済・社会の基本構図を(たんなる知識の羅列ではなく)論理的・総合的に理解するように努めていきたい。</p> <p>(※秋学期も参照のこと)</p>		<p>I. 多様なラテンアメリカ世界 ——その政治・社会・文化の特徴——</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アンデス地域 (ペルー・コロンビアなど)</li> <li>2. ラプラタ地域 (アルゼンチンなど)</li> <li>3. ブラジル</li> <li>4. メキシコ</li> <li>5. 中米地域 (グアテマラ・エルサルバドルなど)</li> <li>6. カリブ地域 (スリナム・ハイチなど)</li> </ol> <p>II. ラテンアメリカの政治と社会の基本構図 ——その歩みと現代の諸問題——</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. ラテンアメリカ地域の成立</li> <li>8. ラテンアメリカ諸国の近代化</li> <li>9. 社会階層とポピュリズム</li> <li>10. 国家発展と軍事クーデタ</li> <li>11. 経済危機と民主化</li> <li>12. ネオリベラリズムと貧困問題</li> </ol> <p>13. 授業のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験 (これに出席状況を加味する)。	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究 b)	担当者	浦部 浩之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解を深めることを目標とする。</p> <p>ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また独立国としても 200 年近い歴史をもつ、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。</p> <p>本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、米州(南北アメリカ)やラテンアメリカ域内の国際関係に関する重要論点について学んでいく。そして、麻薬やゲリラ、政治の不安定化など、現代ラテンアメリカで大きな争点となっている諸問題について知り、この地域が抱える 21 世紀の課題について考えていきたい。</p> <p>(※できるだけ春・秋両学期を通して履修のこと)</p>		<p>I. ラテンアメリカの国際関係史</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロンブスとラテンアメリカ</li> <li>2. 19 世紀の世界経済とラテンアメリカの近代化</li> <li>3. 米国の覇権主義とラテンアメリカ</li> <li>4. 地域協調時代のラテンアメリカ</li> </ol> <p>II. 米州域内の国際関係</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. キューバと米国</li> <li>6. ラテンアメリカの軍事政権と米国</li> <li>7. ラテンアメリカの非核兵器地帯化</li> <li>8. 米州機構と民主主義支援</li> </ol> <p>III. 現代ラテンアメリカの諸問題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. アンデス諸国の麻薬問題</li> <li>10. 経済グローバル化と貧困問題</li> <li>11. 経済・インフラ統合と先住民問題</li> <li>12. 左傾化するラテンアメリカ</li> </ol> <p>13. 授業のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験 (これに出席状況を加味する)。	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(中国文学研究古典)	担当者	巖 明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、中国の古典文学を学ぶことを通して、文化や学術、社会状況などについて理解を深め、中国文学全体に対する関心を広げることが、目的とする。講義内容は、主として韻文文学を取り上げる。漢代、六朝の樂府や古詩から唐代の詩、宋代の詞まで、代表的な詩人と詞人、曹操・陶淵明・王昌齡・李白・杜甫・李商隱・杜牧・李煜・柳永・歐陽修・蘇軾・李清照・陸遊・辛弃疾などの作品を読み解きながら、平仄・對仗・押韻など中国韻文特有の技巧や規則の發展と変容を追跡し、その文学としての意義を考える。</p> <p>受講条件：地域社会文化論特殊講義(中国文学研究現代)も履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、中国文学の起源と特徴</li> <li>2、中国文学の種類と發展</li> <li>3、漢代、六朝の樂府や古詩</li> <li>4、漢詩の音韻、平仄、押韻</li> <li>5、唐代の詩・初唐詩人</li> <li>6、唐代の詩・李白</li> <li>7、唐代の詩・杜甫</li> <li>8、晚唐詩人・李商隱、杜牧</li> <li>9、唐五代詞人・李煜</li> <li>10、宋代詞人・柳永、歐陽修、蘇軾</li> <li>11、宋代詞人・李清照、陸遊、辛弃疾</li> <li>12、明清の文学</li> <li>13、日本の漢文學・江戸漢詩人</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>自編教科書。参考書：八木章好《中国語で巡る：漢詩と三国志の旅》，朝日出版社，2008 初版。</p>		<p>評價方法:期末定期試験，平常授業の課題など</p>	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(中国文学研究現代)	担当者	巖 明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、『五四運動』後の中国現代文学を、代表的な作家の作品を読み解く作業を通して、その社会における意味を検討する。まず魯迅・郭沫若・茅盾・巴金・老舍・曹禺などの代表作を紹介し、当時の社会や讀者個人にも強い文化衝撃と意識変革を検証する。また、1949年後に小説創作を始めたた新世代の作家たち、たとえば王蒙・高曉聲・陸文夫・王安憶・張潔などの小説を閲讀して、中国の新しい文学を了解しました。さらには当代作家によって表現された、いわば現在進行形の中国を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、中国現代文学の發生</li> <li>2、近代日本文学の影響</li> <li>3、魯迅の小説</li> <li>4、郭沫若の詩歌</li> <li>5、茅盾の小説</li> <li>6、巴金の小説</li> <li>7、老舍の小説と北京話</li> <li>8、曹禺の劇作品</li> <li>9、王蒙・高曉聲の小説</li> <li>10、陸文夫と江南文学傳統</li> <li>11、王安憶・張潔と中国女性文学</li> <li>12、中国現代文学の特徴</li> <li>13、日中文学の交流</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>自編教科書。参考書：朱棟霖《中国現代文学史》，北京大学出版社，2007 年版。</p>		<p>評價方法:期末定期試験，平常授業の課題など</p>	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(日韓文化の類似性と異質性a)	担当者	金 雄熙
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日韓両国は長らく文化の異質性を「差別」という観点からとらえてきた。また、類似性が併合の手段として強調された時期もあった。しかし同質的か異質的かという議論は支配と隷属、葛藤と対立の論理に過ぎない。両国文化の同質性に注目しつつ、また差異を前提に異なる役割を模索する姿勢が必要である。このような立場に基づいて、本講義では社会・宗教・芸術・生活文化など、あらゆる面から日本と韓国の類似性と異質性を追求する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 韓国文化と日本文化：その同質性と異質性①</li> <li>3 韓国文化と日本文化：その同質性と異質性②</li> <li>4 韓国文化と日本文化：その同質性と異質性③</li> <li>5 日本文化と韓国文化—その同質性と異質性①</li> <li>6 日本文化と韓国文化—その同質性と異質性②</li> <li>7 日本文化と韓国文化—その同質性と異質性③</li> <li>8 生活文化：その色とかたち①</li> <li>9 生活文化：その色とかたち②</li> <li>10 生活文化：その色とかたち③</li> <li>11 「ゾンビ」社会と武家社会①</li> <li>12 「ゾンビ」社会と武家社会②</li> <li>13 「ゾンビ」社会と武家社会③</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特に指定しない。授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する。</p>		<p>出欠状況、中間テスト、期末レポートで評価する。</p>	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(日韓文化の類似性と異質性b)	担当者	金 雄熙
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日韓両国は長らく文化の異質性を「差別」という観点からとらえてきた。また、類似性が併合の手段として強調された時期もあった。しかし同質的か異質的かという議論は支配と隷属、葛藤と対立の論理に過ぎない。両国文化の同質性に注目しつつ、また差異を前提に異なる役割を模索する姿勢が必要である。このような立場に基づいて、本講義では社会・宗教・芸術・生活文化など、あらゆる面から日本と韓国の類似性と異質性を追求する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 秀吉、家康と朝鮮：壬辰倭乱後四百年</li> <li>3 日本文化の二重構造</li> <li>4 日韓文化の原型</li> <li>5 宗教的エトスとその背景①</li> <li>6 宗教的エトスとその背景②</li> <li>7 宗教的エトスとその背景③</li> <li>8 韓日文化交流の諸相①</li> <li>9 韓日文化交流の諸相②</li> <li>10 韓日文化交流の諸相③</li> <li>11 文化・芸術と想像力①</li> <li>12 文化・芸術と想像力②</li> <li>13 文化・芸術と想像力③</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特に指定しない。授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する。</p>		<p>出欠状況、中間テスト、期末レポートで評価する。</p>	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 c)	担当者	金 貞我 (キム・ジョンア)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今学期の韓国文化論のテーマは「しぐさと姿の朝鮮文化―描かれた朝鮮文化を読む」である。特に朝鮮時代中期(18世紀)以降の文化の諸像を、朝鮮時代に描かれたさまざまな風俗画から読み取り、その図像に表象される歴史や社会、文化を学ぶのが今学期における韓国文化論の目的である。</p> <p>授業はスライドやビデオなどの視覚的な資料を用いながら行われる。描かれた朝鮮時代の生活文化を理解し、それらが現代韓国の社会にどのように継承され、生きているのかまで、韓国文化の歴史の諸像を視覚(図像)資料からアプローチすることが主な内容である。</p>		<p>1、韓国の時代区分と歴史の概要</p> <p>2、姿の朝鮮文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性の表象―封建社会の理想の女性像</li> <li>・ 立身出世の表象―寺小屋と科挙</li> <li>・ 妓女の姿と上流社会</li> <li>・ 装身具と服飾が象徴する身分社会</li> </ul> <p>3、しぐさの朝鮮文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食文化と食事作法</li> <li>・ 片立膝と正座</li> <li>・ 顔を隠す女性・扇をかざす男性</li> <li>・ いただく女・背負う男―労働する庶民</li> </ul> <p>4、儀礼の朝鮮文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通過儀礼と士大夫文化</li> <li>・ 民間信仰</li> </ul> <p>※以上の内容に基づいた詳しい授業日程は、授業の初日に配布する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書および参考資料は、授業中に随時紹介する。必要な資料はコピーして配布する。		出席と平常点を重視する。授業中に行うテストと定期試験を総合して評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(韓国の言語文化)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の様々な様相を学ぶ。 10回までは、様々な韓国語の様相を軸に講義をする。 講義の途中で韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。 11回以降には、韓国語に関するテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。</p> <p>ある程度の韓国語学習歴があることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 訓民正音創製の意義</li> <li>3. 語彙の構造(固有語・漢字語・外来語)</li> <li>4. 言葉づかいと人間関係(1)</li> <li>5. 言葉づかいと人間関係(2)</li> <li>6. 言葉とジェスチャー</li> <li>7. 韓国と北朝鮮の言葉の違い</li> <li>8. 若者の言葉</li> <li>9. 韓国の方言</li> <li>10. ネット言語</li> <li>11. 発表</li> <li>12. 発表</li> <li>13. 発表</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適当な資料を配布		出席 100%、チーム別(5-6人)プレゼンテーション、中間レポート、期末試験	



(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 a)	担当者	金 秀晶
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>朝鮮半島の近代史を学ぶ。          韓国の時事週刊誌『ハンギョレ 21』に 2001 年から歴史コラムとして連載され、2003 年に単行本化されてからもベストセラーとなり話題を呼び続けている韓洪九『大韓民国史』(日本語訳は(6)を参照)を軸に講義をする。          10 回までは、韓洪九『大韓民国史』を軸に講義をする。講義の途中に韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。          11 回以降には、韓国の近代史のなかテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。</p> <p>ある程度の韓国語学習歴があることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 朝鮮半島の 100 年を振り返る(1)</li> <li>3. 朝鮮半島の 100 年を振り返る(2)</li> <li>4. 大韓民国の歴史的正当性</li> <li>5. 単一民族神話</li> <li>6. 「兵営国家」韓国(1)</li> <li>7. 「兵営国家」韓国(2)</li> <li>8. 「兵営国家」韓国(3)</li> <li>9. 「親日派」問題(1)</li> <li>10. 「親日派」問題(1)</li> <li>11. 発表</li> <li>12. 発表</li> <li>13. 発表</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
韓洪九著・高島宗詞監訳、『韓洪九の韓国現代史韓国とはどういう国か』、平凡社、2003 年 韓洪九著・高島宗詞監訳、『韓洪九の韓国現代史(2)負けの歴史から何を学ぶのか』、平凡社、2005 年		出席 100%、チーム別(5-6 人)プレゼンテーション、中間レポート、期末試験	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 b)	担当者	金 秀晶
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>韓国の宗教を通じて派生された様々な文化を学んでいく。          10 回までは、韓国の様々な宗教を軽く触って、建国神話・文学、思想・イデオロギー、生活習慣などの様相を軸に講義をする。講義の途中に韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。          11 回以降には、韓国の宗教と関連があるテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。</p> <p>ある程度の韓国語学習歴があることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 韓国の宗教と伝統文化</li> <li>3. 韓国の民俗信仰と巫俗</li> <li>4. 節季風俗</li> <li>5. 韓国の仏教文化</li> <li>6. 韓国の儒教文化(1)</li> <li>7. 韓国の儒教文化(2)</li> <li>8. 韓国のキリスト教(1)</li> <li>9. 韓国のキリスト教(2)</li> <li>10. 韓国の風水思想</li> <li>11. 発表</li> <li>12. 発表</li> <li>13. 発表</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適当な資料を配布		出席 100%、チーム別(5-6 人)プレゼンテーション、中間レポート、期末試験	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(日韓交流史)	担当者	金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」(あるいは相互認識)のあり方やその変化についても焦点を当てていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国の歴史の流れ</li> <li>2. 王仁博士と漢文</li> <li>3. 日本の中の百済文化</li> <li>4. 高麗時代の社会状況</li> <li>5. 『三国史記』と『三国遺事』</li> <li>6. 朝鮮通信史</li> <li>7. 豊臣秀吉と李舜臣</li> <li>8. 申叔舟と雨森芳洲</li> <li>9. 安重根と伊藤博文</li> <li>10. 日韓併合</li> <li>11. 浅川巧と韓国</li> <li>12. 朝鮮戦争と日本</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。		最終レポート及び、感想文、小レポートなどを総合的に評価。	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶもの a)	担当者	熊谷 哲也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義の目的) 西アジア地域、とくにイスラーム勃興以降の時代について、歴史と社会を考察しながら、「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は、「西洋」の主観が生み出した産物だが、ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。</p> <p>(講義概要) 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、それぞれ3回ずつ講義する。そのなかで必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。</p>		<p>1 A ; キリスト教の広がり とアジア世界。 その1</p> <p>2 同 その2</p> <p>3 同 その3</p> <p>4 B ; イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。 その1</p> <p>5 同 その2</p> <p>6 同 その3</p> <p>7 C ; 十字軍・レコンキスタとその時代。 その1</p> <p>8 同 その2</p> <p>9 同 その3</p> <p>10 D ; 2つの旅行記(マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ)と当時の世界。その1</p> <p>11 同 その2</p> <p>12 同 その3</p> <p>13 まとめをおこなう</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する		レポートによる	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶもの b)	担当者	熊谷 哲也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義の目的) 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が「東洋」における近代化である点と、それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。</p> <p>(講義概要) 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、それぞれ3回ずつ講義する。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。</p>		<p>1 E ; 大航海時代と世界の一体化。アジアとヨーロッパの出会い。 その1</p> <p>2 同 その2</p> <p>3 同 その3</p> <p>4 F ; アジアにおけるさまざまな近代化。 その1</p> <p>5 同 その2</p> <p>6 同 その3</p> <p>7 G ; 帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。 その1</p> <p>8 同 その2</p> <p>9 同 その3</p> <p>10 H ; 旧ソ連諸国や旧ユーゴスラビア諸国における民族・宗教意識。 その1</p> <p>11 同 その2</p> <p>12 同 その3</p> <p>13 まとめをおこなう</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する		レポートによる	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義 (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、スペインとその旧植民地であったラテンアメリカ諸国の音楽実践について理解を深めることを目的とする。この地域の音楽はダンスと不可分に発展を遂げてきたことから、その身体技法についても随所で言及する。クレオールをはじめ、文化混淆の概念がキーワードとなるため、前半の授業ではキューバの音楽を重点的に取りあげ、成分といわれる各音楽的要素に再検討を加える。音楽研究一般の可能性を吟味したうえで、各自の関心に応じた題目を選んでもらい、意見交換の場を設ける予定である。後半の準備期間においては、スペイン語圏、非スペイン語圏の音楽環境を広く概説する。楽器の実物に触れる機会も用意したいが、議論のベースは文化人類学に置く。単なる音楽紹介や知識の吸収にとどまらない演習の側面をもたせたい。スペイン語履修者以外の受講にも配慮する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 文化混淆の現況: キューバの音楽を事例として</li> <li>3. スペイン由来の音楽的要素: 弦楽器の系譜を中心に</li> <li>4. アフリカ由来の音楽的要素: 打楽器の系譜を中心に</li> <li>5. 先住民由来の音楽的要素: フォルクローレを中心に</li> <li>6. 民族音楽学およびポピュラー音楽研究の手法と展望</li> <li>7. スペイン語圏の音楽①: カリブ海地域</li> <li>8. スペイン語圏の音楽②: 中央アメリカ</li> <li>9. スペイン語圏の音楽③: 南アメリカ</li> <li>10. 英語圏、フランス語圏、ポルトガル語圏ほかの音楽</li> <li>11. 移民(ラティノー、チカーノ、日系人)の音楽</li> <li>12. 個人研究報告会</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリントを配布するほか、相談のうえ、その都度指示する。		評価方法: 平常授業における発表などの実績(40%)と期末レポート(60%)。	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義 (スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、主としてラテンアメリカの社会と文化について、文化と国家との関係を中心に学んでいく。</p> <p>スペイン語の知識は、あったほうが良いが、必ずしも必要ではない。むしろ、ラテンアメリカにおけるそれぞれの国の位置と基本的な知識が必要である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ラテンアメリカ社会における男と女</li> <li>3. ラテンアメリカ社会における人種</li> <li>4. ラテンアメリカ社会における先住民族</li> <li>5. ラテンアメリカ社会における先住民族 (続き)</li> <li>6. 先住民文化の位置づけ</li> <li>7. 先住民文化と国民文化</li> <li>8. 国民文化とは何か</li> <li>9. 国民国家の形成と人種</li> <li>10. 国家の統合とは何か</li> <li>11. ラテンアメリカ社会におけるスペイン語教育の意味</li> <li>12. ラテンアメリカの今後</li> <li>13. 総括</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは当方で用意する。</p> <p>参考文献は、その都度、授業内で指示する。</p>		<p>学期末に行なわれる筆記試験 (論述) で評価する</p>	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義 (アメリカ合衆国のラティノー社会)	担当者	佐藤 勘治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、米国におけるラティノー概念誕生の経緯を歴史的に追い、さらにラティノー社会の現状と問題点を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。</p> <p>一般に米国における人種およびエスニック集団とラテンアメリカの人種をめぐる認識はまったく違うものと考えられてきた。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種認識の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティノーの「人種」化である。ラティノーが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで考えていこうと思う。</p>		<p>はじめに：複数形のアメリカ「アメリカス」の時代へ</p> <p><u>ラティノー(米国のスペイン語系住民)</u></p> <p>①センサスから見る米国の人種・民族集団概念 ②米国ラティノーの特徴と出身地域ごとの特徴 ③ヒスパニックからラティノーへ：人種化するラティノー</p> <p><u>ラテンアメリカから米国への人の移動</u></p> <p>④なぜ人は移動するのだろうか。 ⑤移動の歴史1：キューバ系とプエルトリコ系 ⑥移動の歴史2：メキシコ系 ⑦移動の拡大と最近の移民規制：北米自由貿易協定と国境線の警備強化</p> <p><u>チカノ(米国のメキシコ系住民)</u></p> <p>⑧チカノ・ルネサンス 壁画運動など ⑨セサル・チャベスとチカノ運動 ⑩チカノと先住民：アストラン伝説と「アストラン宣言」 ⑪プエブロ・インディアン：米国先住民とはだれか +メキシコ先住民の米国への移民</p> <p>おわりに：米国における多文化主義とラティノー</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考文献：中條 謙『歴史の中の人種』北樹出版 2004 サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』集英社 2004 など 授業中に必読文献リストを配る</p>		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義 (英語圏のエスニック・ヒストリーa)	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日米英の三ヶ国に昔から定住してきた代表的マイノリティ（被差別少数派）の歴史と現状について学ぶ。とりわけ多数派の側から加えられてきた抑圧・差別を生み出すメカニズムについて詳しく解明する。同時に多数派側からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきたマイノリティ集団側の主体的努力についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要を説明。マイノリティについての概念規定を行なう。</li> <li>2. 日系人に対する抑圧を生み出した法的根拠と“White Racism”について学ぶ。</li> <li>3. 第二次大戦中、12万人におよぶ日系アメリカ市民に対する強制収容とその賠償問題を学ぶ。</li> <li>4. アメリカのユダヤ人差別を告発する映画「紳士協定」の合評会を行なう。</li> <li>5. 僅か半世紀で被差別マイノリティから強力なエリート集団へ変身した人々がいる。それは在米ユダヤ人社会である。彼等の政治力を生み出した源泉を探る。</li> <li>6. ユダヤ人不在の我が国においても、すでに1920年代から「ユダヤ人陰謀論」は存在していた。近年米系ユダヤ人団体から激しい抗議を招くにいたったその背景を探る。</li> <li>7. 日本人が在米ユダヤ人社会の存在を「発見」するのは日露戦争期においてであった。以後、今日に至る恩義と友好の交流史を学ぶ。</li> <li>8. 在日コリアンの形成史を学ぶ。</li> <li>9. 差別とたたかう在日コリアンの現状について学ぶ。</li> <li>10. 在米コリアンが標的としてえりぬかれた92年のロス暴動の背景を探る。</li> <li>11. 室町時代後期から明治初年までの日本人の黒人認識の変遷をたどる。 日本の政治家による差別発言、在米日系企業による黒人への雇用差別はどのようにして解決されたのかを探る。</li> <li>12. 奈良県の「部落産業」の現状を紹介した記録映画を通じて部落問題への理解を深める。</li> <li>13. 被差別部落の現状を整理、紹介する。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
		定期試験 70点 合評会 10点 出席 20点 でカウントする。	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義 (英語圏のエスニック・ヒストリーb)	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニック・グループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。</p> <p>毎回10本近い映像ソフトを担当者が持参し、具体的な場面をピックアップしながら、各エスニック・グループが抱えているジレンマ・課題などを解説していく。つまりエスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。</p> <p>かつて有名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では20年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 先住民インディアン</li> <li>3. 越境するヒスパニック</li> <li>4. 今を生きる黒人</li> <li>5. 歴史の中の黒人</li> <li>6. " "</li> <li>7. 等身大のユダヤ人</li> <li>8. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター</li> <li>9. 歴史の中のユダヤ人</li> <li>10. アジア系ー日系・中国系・韓国系ー</li> <li>11. ホワイト・エスニックーアイルランド系・イタリア系 など過去において蔑視された白人集団</li> <li>12. 異人種・異教徒間カップル</li> <li>13. おわりに</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤唯行著、仮題『映画で学ぶエスニック・アメリカ』(2008年夏) 1600円?		出席はとらない。定期試験のみで評価する。試験は5択、20題のクイズ形式。テキスト持ち込み可。	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論 b)	担当者	全 載旭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この40年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということをはっきりとすることを目的とする。</p> <p>まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国の歴史、政治 (1)</li> <li>2. 韓国の歴史、政治 (2)</li> <li>3. 家族の構造</li> <li>4. 社会の人間関係ネットワーク</li> <li>5. 経済成長の社会学的考察</li> <li>6. 韓国の経済成長 (1)</li> <li>7. 韓国の経済成長 (2)</li> <li>8. 工業化パターンー日本モデル</li> <li>9. 輸出指向型経済成長戦略</li> <li>10. 成長過程の社会変容</li> <li>11. 韓国の財閥</li> <li>12. 開発と社会変化</li> <li>13. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
服部民夫『開発の経済社会学ー韓国の経済発展と社会変容ー』文真堂、2005年。大宮正史『韓国ー民主化と経済発展のダイナミズムー』ちくま新書、2003年。		出席状況と試験で評価する。	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	



(春) (春)			
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義 (スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法)	担当	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語圏の人文的・社会的な研究をする際に必要となる情報の収集法について考え、実践する講義である。</p> <p>スペイン・ラテンアメリカ研究の各テーマに必要な情報(源)の特定の方法を考え、実際にいくつかのテーマに沿って実践する。</p> <p>情報(源)の特定を完了した後、具体的にその情報を提供するメディアの収集を行う。刊行物を中心とした文献、各種メディア(CD, DVD, インターネット、人間等)を調査し、設定したテーマに適した情報を取り出す練習をする。</p> <p>集めた情報の整理の方法、プレゼンテーションの仕方についても学ぶ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 情報を集めるテーマの選定</li> <li>② 文献の調査法・情報収集法 1</li> <li>③ 文献の調査法・情報収集法 2</li> <li>④ 文献の調査法・情報収集法 3</li> <li>⑤ 大学内での調査法・情報収集法 1</li> <li>⑥ 大学外での調査法・情報収集法 2</li> <li>⑦ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法</li> <li>⑧ インターネット上の調査法・情報収集法 1</li> <li>⑨ インターネット上の調査法・情報収集法 2</li> <li>⑩ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 1</li> <li>⑪ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 2</li> <li>⑫ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 3</li> <li>⑬ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 4</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義 (韓国史)	担当者	平田 由紀江
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>わたしたちは朝鮮半島の歴史についてどれぐらい知っているだろうか。また、どれぐらい知らないだろうか。本講義では朝鮮半島の歴史を通史的に論じていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション～古朝鮮から三韓</li> <li>2 高句麗、百濟、新羅</li> <li>3 高麗の成立と展開</li> <li>4 李氏朝鮮の成立と展開</li> <li>5 朝鮮近代社会</li> <li>6 植民地支配下の朝鮮 (1)</li> <li>7 植民地支配下の朝鮮 (2)</li> <li>8 解放と分断 (1)</li> <li>9 解放と分断 (2)</li> <li>10 韓国の軍事政権と韓国社会</li> <li>11 韓国の民主化と経済発展</li> <li>12 南北関係の変化</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業初回に提示する。		出席、発表、期末テスト	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義（韓国社会各論 a）	担当者	平田 由紀江
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は朝鮮半島分断の歴史と現状を、政治的観点にとどまらず「日常」の視点から概観するものである。分断社会における「日常のなかの分断」、メディアにおける分断の表象から国際社会のなかの「分断」まで、単なる国際政治の枠組みとしてのみ「分断」を語るのではなく、「分断」とは朝鮮半島に住む人々やその日常にとってなにを意味するのか、どのようなかたちで日常にあらわれているのかを考察することに重点を置く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 イントロ</li> <li>2 朝鮮半島分断の背景</li> <li>3 朝鮮戦争①</li> <li>4 朝鮮戦争②</li> <li>5 世界情勢と朝鮮半島①</li> <li>6 世界情勢と朝鮮半島②</li> <li>7 アジアと朝鮮半島①</li> <li>8 アジアと朝鮮半島②</li> <li>9 日本と分断朝鮮①</li> <li>10 日本と分断朝鮮②</li> <li>11 南北の社会①</li> <li>12 南北の社会②</li> <li>13 まとめ</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業初回に提示する。		出席、発表、期末テスト	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義（韓国社会論）	担当者	平田 由紀江
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は「韓国社会とジェンダー」にテーマをしばって現代韓国社会の諸問題について考察し、その社会像を描きだす。朝鮮半島や韓国といえば、歴史問題や日韓・日朝関係等の政治問題が主な関心事となることが多いが、本講座では、「日本と韓国」あるいは「日本と朝鮮半島」という枠にとらわれずに、韓国に住む人々の日常生活と密接に関連したテーマから現代韓国社会を読み解いていく。討論を通じて隣の社会や人々について「考える」時間にするため、受講者には積極的な授業参加が望まれる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 イントロ-韓国現代社会とジェンダー</li> <li>2 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観①</li> <li>3 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観②</li> <li>4 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観③</li> <li>5 ジェンダーと制度①</li> <li>6 ジェンダーと制度②</li> <li>7 労働とジェンダー</li> <li>8 軍隊とジェンダー</li> <li>9 歴史とジェンダー①</li> <li>10 歴史とジェンダー②</li> <li>11 表象される女性たち①</li> <li>12 表象される女性たち②</li> <li>13 まとめ</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリントを配布する。		出席、期末テスト	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 a)	担当者	藤原 和彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>イスラム教（イスラーム）は西暦7世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン（コーラン）と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒（ムスリム）数は約13億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで57か国に及ぶ。</p> <p>本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、</p> <p>(1) テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』（フランシス・ロビンソン著）の講読</p> <p>(2) イスラム世界のビデオ紹介の2部構成とする。</p> <p>なお、テキストはコピーを配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 セム族と唯一神教</li> <li>2 預言者モーゼの「十戒」と律法主義</li> <li>3 偶像崇拜の禁止とキリスト教</li> <li>4 「最後の預言者」ムハンマド</li> <li>5 信仰告白、「アッラー以外に神なし。ムハンマドはアッラーの使徒である」</li> <li>6 アッラーの啓示、メッカ啓示とメディナ啓示</li> <li>7 預言者ムハンマドのメッカからメディナへのヒジュラ（聖遷）とイスラム暦</li> <li>8 ウンマ（信仰共同体）とスンナ（預言者の聖行）</li> <li>9 カリフ（預言者ムハンマドの後継者）の選出とイスラム的民主主義シューラー（相談・協議）</li> <li>10 第二代正統カリフ、ウマルの称号「信徒の司令官」</li> <li>11 第四代正統カリフ、アリーとシーア派の誕生</li> <li>12 シーア派教義「アリーはアッラーのワリー（友）」</li> <li>13 預言者ムハンマドの孫フセインの「カルバラ殉教」</li> </ol>	
<b>参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
小杉泰著『イスラームとは何か』（講談社現代新書、1994年）		出席率と試験による	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 b)	担当者	藤原 和彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>イスラム教（イスラーム）は西暦7世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン（コーラン）と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒（ムスリム）数は約13億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで57か国に及ぶ。</p> <p>本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、</p> <p>(1) テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』（フランシス・ロビンソン著）の講読</p> <p>(2) イスラム世界のビデオ紹介の2部構成とする。</p> <p>なお、テキストはコピーを配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 シャリーア（イスラム法）は「水場に至る道」</li> <li>2 四法源、コーランとハディース（預言者の言行録）</li> <li>3 イジュマー（合意）とキヤース（類推）</li> <li>4 「五行」（信仰告白、礼拝、喜捨、ラマダン月の断食、メッカ巡礼）</li> <li>5 義務の二範疇、「集団的義務」とメッカ巡礼</li> <li>6 「個人的義務」と「防衛的ジハード」</li> <li>7 伝統的世界観、「イスラムの家」と「戦争の家」</li> <li>8 イスラム教の“聖職者” ウラマーとファキーフ（法学者）</li> <li>9 ホメイニ師のベラヤティ・ファギ（ファキーフによる支配）論</li> <li>10 四法学派とワッハーブ派</li> <li>11 律法主義とスーフイズム（イスラム神秘主義）</li> <li>12 イブン・アラビーの「存在一性論」</li> <li>13 トルコの神秘主義教団、ナクシバンディーヤ</li> </ol>	
<b>参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
小杉泰著『イスラームとは何か』（講談社現代新書、1994年）		出席率と試験による	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(文化史入門)	担当者	古川 堅治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt; グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体现された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 本講義では、古代地中海世界で体现された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象(狭義の文化)とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式(広義の文化)がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに(講義の目的、概要、その他)</li> <li>2 技術文化(その1):動力とエネルギー源 奴隷労働は生産的であったか?</li> <li>3 技術文化(その2):水の供給・処理と農業・牧畜 水道橋にかけるローマ人の執念</li> <li>4 運送手段(その1):船と海上輸送 古代の戦艦「三段櫂船」の脅威</li> <li>5 運送手段(その2):陸上輸送 古代の「一般道」と「高速道路」</li> <li>6 造形芸術:建築と彫刻 アルカイック・スマイルの謎</li> <li>7 文学の世界:叙事詩と演劇 ギリシア文化の普遍性</li> <li>8 宗教と祭祀:神々と人間 ギリシア人は「神話」を信じていたか?</li> <li>9 性愛の諸相(男と女)(その1):同性愛</li> <li>10 性愛の諸相(男と女)(その2):異性愛</li> <li>11 競技的(アゴン)人間類型 理想的人間とは?</li> <li>12 クリエンテラ・パトロネジ関係 「シンポジウム」と親分・子分関係</li> <li>13 まとめ(総括と展望)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。		学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(思想と文化)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>物事を考えることが人間の存在にとってどのような意味を持つのか、人間の存在の意味は何かを探る。この作業の助けとして、ヤスパース、ハイデッガー、フロイト、ユング、ベルグソン、西田幾多郎、西谷啓治、鈴木大拙などの哲学者・思想家の考え方を参考にする。だが、この授業は単に聞くだけのものではない。教師が考えていることを聴講者に投げかけるので、聴講者はそれに対してどのように考えたらいのかの応答を求められる。</p> <p>外国人（特に英語を母国語ないしは理解可能言語とする留学生など）の聴講参加がある場合には、英語によって講義およびディスカッションがなされることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要説明と導入</li> <li>2. ディスカッションのためのグループ分けと最初の問題設定「人間と思索」について</li> <li>3. 「人間の存在」と「自己」との連関</li> <li>4. 「自己」とは何か</li> <li>5. 「私」と「汝」</li> <li>6. 「私」と「汝」に関するグループ・ディスカッション</li> <li>7. 「私」と「汝」に関する全体ディスカッション</li> <li>8. 「人間」とは何か？</li> <li>9. 「人間とは何か」を発する立場について</li> <li>10. 「人間とは何か」の意味はどこに見いだせるか？</li> <li>11. 「人間」は「人間だけ」で人間の存在を正当化できるか？</li> <li>12. 「人間とは何か」に関するグループ・ディスカッション</li> <li>13. 「人間とは何か」に関する全体ディスカッション</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定および試験から最終判定。	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義 (森林地域における風土と生活 a)	担当者	松本 栄次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>熱帯林の生態とその開発の現況を展望し、人間と風土のかかわり合いを地理学的視点から考察する。</p> <p>とくにアマゾン森林で代表される南アメリカの熱帯林を題材として取りあげ、熱帯林生態系の特徴を、気候・土壌・水文条件などさまざまな自然地理的視点から解明する。また、熱帯林の資源としての価値、人為的変化に対する脆弱性などについて考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 熱帯植生の諸タイプ</li> <li>3 世界の熱帯林・南アメリカの熱帯林</li> <li>4 熱帯林の相観的特徴</li> <li>5 熱帯林生態系の物質生産と物質循環</li> <li>6 熱帯林成立の気候・水文環境</li> <li>7 熱帯林成立の土壌環境</li> <li>8 熱帯林のバリエーション(1) 氾濫原林の生態</li> <li>9 熱帯林のバリエーション(2) 白砂植生と貧栄養環境</li> <li>10 熱帯林のバリエーション(3) マングローブ林の生態</li> <li>11 遺伝子資源としての熱帯林 (種の多様性)</li> <li>12 再生の困難な熱帯林</li> <li>13 熱帯林消失と自然環境変化</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
斎藤功ほか編『環境と生態』古今書院、1990年 クリス・C. パーク著・犬井正訳『熱帯雨林の社会経済学』農林統計教会、1994年		定期試験の成績と出席状況を勘案して行う。	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義 (森林地域における風土と生活 b)	担当者	松本 栄次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>熱帯林の生態とその開発の現況を展望し、人間と風土のかかわり合いを地理学的視点から考察する。</p> <p>とくに、現在その開発による環境破壊が世界的関心を引き起こしているアマゾン川流域 (アマゾン) に焦点を当て、熱帯林地帯における人々の生活、開発の歴史、生産活動などについて理解する。また、アマゾン熱帯林の消失要因やその持続的開発の方策について考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 アマゾニアの自然環境</li> <li>2 アマゾニアの居住の歴史</li> <li>3 アマゾニアの先住民文化</li> <li>4 多様な植物資源とその採取活動</li> <li>5 天然ゴム産業の盛衰</li> <li>6 木材生産地としての熱帯林</li> <li>7 アマゾン河口部の自然と生活</li> <li>8 アマゾン中流部の農牧業の展開</li> <li>9 アマゾニアにおける森林消失の進行</li> <li>10 アマゾニア森林の消失要因(1)焼畑</li> <li>11 アマゾニア森林の消失要因(2)農業入植</li> <li>12 アマゾニア森林の消失要因(3)牧場化と大豆栽培</li> <li>13 アマゾニアの持続的開発に向けての努力</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
グールディング他著 (山本・松本訳)『恵みの洪水ーアマゾン沿岸の生態と経済』 同時代社、2001年。		定期試験の成績と出席状況を勘案して行う。	

(春) (春)	地域社会文化論特殊講義 (ブラジル研究)	担当者	矢澤 達宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「ブラジル」と聞いて、何を思い浮かべるであろうか？ サッカー、コーヒー、サンバ、アマゾン、日系人——これらはたしかにブラジルを語るときには欠かせないキーワードではあろう。しかし、これらキーワードを挙げるとき頭のなかで描いているイメージは、それらの実際のありようとの程度まで合致しているであろうか？ また、一般的に流通しているこうしたキーワードでは象徴されてこなかったブラジル社会の横顔には、どのようなものがあるだろうか？</p> <p>ブラジルの社会や文化の様々な側面は、かねてより外部の人々の好奇心を刺激し、それに触れた多くの者たちを魅了してきた。「未来の国」、「人種の楽園」など、これまでに生み出されてきた数々のレッテルがそのことを物語っている。しかし同時に、そこに足を踏み入れ、容易ならざる社会矛盾を目の当たりにして、とまどいを覚えてきた人々もまた少なくない。理想、希望と現実とが交錯し、表裏一体をなすブラジル社会は、多くの人々にとって様々な示唆に富んだ興味深い対象であるに違いない。</p> <p>この授業は、そうしたブラジルの社会・文化のなりたちと現在のありように対する理解を深めてもらうことを目的とするものである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：世界のなかのブラジル</li> <li>2. ブラジル概観：地域的多様性を中心に</li> <li>3. 「ブラジル性」をめぐる議論</li> <li>4. ブラジル史① 植民地支配</li> <li>5. ブラジル史② 国家建設の軌跡</li> <li>6. 多人種社会① 「人種の楽園」という神話</li> <li>7. 多人種社会② 多文化主義へ：黒人をめぐる状況</li> <li>8. 多人種社会③ アフロ・ブラジル文化</li> <li>9. 多人種社会④ 先住民：保護と開発のはざままで</li> <li>10. 多人種社会⑤ 日本人移民：そのアイデンティティ</li> <li>11. こんにちの社会問題：スラムと土地なし民の運動</li> <li>12. 国民文化① サッカー：国民的スポーツへの道</li> <li>13. 国民文化② サンバ：貧民の文化から国民文化へ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005年）を挙げておく。</p>		<p>基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、履修者数によっては、出席やリアクション・ペーパーなど平常点に一定の比重を置く可能性もある。</p>	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	



(春) (春)	地域社会文化論特殊講義(英語圏の文化)	担当者	山本 英政
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>年間、50万人もの移民を受け入れているアメリカ。現在、その総数は3,500万にも達し、総人口の12%も占めている。白人の割合は減る一方で、2050年には5割を切るという。</p> <p>国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワズプ(WASP&lt;White Anglo-Saxon Protestant&gt;)社会を創造した。19世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れた同国は多民族社会へと急速に変貌していったが、ワズプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。</p> <p>冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。</p> <p>近年、叫ばれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながら辿り、この国の文化の特徴を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家建設とワズプ主義</li> <li>2. 工業化と新移民の流入</li> <li>3. 多民族社会の問題</li> <li>4. 異文化と差別</li> <li>5. メルティングポット論</li> <li>6. 冷戦</li> <li>7. ベトナム戦争</li> <li>8. カウンターカルチャー</li> <li>9. カウンターカルチャー</li> <li>10. 映像</li> <li>11. 文化多元論</li> <li>12. アファーマティブアクション</li> <li>13. 多文化主義</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『アメリカナイゼーション』津田幸男、研究社 『多文化主義のアメリカ』油井大三元 東京大学出版		学期末試験と小テスト、自由課題	

(秋) (秋)	地域社会文化論特殊講義(英語圏事情)	担当者	山本 英政
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グローバル化の理想は、多国間の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響下に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。</p> <p>イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない相手国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。</p> <p>反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつづけ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 銃社会アメリカ</li> <li>☆ 西部開拓と先住文化の破壊</li> <li>☆ パワー・ポリティクスと近隣外交</li> <li>☆ ベトナム戦争</li> <li>☆ ベトナム戦争</li> <li>☆ ベトナム戦争</li> <li>☆ 近年の事例 イラク</li> <li>☆ ポップカルチャー 一善なるアメリカの演出</li> <li>☆ ディズニー、ハリウッド</li> <li>☆ アメリカンポップス</li> <li>☆ 映像</li> <li>☆ 味覚の輸出 マクドナルド的なるものとは</li> <li>☆ 議論 どうアメリカに対応するか?</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『グローバル化の文化政治』吉見俊哉 平凡社 『ソフト・パワー』ジョセフ・ナイ 日本経済新聞社 『ベトナム戦記』開高健 朝日新聞社 『アメリカ大統領と戦争』A・シュレジンガー, Jr. 岩波書店		学期末テストと小テスト、自由課題	

(春) (春)	比較文化論特殊講義(日中文化比較論 a)	担当者	嚴 明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義從東亞文化比較的角度，分析日、中兩國文化各方面的異同，探究這些文化差異的表現形式、形成原因以及在當今日、中兩國各種交流中發揮的巨大作用。通過課堂講授、課堂討論以及演習報告，提高學生們對於中國學習的興趣，掌握中國語表達的各種技巧，加強亞州意識，加深對於日中關係的了解，深層次領悟日本、中國社會文化之間共同性及差異性。</p> <p>受講條件：bも履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、日中民族的淵源與發展</li> <li>2、日中佛教及信仰研究</li> <li>3、日中漢字文化比較</li> <li>4、日中社會結構比較</li> <li>5、日中家庭比較</li> <li>6、日中學校教育比較</li> <li>7、日中神話比較</li> <li>8、日中節日祭祀比較</li> <li>9、日中園林比較</li> <li>10、日中服飾比較</li> <li>11、日中城市比較</li> <li>12、日中兩性社會比較</li> <li>13、日中姓名比較</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
自編教科書。参考書：金文學《中國人、日本人、韓國人》，山東人民出版社，2005年版。		評價方法：期末定期試験，平常授業の課題など	

(秋) (秋)	比較文化論特殊講義(日中文化比較論 b)	担当者	嚴 明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義從東亞文化比較的角度，分析日、中兩國文化各方面的異同，探究這些文化差異的表現形式、形成原因以及在當今日、中兩國各種交流中發揮的巨大作用。通過課堂講授、課堂討論以及演習報告，提高學生們對於中國學習的興趣，掌握中國語表達的各種技巧，加強亞州意識，加深對於日中關係的了解，深層次領悟日本、中國社會文化之間共同性及差異性，增強在異文化交流中的各項素質修養。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、日中茶文化比較</li> <li>2、日中料理比較</li> <li>3、日中美術比較</li> <li>4、日中音樂比較</li> <li>5、日中漫画比較</li> <li>6、日中方言比較</li> <li>7、日中成語比較</li> <li>8、日中流行語研究</li> <li>9、日中民間故事比較</li> <li>10、日中古典詩歌比較</li> <li>11、日中小說比較</li> <li>12、日中電影比較</li> <li>13、日中酒文化比較</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
自編教科書。参考書：金文學《中國人、日本人、韓國人》，山東人民出版社，2005年版。		評價方法：期末定期試験，平常授業の課題など	

(春) (春)	比較文化論特殊講義 (グローバル化とローカル文化)	担当者	岡村 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義ではグローバル化とローカル化という現象に注目しながら、異文化を比較すること、さらに、グローバル化がもたらした「文化の融合」あるいは「文化変容」について考える。受講者は本講義をとおして、文化を比較するときの視点がどこに置かれるか、また異文化比較によって生じる問題点や困難な点、比較によって明らかにされる自文化の姿など、あらためて意識してもらいたい。さらに、そこで考えたことをベースに、実際に自分でみつけた事例の異文化比較をし、レポート発表をしてもらう。</p> <p>講義の前半では、それぞれ異なった文化を比較することによって、なにが見えてくるのか、異なった文化を「比較する」ということはどのようなことなのか、そして、異なった文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのかをテーマに講義をする。後半は翻訳可能性をテーマに、具体的な事例（資料映像・記事など）を用いてディスカッションする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション ——異文化を比較すること</li> <li>2. グローバル化するローカル文化（1） ——情報化社会と文化産業</li> <li>3. グローバル化するローカル文化（2） ——文化のオリジナリティ</li> <li>4. 異文化を比較する（1）時間、空間</li> <li>5. 異文化を比較する（2）Japanimation と Disney</li> <li>6. 異文化を比較する（3）未定</li> <li>7. 文化帝国主義と「英語」使用</li> <li>8. オリエンタリズムをめぐって</li> <li>9. 異文化の翻訳「不」可能性について（1）</li> <li>10. 異文化の翻訳「不」可能性について（2）</li> <li>11. 文化変容と異文化の融合（1）</li> <li>12. 文化変容と異文化の融合（2）</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート	

(秋) (秋)	比較文化論特殊講義(地域メディア論)	担当者	岡村 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。</p> <p>本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、こういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。</p> <p>講義のなかで、受講者自身がわたしたちの身の回りの地域メディアを具体的に上げて分析し、その結果を発表する機会をもうけたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. グローバル化とローカルコミュニティ</li> <li>3. 地域・地方文化の復権とメディア</li> <li>4. 各地の地域メディア（1）</li> <li>5. 各地の地域メディア（2）</li> <li>6. 各地の地域メディア（3）</li> <li>7. メディアによる地域文化の創造（1）</li> <li>8. メディアによる地域文化の創造（2）</li> <li>9. 多文化共生と地域メディア（1）</li> <li>10. 多文化共生と地域メディア（2）</li> <li>11. 多文化共生と地域メディア（3）</li> <li>12. 地域メディアとしてのインターネット</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
B.アンダーソン『増補 想像の共同体』NTT 出版 早川編『現代社会理論とメディアの諸相』中央大学出版部 船津衛『地域情報と地域メディア』恒星社厚生閣		出席と発表（履修者多数の場合、レポート）	

(春) (春)	比較文化論特殊講義(日韓比較文化論 b)	担当者	金 熙淑(김 희숙)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国(両地域)の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 書堂と寺子屋</li> <li>2. 三国時代の教育と文化</li> <li>3. 高麗時代の教育と文化</li> <li>4. 朝鮮時代の教育と文化</li> <li>5. 植民地支配の教育政策</li> <li>6. 植民地支配の国語教育</li> <li>7. 日韓生涯教育と社会</li> <li>8. 日韓ジェンダー教育①</li> <li>9. 日韓ジェンダー教育②</li> <li>10. 日韓女性の教育</li> <li>11. 韓国における日本語教育の歴史</li> <li>12. 日本における韓国語教育の歴史</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。</p>		<p>積極的な授業参加を評価する。 課題レポート：講義内容から一つのテーマを選び、レポートを提出する。</p>	

(秋) (秋)	比較文化論特殊講義(日韓比較文化論 a)	担当者	金 熙淑(김 희숙)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。</p> <p>* 参加型授業による人数制限をする。(50名まで) 注意: はじめの授業で討論会のテーマごとにグループ分け、発表担当者を決めるので必ず出席すること。極力1回目の授業から出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日韓比較文化概説 ガイダンス</li> <li>2. 韓日の建国神話</li> <li>3. 韓日の国土構造</li> <li>4. 韓日の祭祀風習</li> <li>5. 韓日の民俗信仰</li> <li>6. 韓日の家族</li> <li>7. 韓日の食文化①</li> <li>8. 韓日の食文化②</li> <li>9. 韓日の住生活</li> <li>10. 韓日の服飾</li> <li>11. 韓日の村落</li> <li>12. 韓日の福祉レジーム</li> <li>13. 日韓比較文化討論会</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。</p>		<p>授業への積極的な参加。自分のテーマを決め、「日韓文化比較」を行い、レポート提出による評価。</p>	

(春) (春)	比較文化論特殊講義（大衆文化論）	担当者	木本 玲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、特に 20 世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製技術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、まず 20 世紀のポピュラー音楽を題材とし、サブカルチャーの社会的な意味を探る。さらに IT 技術の進展に伴う現在の複合メディア環境にも目を向け、そうした環境が導く文化、社会の動態について考察を深めていく。具体的な事例を中心に話を進めるが、講義の軸は社会学である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクション</li> <li>2 20 世紀のサブカルチャー(1)：ロックと対抗文化</li> <li>3 20 世紀のサブカルチャー(2)：ロックの成熟化</li> <li>4 20 世紀のサブカルチャー(3)：ヒップホップ</li> <li>5 20 世紀のサブカルチャー(4)：産業と文化</li> <li>6 サブカルチャーとグローバル化(1)：日本のロック</li> <li>7 サブカルチャーとグローバル化(2)：日本のロック</li> <li>8 サブカルチャーとグローバル化(3)：日本のヒップホップ</li> <li>9 ヤンキー文化とオタク文化(1)</li> <li>10 ヤンキー文化とオタク文化(2)</li> <li>11 複合メディア社会とサブカルチャー(1)</li> <li>12 複合メディア社会とサブカルチャー(2)</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない		期末試験 70%、講義中に課すレポート 30%	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(秋) (秋)	比較文化論特殊講義 (グローバル社会における文化変容)	担当者	田房 由起子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、日本社会で生活する外国人の状況を知ることにより、国際移動によって「異文化」の中で生活する人々の抱える問題やアイデンティティについて理解を深めることである。いくつかのエスニック集団を紹介し、特に子ども達が直面する問題について取り上げたい。また、受け入れ社会側の人々が、国際移動してきた人々についてどのように認識し対応しているかといった点についても検討したい。そして、かれらの状況について理解するために、人の国際移動や、人種、エスニシティに関する理論について紹介する。</p> <p>なお、本講義では受講者が講義内容を理解しやすいように、新聞記事、テレビ番組などの教材を使用する予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 日本における外国人の概況</li> <li>3. 人の国際移動と日本</li> <li>4. 人種とエスニシティ</li> <li>5. 社会的状況：オールドカマー</li> <li>6. 社会的状況：ニューカマー (1)</li> <li>7. 社会的状況：ニューカマー (2)</li> <li>8. 社会的状況：ニューカマー (3)</li> <li>9. 日本で生活する外国人の子どもたち (1)</li> <li>10. 日本で生活する外国人の子どもたち (2)</li> <li>11. 国際移動とアイデンティティ</li> <li>12. 単一民族国家神話と日本人の外国人観</li> <li>13. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特になし。必要に応じてプリントを配布する。参考文献は授業時に紹介する。</p>		<p>出席状況 (2/3 以上、20%)、授業内でのレポート (40%)、期末試験 (40%) により評価。</p>	

(春) (春)	国際関係概論 a	担当者	浦部 浩之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「国際協力」を中心テーマとして講義を進めていきたい。</p> <p>世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はPKO（平和維持活動）やODA（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この2つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。</p> <p>本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的な事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。</p>		<p>I. 国連と平和維持活動（PKO）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国連憲章とPKO</li> <li>2. PKOの原則と変遷</li> <li>3. PKOの具体例：モザンビークの場合</li> <li>4. 日本のPKO協力法</li> </ol> <p>II. 地域紛争と平和協力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 武力紛争と和平交渉：エルサルバドルの場合(1)</li> <li>6. 和平合意と平和維持：エルサルバドルの場合(2)</li> <li>7. 地域紛争とPKO：成果と限界</li> <li>8. 地域紛争終結後の課題</li> </ol> <p>III. 平和協力と開発協力の融合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 政府開発援助（ODA）の理念と枠組み</li> <li>10. 人間の安全保障</li> <li>11. 平和構築と復興支援の模索</li> <li>12. 予防外交と予防開発</li> </ol> <p>13. 授業のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

(秋) (秋)	国際関係概論 b	担当者	浦部 浩之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「南北問題」を中心テーマとして講義を進めていきたい。</p> <p>地球上にいる人間の約8割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約5分の1（約12億人）は1日1ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。</p> <p>本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。</p>		<p>I. 地球環境政治</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地球環境問題と南北対立</li> <li>2. 貧困と環境破壊</li> <li>3. 持続可能な開発の模索</li> <li>4. 地球温暖化（気候変動枠組み条約）と南北関係</li> </ol> <p>II. 南北問題と開発援助</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 第三世界諸国の独立とナショナリズム</li> <li>6. 西側先進国による開発援助戦略</li> <li>7. 石油危機と第三世界の結束</li> <li>8. 南々格差の拡大と新しい開発援助戦略</li> </ol> <p>III. 南北問題の争点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 経済のグローバル化と貧困問題</li> <li>10. 世界の食糧問題</li> <li>11. 世界の水問題と砂漠化問題</li> <li>12. ミレニアム開発目標</li> </ol> <p>13. 授業のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

(春) (春)	国際機構論 a	担当者	鈴木 淳一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的</b> 本講義の目的は、国際組織に対する法的視点を習得することを目的とする。		1 インTRODakション 2 国際組織の概念と歴史 3 国際法の基礎知識 4 国際組織の設立と解散 5 国際組織の国際法上の地位 6 国際組織の国内法上の地位 7 国際組織と加盟国 8 国際組織間の連携・協力 9 国際組織と NGO（民間団体） 10 国際公務員 11 国際組織の意思決定 12 国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 13 まとめ	
<b>講義概要</b> 本講義では、国際組織の国際法上の理論的諸問題を取り上げて検討する。 本講義は、受講生が国際法の知識を有することを必ずしも前提とはしていないが、主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通カリキュラムの国際法や法学部の国際法も受講することを奨励する。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
横田洋三編著『新国際機構論 上』（国際書院）		主として学期末に実施する試験と出席により評価する。	

(秋) (秋)	国際機構論 b	担当者	鈴木 淳一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的</b> 本講義は、国際社会で活躍する国際組織の活動について、基礎的な知識を習得することを目的とする。		1 インTRODakション 2 国際組織と国際法 3 紛争の平和的解決に関わる国際組織（1） 4 紛争の平和的解決に関わる国際組織（2） 5 安全保障に関わる国際組織（1） 6 安全保障に関わる国際組織（2） 7 軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 8 人権・人道・難民問題に関わる国際組織 9 国際貿易・国際金融に関わる国際組織 10 開発援助と南北問題に関わる国際組織 11 教育・文化に関わる国際組織 12 国際保健に関わる国際組織 13 まとめ	
<b>講義概要</b> 国際社会には世界政府は存在しない。しかし、多様な国際組織が国家とともに国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っている。本講義では、国際組織の様々な活動分野を取り上げて、国際組織がそれらの分野で果たしている機能を具体的に説明する。 本講義は多様な国際組織の活動について主に国際法の視点から分析を行うものであるため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行う。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
横田洋三編著『新国際機構論 下』（国際書院）		主として学期末に実施する試験と出席により評価する。	



(春) (春)	地球環境論 a(地理学)	担当者	北崎 幸之助
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、人間の居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、環境問題に対して高い関心のある学生を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション—地理学とは</li> <li>2. 環境の諸要素 (1) 気候環境</li> <li>3. 環境の諸要素 (2) 緯度帯別降水量・蒸発量・気温</li> <li>4. 環境の諸要素 (3) 地形・植生</li> <li>5. 熱帯地域 (1) 熱帯林と伝統的生活様式</li> <li>6. 熱帯地域 (2) 熱帯林の開発と環境問題</li> <li>7. 熱帯地域 (3) 熱帯林の保全</li> <li>8. 沙漠地域 (1) 自然的・文化的特色と伝統的経済活動</li> <li>9. 沙漠地域 (2) 石油資源と近代化、沙漠の開発</li> <li>10. 地中海森林地域の特性</li> <li>11. 地中海地域の生活様式—西欧文化の原点</li> <li>12. 環境問題に対する視点</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山本正三他著 (2004) 『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果 (90%) に、出席状況 (10%) 等を加味して、総合的に評価する。	

(秋) (秋)	地球環境論 b(地理学)	担当者	北崎 幸之助
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、人間の居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地帯、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共存方法について理解を深める。なお、履修に際しては、環境問題に対して高い関心のある学生を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境の諸要素—地形環境</li> <li>2. 温帯草原地域の自然特性</li> <li>3. 温帯草原地域の開発と環境問題</li> <li>4. 温帯混合林地帯 (1) 高密度都市化地域の特性</li> <li>5. 温帯混合林地帯 (2) 産業革命と都市域の拡大</li> <li>6. 亜寒帯森林地域 (1) タイガの中の生活</li> <li>7. 亜寒帯森林地域 (2) タイガの開発と保全</li> <li>8. 山地地域 (1) 山地の自然環境と高度帯の利用</li> <li>9. 山地地域 (2) 山地資源の開発と観光化</li> <li>10. 世界の環境問題 (1) 生態系と人間活動</li> <li>11. 世界の環境問題 (2) 自然環境の破壊</li> <li>12. 世界の環境問題 (3) 環境問題解決にむけた取り組み</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山本正三他著 (2004) 『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果 (90%) に、出席状況 (10%) 等を加味して、総合的に評価する。	

(春) (春)	<b>地球環境論 a (太陽系)</b>	担当者	福井 尚生
<b>講義目的</b>		<b>講義概要</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生(?)・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の<b>起源</b>を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。</li> <li>❖ 『地球環境論 a』(太陽系)では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 <b>The Sun</b> を天文学の立場から学びます。What is the Sun?</li> <li>❖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・<b>実行</b>して下さい。</li> <li>❖ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。</li> <li>❖ 簡単な数学も必要に応じて使います。</li> </ul>			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ (テキスト/配布プリント)・(参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ 主に、<b>試験</b>(授業・配布プリント・宿題から出題)と毎時間提出の<b>評価用紙</b>(宿題・発言)です。</li> </ul>	

(秋) (秋)	<b>地球環境論 b (太陽系)</b>	担当者	福井 尚生
<b>講義目的</b>		<b>講義概要</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう?地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。</li> <li>* 『地球環境論 b』(太陽系)では、『地球環境論 a』の知識を前提に <b>The Solar system</b> (除・太陽)を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。The Solar system = The Sun's family</li> <li>* 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・<b>実行</b>して下さい。</li> <li>* 視聴覚教材を出来るだけ利用します。</li> <li>* 簡単な数学も必要に応じて使います。</li> </ul>			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>* (テキスト/配布プリント)・(参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* 主に、<b>試験</b>(授業・配布プリント・宿題から出題)と毎時間提出の<b>評価用紙</b>(宿題・発言)です。</li> </ul>	

(春) (春)	国際経済論 a	担当者	益山 光央
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際貿易概観</li> <li>2 リカード的比較優位説</li> <li>3 ヘクシャー・オリーン定理</li> <li>4 ヘクシャー・オリーン定理</li> <li>5 国際貿易の一般均衡</li> <li>6 国際貿易の一般均衡</li> <li>7 経済成長と貿易</li> <li>8 国際資本移動と移民</li> <li>9 国際資本移動と移民</li> <li>10 関税・輸入数量制限</li> <li>11 関税・輸入数量制限</li> <li>12 輸入補助金と輸出自主規制</li> <li>13 質問とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		定期試験80%、出席20%	

(秋) (秋)	国際経済論 b	担当者	益山 光央
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。</p> <p>春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際収支と国民所得勘定</li> <li>2 国際収支と国民所得勘定</li> <li>3 外国為替市場</li> <li>4 外国為替市場</li> <li>5 外国為替市場</li> <li>6 固定相場制下の所得決定</li> <li>7 固定相場制下の所得決定</li> <li>8 変動相場制下の所得決定</li> <li>9 変動相場制下の所得決定</li> <li>10 国際収支と財政・金融政策</li> <li>11 国際資本移動と財政・金融政策</li> <li>12 国際資本移動と財政・金融政策</li> <li>13 質問とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
未定		定期試験80%、出席20%	

(春) (春)	国際政治論 a	担当者	星野 昭吉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際政治（世界政治）の現在は著しく日常化し、我々の生存は国際政治の在り方に大きく依存している。我々は、核を中心とする大量破壊兵器問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、などの地球的規模の問題群に直面している。この巨大で、複雑で、流動的で、日常化した国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容過程などをグローバルな安全保障、経済、文化、地球環境破壊などの実態や問題を地球環境財という視点から検討していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際政治学の基本的課題ーグローバル政治の構造ー</li> <li>2 国際政治の構造的変動ー冷戦構造崩壊の意味ー</li> <li>3 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー (1)</li> <li>4 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー (2)</li> <li>5 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー (1)</li> <li>6 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー (2)</li> <li>7 グローバル政治の形成と意義</li> <li>8 世界政治と平和財</li> <li>9 世界政治と安全保障財</li> <li>10 世界政治と人権保障財</li> <li>11 世界政治と貧困・不平等・不正義</li> <li>12 世界政治と環境保全財</li> <li>13 知識財</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
星野昭吉『地球的規模の問題群と地球公共財』同文館（テキスト）		試験、レポート（書評）、出欠状況による総合評価。	

(秋) (秋)	国際政治論 b	担当者	星野 昭吉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今日の我々の生存と日常生活は地球的規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際政治（世界政治）の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性などの検討が要求されている。そこで、そうした国際政治の現実には理論と密接な相互構成関係を形成しているところから、まず、現実と理論との関連の枠組みを明らかにする。その上で、具体的な世界政治の現実としての秩序、権力、経済、規範、イメージ、科学技術を通して、現実と理論との有機的関連性や相互構成性を検討していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 戦後国際政治の現実の基本的枠組みと理論</li> <li>2 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー (1)</li> <li>3 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー (2)</li> <li>4 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー (3)</li> <li>5 世界政治における秩序ー (1)</li> <li>6 世界政治における秩序ー (2)</li> <li>7 世界政治における権力ー (1)</li> <li>8 世界政治における権力ー (2)</li> <li>9 世界政治と世界経済ー (1)</li> <li>10 世界政治と世界経済ー (2)</li> <li>11 世界政治における規範</li> <li>12 世界政治とイメージ</li> <li>13 世界と科学技術革命</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
星野昭吉『世界政治の理論と現実』（アジア大学購部ブックセンター）		試験、レポート、出欠状況による総合評価。	

(春) (春)	国際交流特殊講義（蘭学を学んだ人たち a）	担当者	加藤 僖重
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 日本人と日本の文化を考える基礎となるはずの日本の自然環境を理解することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 生態学的大国と称せられている日本の自然は他国と共通の種類が多数生息している一方、日本独特の生物（固有種）も多数いる。 本講義ではその日本の自然の特色を紹介しながら我々日本人が自然をどう捉えてきたかを、時代をおって説明する。</p> <p><b>履修者の資格</b> 高校レベルの世界歴史、日本史、地理、身近な動植物名等は知っていることを前提といたしますので、それらに疎い学生の登録をお断りいたします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 世界における日本の地理的位置 (基礎的な歴史・地理の試験をします)</li> <li>2 中国から学んだ博物学 1</li> <li>3 中国から学んだ博物学 2</li> <li>4 普遍種（北半球に共通の種類） 1</li> <li>5 普遍種（北半球に共通の種類） 2</li> <li>6 日本の固有種</li> <li>7 産業革命以後の博物学 1</li> <li>8 産業革命以後の博物学 2</li> <li>9 進化論 1 中世の博物学</li> <li>10 進化論 2 ダーウィンの役割</li> <li>11 19世紀は探検の時代</li> <li>12 Plant Hunter の活躍と日本</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		出席重視、小テスト（随時行う）、複数回のレポート提出、期末考査を総合して評価する。	

(秋) (秋)	国際交流特殊講義（蘭学を学んだ人たち b）	担当者	加藤 僖重
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 地球規模で自然をどのように守るために我々はどうすべきかを考える。</p> <p><b>講義概要</b> 日々のニュースの中から、保護に関する出来事を紹介しつつ、学生諸君にも考えてもらう。</p> <p><b>履修者の資格</b> 高校レベルの世界歴史、日本史、地理、身近な動植物名等は知っていることを前提といたしますので、それらに疎い学生の登録をお断りいたします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本に来た欧州人 1（日本の紹介）</li> <li>2 日本に来た欧州人 2（Kaempfer 以前）</li> <li>3 日本にきた欧州人 3（Kaempfer）</li> <li>4 日本に来た欧州人 4（Thunberg）</li> <li>5 江戸時代の科学 1（平賀源内）</li> <li>6 江戸時代の科学 2（化政期の同好会）</li> <li>7 出島に来た博物学者（シーボルト 1）</li> <li>8 出島に来た博物学者（シーボルト 2）</li> <li>9 出島に来た博物学者（ビュルガーほか）</li> <li>10 シーボルトの弟子たち（伊藤圭介）</li> <li>11 シーボルトの弟子たち（大河内存真）</li> <li>12 蘭学者の系譜</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		出席重視、小テスト（随時行う）、複数回のレポート提出、期末考査を総合して評価する。	

(春) (春)	国際交流特殊講義 (国際関係・日米中)	担当者	上村 幸治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>戦争を回避するには、いったいどういう方法がもっとも効果的なのか。平和構築のために何をすべきか――そうした問題意識を持ちながら、国際政治の動きを読み解いていく。</p> <p>冷戦の時代、対立していた米国と中国が突如、日本の頭越しに関係改善を成し遂げたのはなぜか。その背景にあった「勢力均衡論」はいまも有効なのか。</p> <p>日本と中国の国交正常化には、実は隠された複雑な問題が潜んでいた。それはいかなるものだったのか。</p> <p>台湾と中国の戦争の可能性をどう見るべきなのか。世界はなぜ、北朝鮮の核開発を止めることができなかつたのか。国連はどうして、今なお戦争を止めることができないでいるのか。そして、9・11テロの後、世界はどこに向かって進んでいるのか。</p> <p>そうした課題について、具体的なケースを取り上げつつ、分析を加えていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに (なぜ国際関係を考えるのか)</li> <li>2 米中和解の衝撃 (上)</li> <li>3 米中和解の衝撃 (下)</li> <li>4 日中国交正常化 (上)</li> <li>5 日中国交正常化 (下)</li> <li>6 台湾海峡危機 (上)</li> <li>7 台湾海峡危機 (下)</li> <li>8 朝鮮半島クライシス (上)</li> <li>9 朝鮮半島クライシス (下)</li> <li>10 国連と平和維持 (上)</li> <li>11 国連と平和維持 (下)</li> <li>12 9・11とイラク戦争</li> <li>13 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義の中で適宜紹介していく。		出席、レポート、試験など	

(秋) (秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

(秋) (秋)	国際交流特殊講義 (NGO 論)	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。こうした組織は主にNPO/NGOと言われ、非営利、非政府の立場で独自の視点と発想を持って、各地での活動に取り組んでいる。</p> <p>この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。</p> <p>また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）についても詳しく説明する。</p>		<p>①～②「対テロ戦争」と市民社会 I/イラクの現状</p> <p>③～④「対テロ戦争」と市民社会 II/アフガニスタンの現状</p> <p>⑤スーダンの現状とNGOの取り組み</p> <p>⑥NGOによる復興・開発協力の事例（カンボジア）</p> <p>⑦～⑧ 対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶNGOのネットワーク</p> <p>⑨パレスチナ問題を考える</p> <p>⑩アフリカにおけるHIV/AIDSの現状</p> <p>⑪政府開発援助とNGO</p> <p>⑫東アジアのなかの日本と私たち</p> <p>⑬NGOの組織運営と資金</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国際ボランティアセンター著『NGOの選択』めこん 2005年 地雷廃絶日本キャンペーン編『地雷と人間』岩波ブックレット 2003年		評価方法：レポート提出。平常授業の課題など。	

	卒業論文	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>言語文化学科では、卒業論文は必修科目ではないが、学生諸君にはできるだけ履修し、論文を書き上げて提出することを勧めている。</p> <p>なぜなら卒業論文に真摯に取り組んで仕上げることは、物事を論理的に考える姿勢と課題を設定し解答をさぐる能力を養成することになるからである。</p> <p>しかし、諸君の中にはこれを安易にとらえているむきもしばしば見受けられる。卒業論文は1ヶ月や2ヶ月の準備と作業で書き上げられるものではない。担当教員と十分に議論を重ねるとともに指導を受けて、早い時期から取り組む必要がある。</p> <p>諸君の努力に期待する。</p>		<p>執筆指導は、各担当教員の指示に従うこと。</p> <p>提出には、PCの使用が求められる。印刷した論文とデジタルデータを提出すること。</p> <p>提出期限を厳守すること。そのために周到な計画を立てる必要がある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当教員の指示による		学科の申し合わせによる	

	卒業論文	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期参照		春学期参照	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期参照		春学期参照	



**2008年度**

# **外国語学部共通科目シラバス**

**(2003年度以降入学者用)**

学則別表（2003年度以降入学者）

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○本表は、2003年度入学者から適用する。

03年度以降（春）	総合講座（移民、難民、移住労働者——人の移動と文化の変容 I）	担当者	コーディネーター：若森栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>なぜ今日大量の移民、難民、移住労働者が世界中で発生しているのだろうか？彼らはどのような生活を送っているのだろうか？彼らに関する世界の対策はどのようなものなのだろうか？アメリカでは？ヨーロッパでは？日本では？また私たちはどのようにこの問題に向き合っていくべきなのだろうか？</p> <p>彼ら移民、難民、移住労働者たちは困難な状況に置かれているにもかかわらず、新しい、独創的な文化を創造しつつある。それはどのようなものなのか？</p> <p>この講座ではこのような問題を世界的な視野のもとに考えていく。この問題に直接関わっている外部講師の方にも話していただく。学生諸君にこの問題を自分のこととして考えてもらいたいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) グローバリゼーションと人の移動（廣田）</li> <li>2) 外国人児童へのNPO支援活動—草加市の経験から—（築瀬〔草加市国際相談センター〕）</li> <li>3) ビルマ人の語る日本での生活（チンカン〔ビルマ市民フォーラム〕）</li> <li>4) 日本で生活している移住労働者の現状と問題点（鳥井〔移住労働者と連帯する全国ネットワーク〕）</li> <li>5) ヨーロッパ連合（EU）と移民問題（廣田）</li> <li>6) 移民社会オーストラリア（竹田）</li> <li>7) アジア諸国からの移民と出稼ぎ労働者（金子）</li> <li>8) ドイツにおける移民の歴史と現在（増谷）</li> <li>9) 移民はどこから来たか（フランスの場合）（井上）</li> <li>10) 移民、難民、人身取引に関する国際機関の活動（橋本〔国際移住機関〕）</li> <li>11) 教科書のなかの移民、難民、移住労働者（黒田）</li> <li>12) アフリカの「国家」再考—破綻国家と紛争（佐野）</li> <li>13) ドイツの亡命知識人—ベンヤミンとフランクフルト学派（工藤）</li> </ol> <p>なおこのプログラムは細部で変更されることがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義の際、指示する。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回授業の終り 10分を使って講義のまとめを書き、提出する（40%）。</li> <li>2) マークシート方式の学期末試験を行う（60%）。</li> </ol>	

03年以降（秋）	総合講座（移民、難民、移住労働者——人の移動と文化の変容 II）	担当者	コーディネーター：若森栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>なぜ今日大量の移民、難民、移住労働者が世界中で発生しているのだろうか？彼らはどのような生活を送っているのだろうか？彼らに関する世界の対策はどのようなものなのだろうか？アメリカでは？ヨーロッパでは？日本では？また私たちはどのようにこの問題に向き合っていくべきなのだろうか？</p> <p>彼ら移民、難民、移住労働者たちは困難な状況に置かれているにもかかわらず、新しい独創的な文化を創造しつつある。それはどのようなものなのか？</p> <p>この講座ではこのような問題を世界的な視野のもとに考えていく。この問題に直接関わっている外部講師の方にも話していただく。学生諸君にこの問題を自分のこととして考えてもらいたいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 移民国家アメリカの歴史と現状（高橋）</li> <li>2) 合衆国市民をパフォーマンスする（高橋）</li> <li>3) フランス・サルコジ政権の移民政策（井上スズ）</li> <li>4) アフリカ難民はなぜ生まれるのか—国際協力の視点から（JICA 米崎）</li> <li>5) 「アフリカの角」地域の難民・国内避難民（佐野）</li> <li>6) とりの難民と私たち—日本での難民支援の現場から（伴〔難民支援協会〕）</li> <li>7) EU拡大とドイツ労働市場（大重）</li> <li>8) ドイツ移民としてのトルコ人の生活の実際（飯嶋）</li> <li>9) 外国における母語の意識（岡村）</li> <li>10) 移民と文学—アゴタ・クリストフの場合（若森）</li> <li>11) オーストリアにおける移民の歴史と現状（古田）</li> <li>12) Global woman—移民の女性化（上野）</li> <li>13) もうひとつの「グローバリゼーション」（若森）</li> </ol> <p>なおこの授業計画は細部で変更されることがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義の際、指示する。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回授業の終り 10分を使って講義のまとめを書き提出する（40%）。</li> <li>2) マークシート方式の期末試験を行う（60%）。</li> </ol>	

03年度以降（春）	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要と目標、情報科学とは</li> <li>2 データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>3 コンピュータの構成要素</li> <li>4 ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5 オペレーティングシステム（OS） OSの基礎概念、OSの役割と原理</li> <li>6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的</li> <li>7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>9 コンピュータによる言語情報処理技術（１）</li> <li>10 コンピュータによる言語情報処理技術（２）</li> <li>11 機械翻訳システムの演習</li> <li>12 インターネット上の多言語処理技術</li> <li>13 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

03年度以降（春）	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータ・ネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で最低限に必要な情報リテラシー、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータ・ネットワーク(通信)、情報倫理、パソコンの基礎知識についてである。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作</li> <li>2 OSの基礎—OSの目的とアプリケーション、日本語入力とタイピング</li> <li>3 ネットワークシステム</li> <li>4 インターネットの仕組み</li> <li>5 インターネットブラウザ・メール・情報検索</li> <li>6 情報倫理と情報セキュリティ</li> <li>7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定</li> <li>8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成</li> <li>9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用</li> <li>10 レポートの作成—文章校正、長文作成</li> <li>11 パソコンの基礎知識</li> <li>12 情報技術の応用</li> <li>13 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		各担当教員の指定する評価方法に従ってください。	

03年度以降（秋）	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータ・ネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で最低限に必要な情報リテラシー、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータ・ネットワーク(通信)、情報倫理、パソコンの基礎知識についてである。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作</li> <li>2 OSの基礎—OSの目的とアプリケーション、日本語入力とタイピング</li> <li>3 コンピュータ・ネットワーク</li> <li>4 インターネットの仕組み</li> <li>5 インターネットブラウザ・メール・検索</li> <li>6 情報倫理とセキュリティ</li> <li>7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定</li> <li>8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成</li> <li>9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用</li> <li>10 レポートの作成—文章校正、長文作成</li> <li>11 パソコンの基礎知識</li> <li>12 情報技術の応用</li> <li>13 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		各担当教員の指定する評価方法に従ってください。	

03年度以降（春）	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)と、プレゼンテーションソフト(MS-PowerPoint)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 表の作成(文字の入力)、表の編集</li> <li>3 計算式の利用、セルの参照方法</li> <li>4 グラフの作成、装飾、印刷</li> <li>5 関数の利用（1）</li> <li>6 関数の利用（2）</li> <li>7 関数の利用（3）</li> <li>8 データベース機能とデータの処理</li> <li>9 プレゼンテーション作成1－スライドの作成、プレゼンテーション方法</li> <li>10 プレゼンテーション作成2－アニメーションの設定</li> <li>11 プレゼンテーション発表1</li> <li>12 プレゼンテーション発表2</li> <li>13 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（秋）	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)と、プレゼンテーションソフト(MS-PowerPoint)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 表の作成(文字の入力)、表の編集</li> <li>3 計算式の利用、セルの参照方法</li> <li>4 グラフの作成、装飾、印刷</li> <li>5 関数の利用（1）</li> <li>6 関数の利用（2）</li> <li>7 関数の利用（3）</li> <li>8 データベース機能とデータの処理</li> <li>9 プレゼンテーション作成1－スライドの作成、プレゼンテーション方法</li> <li>10 プレゼンテーション作成2－アニメーションの設定</li> <li>11 プレゼンテーション発表1</li> <li>12 プレゼンテーション発表2</li> <li>13 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（春）	情報科学各論（初級・プレゼンテーション）	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、指定されたテーマに従って書籍やインターネット等を用いて情報収集を行い、またプレゼンテーションソフトを使って発表用のスライドを作成する。同時に、ワープロで発表原稿も作成する。その後、実際に発表を行い（聞き手も含む）、プレゼンテーションの経験と技術を積み、ゼミなどの発表で、就職の面接で、そして社会に出てから役立つコミュニケーション技術を習得することを目指す。</p> <p>受講上の注意：<u>ガイダンスには必ず出席すること。</u> 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 プレゼンテーションとは</li> <li>3 プレゼンテーションソフトの基本操作</li> <li>4 課題1</li> <li>5 発表（1-1）</li> <li>6 発表（1-2）</li> <li>7 課題2</li> <li>8 発表（2-1）</li> <li>9 発表（2-2）</li> <li>10 課題3</li> <li>11 発表（3-1）</li> <li>12 発表（3-2）</li> <li>13 まとめ（プレゼンテーションの反省）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と発表（聞き手も含む）で総合評価する。 出席と参加状況は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

03年度以降（秋）	情報科学各論（初級・プレゼンテーション）	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>（春学期同様）</p>		<p>（春学期同様）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（春学期同様）</p>		<p>（春学期同様）</p>	

03年度以降（春）	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この科目は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3 情報の単位と情報通信</li> <li>4 ハイパーテキストと HTML</li> <li>5 インターネットと情報倫理</li> <li>6 ページの構造と HTML</li> <li>7 ホームページの作成－テキスト</li> <li>8 ホームページの作成－イメージ</li> <li>9 ホームページの作成－リンク</li> <li>10 ホームページの作成－テーブル・その他</li> <li>11 ホームページの作成－完成</li> <li>12 ファイルの転送とページの更新</li> <li>13 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（秋）	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この科目は、コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3 情報の単位と情報通信</li> <li>4 ハイパーテキストと HTML</li> <li>5 インターネットと情報倫理</li> <li>6 ページの構造と HTML</li> <li>7 ホームページの作成－テキスト</li> <li>8 ホームページの作成－イメージ</li> <li>9 ホームページの作成－リンク</li> <li>10 ホームページの作成－テーブル・その他</li> <li>11 ホームページの作成－完成</li> <li>12 ファイルの転送とページの更新</li> <li>13 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	



03年度以降（春）	情報科学各論（中級—プレゼンテーション）	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際に2回のプレゼンテーションを行い、経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. Powerpoint の基本操作 1</li> <li>3. Powerpoint の基本操作 2</li> <li>4. Powerpoint の基本操作 3</li> <li>5. 効果的なスライドとは</li> <li>6. プレゼンテーションの注意点</li> <li>7. 第1回プレゼンテーション</li> <li>8. 第1回目プレゼンテーションの評価</li> <li>9. 個人プレゼンテーションへの準備</li> <li>10. 個人プレゼンテーションへの準備</li> <li>11. 個人プレゼンテーション</li> <li>12. 個人プレゼンテーション</li> <li>13. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級—プレゼンテーション）	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際に2回のプレゼンテーションを行い、経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. Powerpoint の基本操作 1</li> <li>3. Powerpoint の基本操作 2</li> <li>4. Powerpoint の基本操作 3</li> <li>5. 効果的なスライドとは</li> <li>6. プレゼンテーションの注意点</li> <li>7. 第1回プレゼンテーション</li> <li>8. 第1回目プレゼンテーションの評価</li> <li>9. 個人プレゼンテーションへの準備</li> <li>10. 個人プレゼンテーションへの準備</li> <li>11. 個人プレゼンテーション</li> <li>12. 個人プレゼンテーション</li> <li>13. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級—万能ツールとしての Excel）	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、表計算ソフトウェアとして知られている Excel の、単なる表計算機能だけではなく、他の様々な便利な機能を紹介していきたいと思っています。</p> <p>Word の作表機能ではなかなか難しい表を作る作表機能や名簿作成、財務計算以外の関数機能、データベース機能という便利な使い方を紹介していきたいと思っています。特に教職を目指している学生の皆さん向けに、成績処理を具体例としてあげていきたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと Excel の概要</li> <li>2. 作表機能を例としての基本操作 1</li> <li>3. 作表機能を例としての基本操作 2</li> <li>4. 作表機能を例としての基本操作 3</li> <li>5. 成績処理を例としての応用操作 1</li> <li>6. 成績処理を例としての応用操作 2</li> <li>7. 成績処理を例としての応用操作 3</li> <li>8. データベース機能 1</li> <li>9. データベース機能 2</li> <li>10. グラフ作成機能</li> <li>11. アンケート処理</li> <li>12. その他の応用例</li> <li>13. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示します。		授業内で紹介した機能を包括的に使用した課題。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級—万能ツールとしての Excel）	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、表計算ソフトウェアとして知られている Excel の、単なる表計算機能だけではなく、他の様々な便利な機能を紹介していきたいと思っています。</p> <p>Word の作表機能ではなかなか難しい表を作る作表機能や名簿作成、財務計算以外の関数機能、データベース機能という便利な使い方を紹介していきたいと思っています。特に教職を目指している学生の皆さん向けに、成績処理を具体例としてあげていきたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと Excel の概要</li> <li>2. 作表機能を例としての基本操作 1</li> <li>3. 作表機能を例としての基本操作 2</li> <li>4. 作表機能を例としての基本操作 3</li> <li>5. 成績処理を例としての応用操作 1</li> <li>6. 成績処理を例としての応用操作 2</li> <li>7. 成績処理を例としての応用操作 3</li> <li>8. データベース機能 1</li> <li>9. データベース機能 2</li> <li>10. グラフ作成機能</li> <li>11. アンケート処理</li> <li>12. その他の応用例</li> <li>13. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示します。		授業内で紹介した機能を包括的に使用した課題。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級－Word を使いこなす）	担当者	工藤 達也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義ではマイクロソフト社の Word を使って、コンピューターライティングの実践を行う。特に文系の学生がレポートや論文を書く際の技術を具体的に学んでいく。</p> <p>もともとこのソフトはレポートや論文を執筆するのに特化したものではなく、我々が行う作業にとっては余分な機能がいくつもある。しかし作表や図像の取り込みなどを用いることによって説得的な文書を作ることが可能であることなど、その長所を生かした上で、あくまで実践的な作業に終始したい。</p> <p>なにぶん一般的な使用方法ではなく、教師独自の強引な使い方(?)をする可能性があるのでは、覚悟してもらいたい。</p>		<p>1回 導入のための説明</p> <p>2回 論文の表紙などの作り方（ワードアートなど）</p> <p>3回 アウトラインに沿った執筆 1</p> <p>4回 アウトラインに沿った執筆 2</p> <p>5回 脚注およびインデント 1</p> <p>6回 脚注およびインデント 2</p> <p>7回 図表の作成 1</p> <p>8回 図表の作成 2</p> <p>9回 図表の導入 1</p> <p>10回 図表の導入 2</p> <p>11回 グラフの導入(エクセルとの連携)</p> <p>12回 グラフの導入(エクセルとの連携)</p> <p>13回 (予備日)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書などは授業開始日に指示する。		出席とレポート	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－Word を使いこなす）	担当者	工藤 達也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じ内容		春学期と同じ内容	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じ		春学期と同じ評価方法	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級－HTML 正しく伝えるために）	担当者	田中 善英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>ホームページは、閲覧者のパソコンによって表示のされ方が大きく異なる。全てのパソコン上で同じように表示されるページを作成することは技術的に不可能である。従ってこの講義では、できるだけ多くのパソコン上で最低限の情報を正しく表示させるための方法論について、実際にホームページを分析したり作成したりしながら考えていく。</p> <p><b>対象者：</b>ホームページの作成方法について、最低限の知識を持っている人を主な対象とする。全く知識がない人でも受講できるが、評価などは他の人と全く同一基準で行うので注意。</p> <p><b>必要なもの：</b>自宅にパソコンがなくても問題ないが、携帯電話向けのサイトを作成するので、ホームページを閲覧することができる携帯電話が必要（通信費は各自負担）。ホームページ作成ソフト類は不要。</p> <p><b>その他詳細：</b> <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> 参照。</p>		<p>(1) ガイダンス  (2) www の仕組み、ファイルの種類と必要なソフト、プラグイン、文字コード、機種依存文字、ブラウザの問題  (3) HTML の基礎の確認(1)  (4) HTML の基礎の確認(2)  (5) 課題①  (6) ディレクトリ構造、様々なリンク設定、フレーム  (7) ナビゲーションとサイト構造  (8) 課題②  (9) ホームページ作成ソフトとその問題点、pdf の利用  (10) css と javascript (1)  (11) css と javascript (2)  (12) 携帯向けサイト  (13) 課題③</p> <p>なお、初回の授業には必ず出席すること。風邪などで出席できなかった場合でも1週目のうちに担当者までメール等で連絡すること。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
主にプリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席点、提出課題、リアクションペーパーによる。定期試験は行わない（卒業再試験も行わない）。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML 美しく見せるために）	担当者	田中 善英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>春学期は最低限の情報を正しく伝える方法を学ぶが、秋学期はそれをふまえて、より美しく見せる方法を学ぶ。</p> <p><b>対象者：</b>春学期と同じ。</p> <p><b>必要なもの：</b>自宅にパソコンがなくても問題ないが、携帯電話向けのサイトを作成するので、ホームページを閲覧することができる携帯電話が必要（通信費もかかる）。ホームページ作成ソフト類は不要。また、秋学期には画像処理を行うので、デジカメまたはカメラ付き携帯電話を持っていることが望ましい。</p> <p><b>その他詳細：</b> <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> 参照。</p>		<p>(1) ガイダンス  (2) レイアウトの基本、フォントの扱い  (3) 色の特性、配色の基本  (4) 課題①  (5) 画像ファイルの特性  (6) 画像処理  (7) アイコン・ロゴの作成  (8) 地図の作成  (9) 課題②  (10) フォトアルバムの作成  (11) javascript の利用  (12) 課題③(1)  (13) 課題③(2)</p> <p>秋学期からの受講も可能だが、春学期に扱った内容については知っているものとして話を進めていくので、各自自習しておくこと（希望すればプリント類を配布、質問にも答える）。また、春学期同様、初回の授業には必ず出席すること。風邪などで出席できなかった場合でも1週目のうちに担当者までメール等で連絡すること。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
主にプリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席点、提出課題、リアクションペーパーによる。定期試験は行わない（卒業再試験も行わない）。	

03年度以降（春）		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論(中級—HTML 応用 1)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： <u>ガイダンスには必ず出席すること。</u> 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTML と FTP の復習（1）</li> <li>3 HTML と FTP の復習（2）</li> <li>4 インタラクティブなページ（HTML と CGI）</li> <li>5 プログラミングの基礎知識</li> <li>6 JavaScript（1）</li> <li>7 JavaScript（2）</li> <li>8 JavaScript（3）</li> <li>9 JavaScript（4）</li> <li>10 CGI の利用</li> <li>11 総合課題（1）</li> <li>12 総合課題（2）</li> <li>13 鑑賞・報告会</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。	

03年度以降（春）		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論(中級—表計算応用 1)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は MS-Excel（表計算ソフト）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel でデータ処理を行う過程において、計算式や関数などを利用するが、毎回同じ一連の操作を繰り返して行う必要性が発生する場合がある。そのような場合、同じ一連の操作内容を記録・登録することで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。この機能を「マクロ」機能という。</p> <p>基本的なマクロの作成を通して、これまで習得してきた Excel の基本操作をスキルアップする、またマクロ機能で自動的に作成される VBA(Visual Basic for Application)の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>初回の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンス</li> <li>2 計算式および関数の復習</li> <li>3 マクロ機能について</li> <li>4 簡単なマクロ（成績処理）の作成と実行（1）</li> <li>5 簡単なマクロ（成績処理）の作成と実行（2）</li> <li>6 第1回目課題の作成</li> <li>7 VBAの基礎（1） コードの入力</li> <li>8 VBAの基礎（2） コード入力で簡単なゲームを作成する</li> <li>9 第2回目課題の作成</li> <li>10 マクロ（テーブル参照）の作成と実行（1）</li> <li>11 マクロ（テーブル参照）の作成と実行（2）</li> <li>12 最終課題の作成（1）</li> <li>13 最終課題の作成（2）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 初回の講義で指示する。</li> <li>(2) 随時必要な資料を配布する。</li> </ol>		授業中に指示する課題（30%）と出席状況（20%）と最終課題（50%）で総合評価を行う。	

03年度以降（春）	情報科学各論（中級－ 自然言語データベース（コーパス）の処理技法入門1）	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【目的】</b> この授業では、言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。</p> <p><b>【概要】</b> コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が生かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかってくるということがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ10は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。 本授業では、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コーパスとは何か</li> <li>3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ</li> <li>4. コンピューターの基本操作: MS Excel</li> <li>5. 高度な Web 検索方法</li> <li>6. British National Corpus (BNC) の紹介</li> <li>7. BNC を利用した語句検索</li> <li>8. BNC を利用した共起検索</li> <li>9. BNC を利用した話し言葉と書き言葉の比較</li> <li>10. 映画コーパスの分析: 口語表現の特徴</li> <li>11. 映画コーパスの分析: ジャンルによる違い</li> <li>12. 映画コーパスの分析: 品詞分析</li> <li>13. 最終レポートの準備</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－ 自然言語データベース（コーパス）の処理技法入門2）	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【目的】</b> 春学期に引き続き、コーパス分析を行うが、今学期は受講生が自らの英語学習あるいは英語分析に必要なと思われるコーパスを作成すること、それをより洗練された方法で分析する知識と方法を身につけることを目的とする。</p> <p><b>【概要】</b> WWW を中心とした膨大な電子データが身近にある昨今、それらはわれわれ英語学習者にとっての非常に有効な reference となり得る。本学期の前半は、受講生個々人が自分専用の参照資料となり得るようなミニ・コーパスの構築を行っていく。コーパスファイルを形成するにあたっての注意点、著作権への留意点を合わせて扱う。 後半は、英語を母語としない人たちの発話（書き言葉を含む）を集めた、いわゆる「学習者コーパス」の分析を行う。そこで、日本人に特徴的な語彙、文法の使用や誤りなどについて取り扱っていく。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「情報科学各論（中級－自然言語データベース（コーパス）の処理技法入門1）」を受講していることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コーパスファイルの特徴</li> <li>3. コーパスの作成（グループワーク）(1)</li> <li>4. コーパスの作成（グループワーク）(2)</li> <li>5. コーパスの作成（グループワーク）(3)</li> <li>6. 自作コーパスの分析: 特徴語彙の抽出</li> <li>7. 自作コーパスの分析: 品詞タグの付与</li> <li>8. 自作コーパスの分析とレポートの準備</li> <li>9. 学習者コーパスとは</li> <li>10. 学習者コーパスの分析: 語彙的特徴</li> <li>11. 学習者コーパスの分析: 文法的特徴</li> <li>12. 学習者コーパスの分析: 特徴的な誤り</li> <li>13. 最終レポートの準備</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03年度以降(春)	情報科学各論 (中級一言葉の特徴をコンピュータで見る1)	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的, 講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</b></p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析(下に続く↓)</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 計算(計算式, 計算式のコピー, セルの相対参照, 絶対参照等)</p> <p>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</p> <p>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</p> <p>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</p> <p>7 Excel 関数のネスト(1)</p> <p>8 Excel 関数のネスト(2)</p> <p>9 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</p> <p>10 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</p> <p>11 データベース上のデータの蓄積方法</p> <p>12 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</p> <p>13 まとめと演習</p>	
<b>テキスト, 参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト, 参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降(秋)	情報科学各論 (中級一言葉の特徴をコンピュータで見る2)	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的, 講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</p> <p>2 Access 上にデータを格納</p> <p>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</p> <p>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</p> <p>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</p> <p>6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習</p> <p>7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</p> <p>8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</p> <p>9 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</p> <p>10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー</p> <p>11 文の長さが意味するものー標準偏差・変動係数</p> <p>12 語彙密度・K 特性値</p> <p>13 まとめと演習</p>	
<b>テキスト, 参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト, 参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	



03年度以降（春）	経済原論 a	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の目的と方法</li> <li>2. 家計の行動①</li> <li>3. 家計の行動②</li> <li>4. 家計の行動③</li> <li>5. 企業の行動①</li> <li>6. 企業の行動②</li> <li>7. 企業の行動③</li> <li>8. 不完全競争の理論</li> <li>9. 市場の理論①</li> <li>10. 市場の理論②</li> <li>11. 厚生経済学の基本定理</li> <li>12. 市場の失敗</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03年度以降（秋）	経済原論 b	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の体系</li> <li>2. 国民所得の諸概念</li> <li>3. 消費と貯蓄の理論</li> <li>4. 投資の理論</li> <li>5. 国民所得決定の理論</li> <li>6. 生産物市場の分析</li> <li>7. 金融市場の分析</li> <li>8. IS-LM 分析</li> <li>9. インフレとデフレ</li> <li>10. 政府債務と財政赤字</li> <li>11. 経済成長論</li> <li>12. 開放マクロ経済</li> <li>13. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

シラバス 言語文化学科

---

2008年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1664



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学 年	氏 名
学科	年	